

太陽光発電システム用 パワーコンディショナ 型式：RPI M50J

施工・保守マニュアル

このマニュアルは、太陽光発電用パワーコンディショナの施工と保守方法について、工事店様向けに説明しています。

施工されるときは、本書をよくお読みいただき正しくお取扱いください。

なお本マニュアルは取扱説明も含んでおりますので、施工後はお客様にお渡しいただき、いつでも利用できるように大切に保管してください。

お客様への取扱説明は 6.1 表示部と 6.2.1 初期画面から 6.2.5 Event log（点検コード履歴）までを参照にご説明ください。



もくじ

1. はじめに	6. パワーコンディショナの ON/OFF	29
ご使用に際してのご承諾事項	6.1 表示部	29
安全上のご注意	6.2 液晶ディスプレイ操作フロー	30
安全上の要点	7. 設備のメンテナンス	
使用上のご注意	7.1 サージ保護装置（SPD）の交換	45
2. 設置と配線	7.2 ヒューズの交換	47
2.1 設置前の注意事項	7.3 ファンの清掃	50
2.2 開梱	7.4 ファンの交換	50
2.3 包装の検査	7.5 吸気口フィルタの清掃	51
2.4 パワーコンディショナのラベル	8. エラーメッセージおよび簡易トラブルシューティング	
3. 製品外観	エラーメッセージと簡易トラブルシューティング	52
3.1 外形寸法図	9. パワーコンディショナの取り外し	
3.2 各部の名称	9.1 取り外し手順	58
4. 設置の説明	10. 技術データ	
4.1 設置場所	10.1 製品仕様	59
4.2 壁掛け作業	付録 ■日本向け設定の方法について■	
5. 配線	1. 画面操作の方法	61
5.1 配線前の準備事項	2. 設定方法	62
5.2 商用電源端の接続	3. 設定手順	64
5.3 直流入力端の接続		
5.4 通信モジュールの接続		

1. はじめに

このたびは太陽光発電用パワーコンディショナ（以下パワーコンディショナ）をお買い上げ頂きまして、誠に有難うございます。この施工・保守マニュアルでは、パワーコンディショナを使用する上で、必要な機能、性能、使用方法などの情報を記載しております。

- ▶パワーコンディショナのご使用に際して下記のことを守ってください。
- ▶パワーコンディショナは電気の知識を有する専門家が扱ってください。
- ▶この施工・保守マニュアルをよくお読みになり、十分にご理解のうえ、正しくご使用ください。
- ▶この施工・保守マニュアルは、いつでも参照できるよう大切に保管ください。

ご使用に際してのご承諾事項

1. 保証内容

①保証期間

本製品の保証期間は、製品保証書の記載年数と致します。

②保証範囲

本製品の保証は、保証期間内において施工・保守マニュアル、本体ラベル等の注意書きによる正常なご使用状態で故障・損傷・不具合が生じた場合、無償でセンドバック方式にて代替品を提供をさせていただきます。

③保証除外事項

保証期間内であっても、次の場合には保証の対象外となります。

- お客様による輸送や移動時での落下または衝突等、取扱いが不適切であったことによる故障・損傷・不具合
- 故意または不適當な維持管理、ご使用上の誤りまたは不適當な修理や改造による故障・損傷・不具合
- 取扱説明書、施工・保守マニュアルの条件を満たさない不適當な設置、または使用上の不注意による故障・損傷・不具合
- 当社または当社で定めた販売店、工事店以外で行った点検、修理、改造による故障・損傷・不具合
- 指定条件を満たさない機器との接続による故障・損傷・不具合
- 接続された機器の異常による故障・損傷・不具合
- 車両、船舶用またはガスエンジン、風力、燃料電池など、太陽光発電システム以外の発電装置との組み合わせによる故障・損傷・不具合
- 性能や構造に影響を及ぼさない経年劣化、または通常使用における自然な機械的磨耗、錆び、カビ、変質、変色、色調の変化、音、振動、キズ、汚れなど
- 火災、爆発、戦争、暴動、投石など外来の事故による故障・損傷・不具合
- 自然災害（落雷、降雹、雪氷、雪害など）や天災事変（地震、落雷、台風、風、噴火、津波など）による故障・損傷・不具合
- 海水が直接かかる場所での設置による故障・損傷・不具合
- 糞害、ねずみ食い、虫食いなどの動物による故障・損傷・不具合
- 保証期間経過後にお申し出があった場合、または故障・損傷・不具合発生後速やかにお申し出がなかった場合
- 販売店との契約書、または竣工検査成績書に未記入箇所や改ざんがある場合
- 故障・損傷・不具合などを原因として損保保険金、損害賠償金を受け取られた場合
- 電気事業法で定められた条件以外で使用環境で使用したことによる故障・損傷・不具合
- お客様または第三者の故意、過失による故障・損傷・不具合
- 当社に事前連絡なく当初設置した場所から移設した場合、または所有者が変更された場合
- 機器内部記録データの損失復旧
- 保証書のご提示がない場合
- SPD、ヒューズの部品代、交換費用、発送費用など

④責任の範囲

保証期間内であっても、次に示す内容は負担いたしません。

- 点検、診断、調査、保守に関する費用
- 本製品の当社への返送にかかる費用
- 本製品の撤去、再設置等にかかる費用
- 本製品を使用できなかったことによる損失
（特別損害、間接損害、機会損失、逸失利益、付随的損害、当社製品以外への損傷等を含む）
- 保証書に示す以外の費用、損失など

2. その他


- ①本製品の保証は、本製品を日本国内でご利用される場合に限り有効となります。
- ②保証書とは別に保証契約が締結されている場合は、そちらが優先されます。
- ③保証書に基づき代替品が供給された場合でも対象製品の保証期間が延長されることはありません。
- ④保証書に基づき代替品が供給された場合、返送された本製品は弊社の所有となります。
- ⑤カタログ・取扱説明書などに記載の商品の仕様および付属品は、改善またはその他の理由により、必要に応じて変更する場合があります。当社お問い合わせ先までご相談のうえ本製品の実際の仕様をご確認ください。

安全上のご注意

■ 安全に使用していただくための表示と意味について ■


この説明書では、パワーコンディショナを安全に使用していただくために、注意事項を次のような表示と記号で示しています。

ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ずお守りください。表示と記号は次のとおりです。



警告


正しい取扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万が一の場合には重傷や死亡に至る恐れがあります。また、同時に重大な物的損害を受ける恐れがあります。




注意

正しい取扱いをしなければ、この危険のために、時に軽傷・中程度の傷害を負ったり、あるいは物的損害を受ける恐れがあります。


■ 図記号の説明 ■




● **必ずアース線を接続せよ**
安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続して接地をとるように指示する表示




● **高温注意**
特定の条件において、高温による傷害の可能性を注意する通告




● **一般的な禁止**
特定しない一般的な禁止の通告



● **一般的な指示**
特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示



● **感電注意**
特定の条件において、感電の可能性を注意する通告



● **分解禁止**
機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告


警告

● 万が一の場合、内部部品の破壊、発火により機能障害や火災が発生する恐れがあります。以下の場所には取り付けないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・次の温湿度範囲以外の場所
温度：-25～60℃
湿度：95%RH以下（ただし、結露の無いこと）
- ・脱衣所、作業場、調理場などの湿気の多いところや、湯気の当たる場所
- ・製品の発熱により周囲温度が60℃を超えると想定される場所
- ・作業場、調理場、換気扇などの油煙が多い場所
- ・温度変化が激しく、内部回路の結露が想定される場所
- ・直接塩水のかかる場所
- ・冷気が直接吹き付ける場所
- ・腐食性ガスや液体に触れる場所（鶏舎・畜舎・化学薬品を取り扱う所等）
- ・天地逆方向、横方向、あるいは水平方向に設置しない。
- ・積雪により、吸気、排気口が塞がれる恐れのある場所に、天面に雪が積もるような場所に設置しない。
- ・屋内に設置する場合は5ページの留意事項の内容に注意し、設置してください。



● 内部部品の焼損、発火による機能障害がまれに起こることがあります。油煙や塵埃が多い場所に取り付けないでください。



● 万が一の場合、結露により内部部品の破壊、破損により機能障害が起こる恐れがあります。湿度の多いところ、湯気の当たるところ、および高温になるところには取り付けないでください。



● 誤配線すると内部部品の破壊、破損、発火、不動作による機能障害が起こります。配線の際には、端子名称および極性を確認して正しく接続してください。



● 配線用部材を同梱のもの、またはマニュアルに指定以外のものを使用すると、不安定な設置状態となり脱落による障害や、端子の焼損による機能障害が稀に発生する恐れがあります。正しいものを使用してください。



● 万が一の場合、内部部品の破壊、発火により機能障害や火災が発生する恐れがあります。

隠蔽配線、露出配線に係らず、ゴキブリやネズミなどが侵入しないように、端子台周辺から穴埋め用パテで配線口や壁面に隙間が発生しないように施工してください。



● 万が一の場合、感電による傷害が起こる恐れがあります。

- ・作業を行なう前に、本体のAC/DCスイッチを"OFF"にしてください。
- ・運転中およびブレーカーOFF後5分間は端子には触らないでください。



● 万が一の場合、感電ややけどによる傷害や機能障害が起こる恐れがあります。

幼児の手が届くところには設置しないでください。



● 万が一の場合、感電による傷害や火災が起こる恐れがあります。分解、改造、または修理をしないでください。



● 万が一の場合、感電による傷害が起こる恐れがあります。

必ずアース線を接続してください。



⚠ 注意



- 壁の強度不足により脱落してけがなどの障害が稀に発生する恐れがあります。
- 質量に十分耐えられる場所に取り付けてください。
- 必要により補強に補強板を使用してください。



- 内部回路の焼損、発火により機能障害が稀に起こる恐れがあります。



- けがなどの障害が稀に起こる恐れがあります。
- 本体取付作業は2人以上で行なってください。



- 屋内に設置する場合、屋間の発電中に発生する高周波ノイズによる騒音があるため、稀に乳幼児や聴覚の敏感な方に不快感を与える可能性があります。居間や寝室などへは設置しないでください。



- 高熱のため稀にやけどの恐れがあります。
- 通電中や電源を切った直後は天井部に触らないでください。
- 電源を切った直後に、SPD やヒューズを交換しないでください。

■ 留意事項 ■

パワーコンディショナを屋内に設置する場合は、以下の点にも注意してください。

また、警告・注意文に記載しているような場所には設置しないでください。

- ▶ 人が容易に触れられる場所には設置しない。
パワーコンディショナは運転中に上部が高温になり、触れると火傷の恐れがあります。上部には簡単に触れられないような場所に設置してください。
- ▶ 電氣的雑音が問題となる場所（ラジオ、テレビなど電波を利用する機器の近傍）には設置しない。
- ▶ 運転音・動作音が問題となる場所には設置しない。
- ▶ 湯気が直接あたるところ、また油煙の多いところには設置しない。
絶縁が悪くなり、火災・感電の危険があります。
- ▶ 高温になる（60℃以上）場所または、閉切った場所に設置しない。
部品が劣化して発煙・発火する恐れがあります。
- ▶ 腐食性ガスや液体に触れる場所（鶏舎・畜舎・化学薬品を取り扱う所等）に設置しない。
部品が劣化して発煙や焼損する恐れがあります。

安全上の要点

以下に示す項目は、安全を確保する上で必要なことですので必ずお守りください。

- (1) パワーコンディショナの各々の面から障害物まで、次の寸法以上を離して取付けてください。
▶前面から70cm・上面から20cm・底面から50cm・左右側面から30cm
- (2) 横にしたり、逆さにしたりして取り付けないでください。
- (3) 複数台を設置する場合、縦に並べて設置しないでください。
- (4) 配線には適切な電線（銅線）を使用してください。
- (5) 廃棄については、産業廃棄物として適切に廃棄処理してください。

使用上の注意

次のような場所には取り付けないでください。

- (1) 直接塩水のかかるところ
- (2) 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有毒ガスのあるところ
- (3) 振動、衝撃の影響が大きいところ
- (4) ラジオ、テレビのような電波の影響の受けやすい機器の近く
- (5) 標高 2000m 以上の場所

保管する場合は、次のような点に注意してください。

- (1) 温度 -30 ~ 60℃、湿度 95%RH 以下で保管してください。（ただし、結露の無いこと）
- (2) 標高 2000m 以下で保管してください。

発電量等の表示データについて

本機は計量法に定める指定機関が行う検定に合格した特定計量器ではありませんので、電力量等の証明には、使用できません。目安としてご利用ください。

設置環境について

特殊な電力系統、あるいは設置環境によって、稀に機器が正常に動作しない場合があります。これらが、懸念される現場への設置については、事前にご相談ください。

2. 設置と配線

2.1 設置前の注意事項

各ユーザーにより使用環境が異なるため、設置前に必ず以下の説明をよくお読みください。

2.2 開梱

パワーコンディショナの開梱手順は、図 2-1 のとおりです。

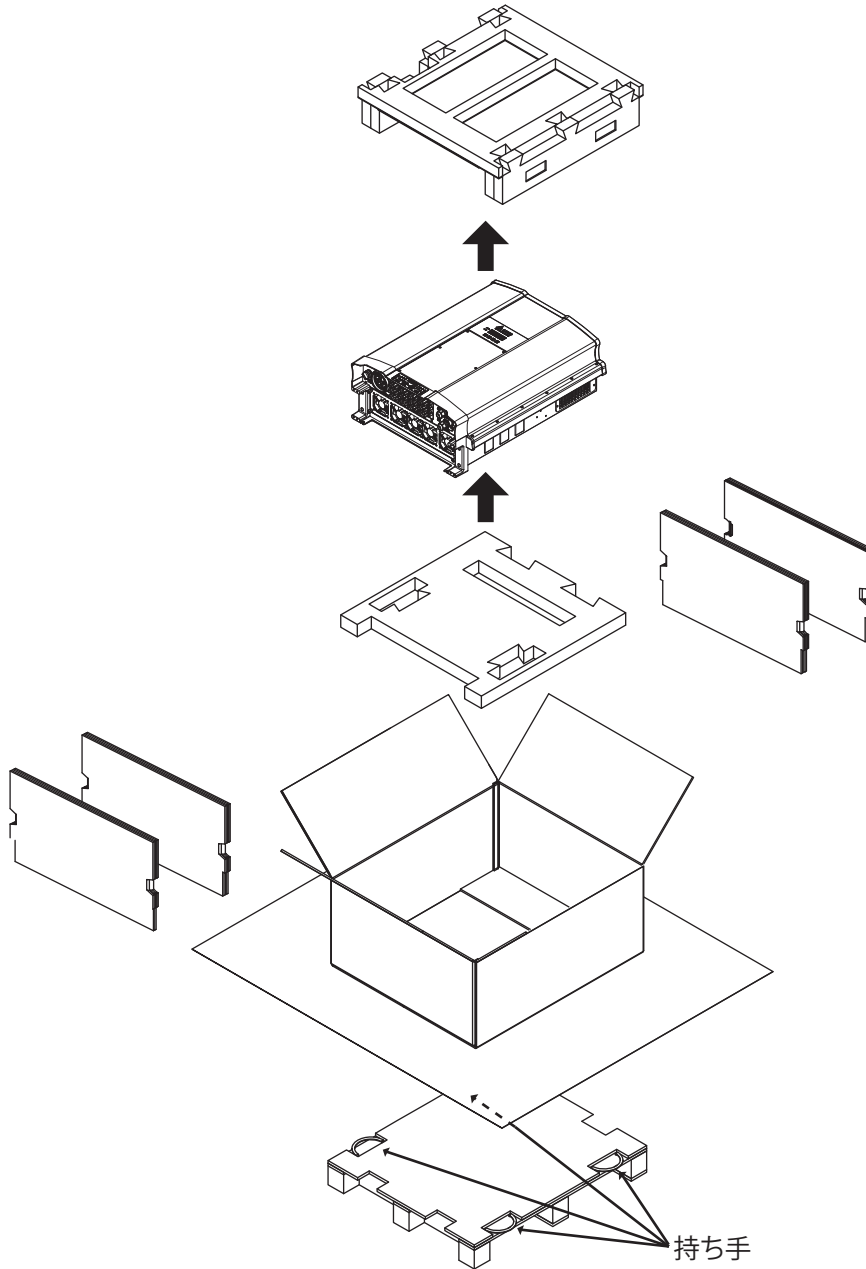


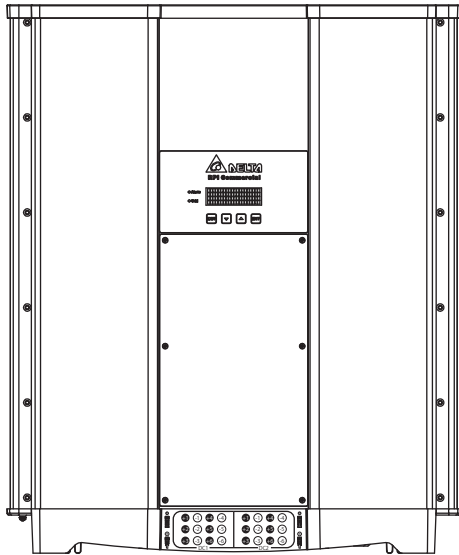
図 2-1 開梱手順

※ 段ボールを含む梱包材一式はメンテナンスや修理などで、当社にパワーコンディショナを輸送するとき
に必要となりますので、大切に保存してください。
修理の際に、これらの梱包材がない場合、梱包材費用が別途必要となります。
予めご注意ください。

2.3 包装の検査

パワーコンディショナを開梱したら、ただちにパワーコンディショナの外觀が完全なことと梱包内容物が揃っていることを検査してください。その検査項目は、以下のとおりです。

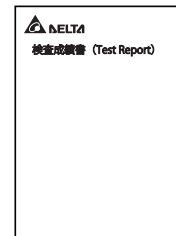
- [1] 本体右下の製品ラベルを検査し、そのパワーコンディショナの型番や容量がご注文のものと一致していることを確認します。
- [2] 付属品が揃っているか検査します。付属品は以下のとおりです。



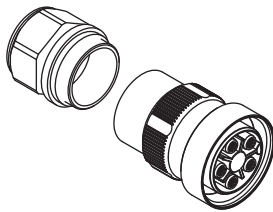
パワーコンディショナ (本体)



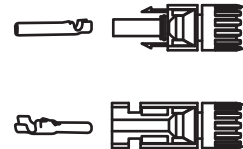
施工・保守マニュアル



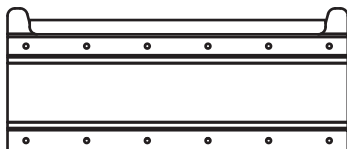
検査成績書



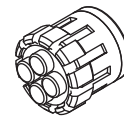
AC プラグ



DC プラグー式



取り付けベース板



通信配線用ゴムパッキン

表 2-1 内容物リスト

品目	数量	機能
パワーコンディショナ	1	パワーコンディショナ (本体)
施工・保守マニュアル (取扱説明書)	1	安全規定、設置手順、製品仕様など
検査成績書	1	
AC プラグ	1	AC 接続用プラグ
DC プラグ一式	12 ペア	太陽電池用プラグ (MC4)
取り付けベース板	1	パワーコンディショナを壁にかけるためのボード (ネジは付属しません。お客様でご用意ください。)
通信配線用ゴムパッキン	1	穴径 ϕ 5mm x 4 個のゴムパッキン

※外部や内部の何らかの破損または付属品の不足や破損を発見されたときは、ただちにパワーコンディショナの販売業者までご連絡ください。

※この製品にはアース線は付属していません。お客様でご用意ください。

※DC プラグを組み立てる際は、MC4 専用の圧着工具をご使用ください。

※取り付けベース板、本体固定金具用のネジは付属していません。お客様でご用意ください。

■必要機材・必要工具 (例)

ニッパー	ペンチ	トルクドライバー	ドライバー
テスター	水平器	絶縁抵抗計	MC4 用圧着工具
MC4 用取り付け工具	六角レンチ ϕ 3mm	電工ナイフ	ケーブルカッター (大/小)

2.4 パワーコンディショナのラベル

パワーコンディショナ本体右下の製品ラベルで、製品の型番、仕様、シリアル番号などを確認できます。具体的なラベルの位置については、以下の図を参照してください。

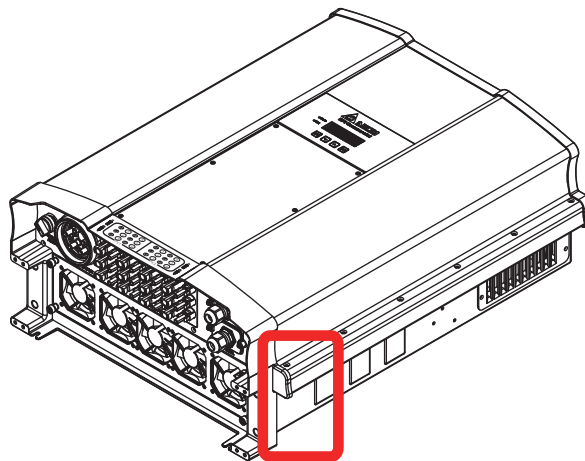


図 2-2 製品ラベル

3. 製品の外観

3.1 外形寸法図

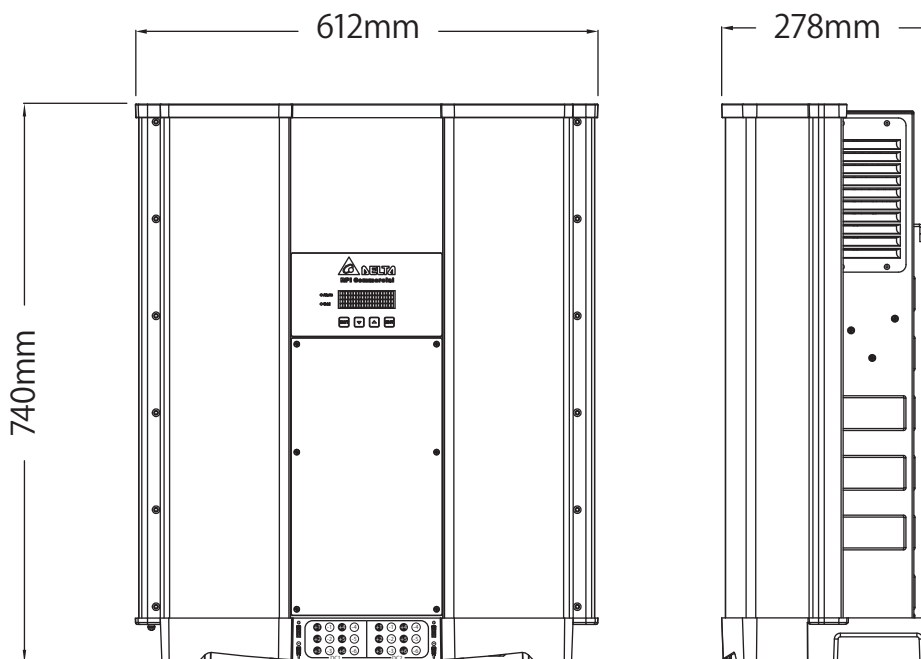


図 3-1 外形寸法図

3.2 各部の名称

パワーコンディショナ全体の外観と機能は図 3-2 のとおりです。細部の説明については 3.2.1 と 3.2.2 を参照してください。

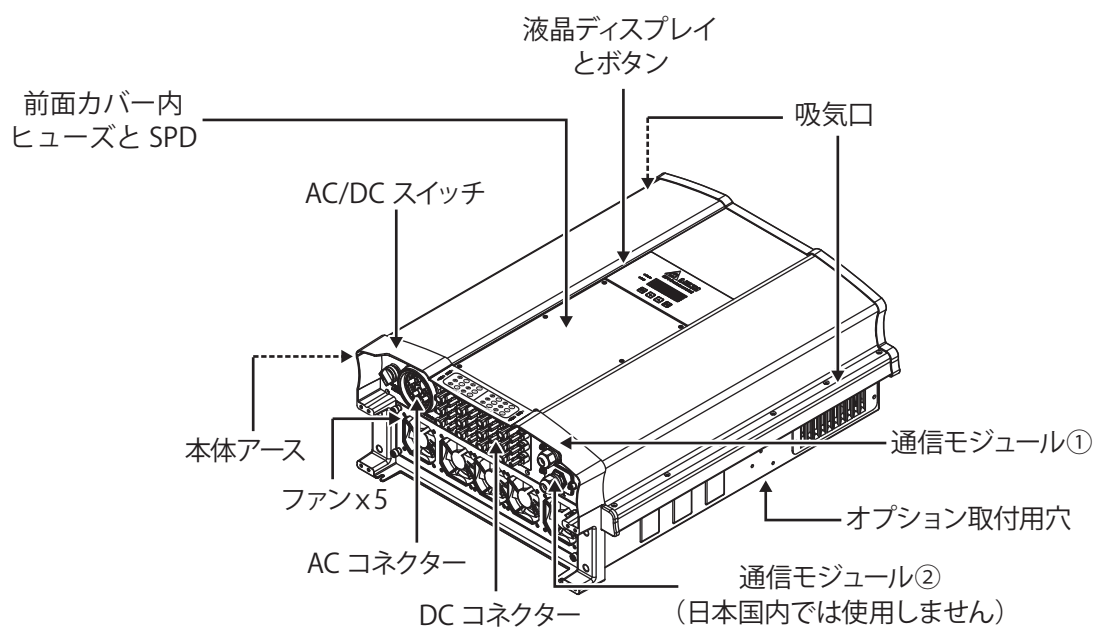


図 3-2 パワーコンディショナの外観・機能イメージ図

3.2.1 液晶ディスプレイとボタン

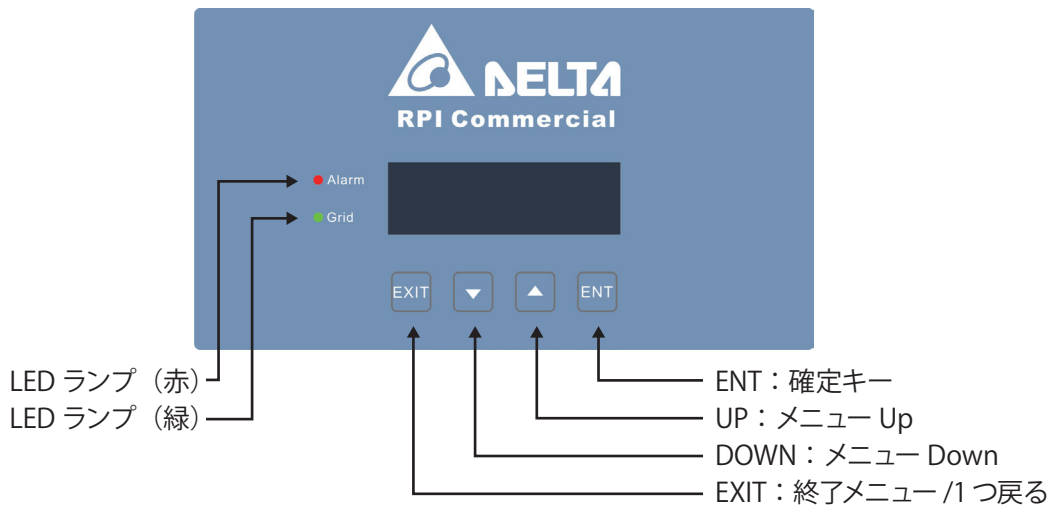


図 3-3 液晶ディスプレイとボタンの説明

3.2.2 ヒューズと SPD

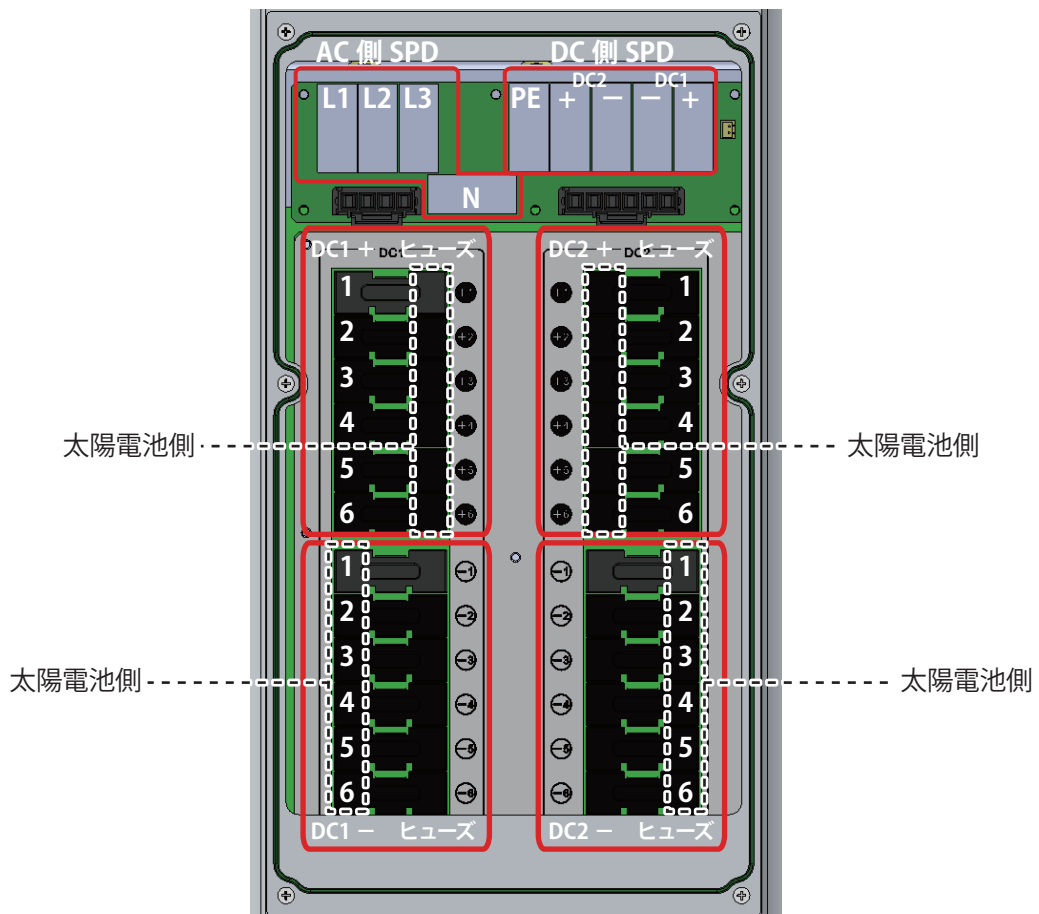


図 3-4 ヒューズと SPD の配置

3.2.2 パワーコンディショナの入出力端子

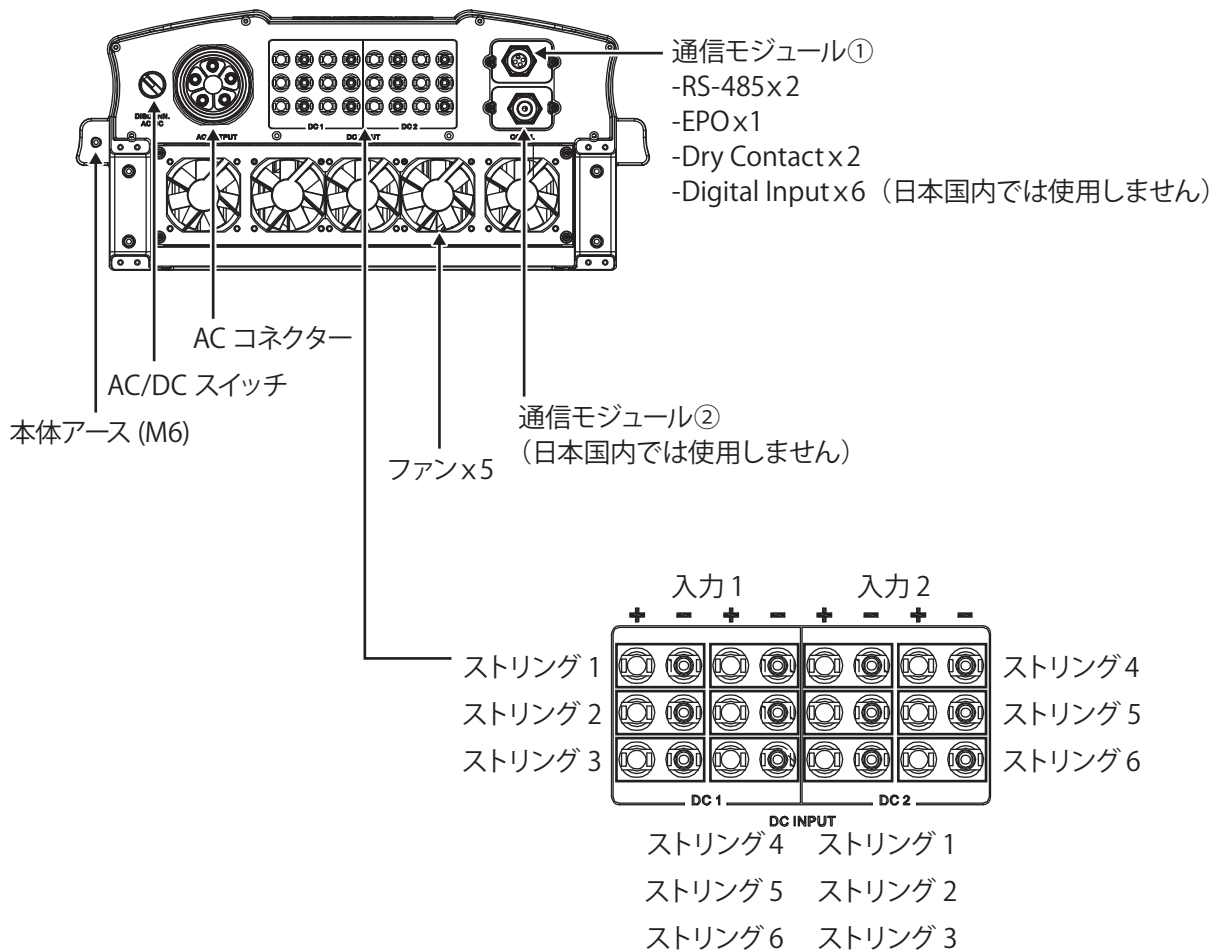


図 3-5 入出力端子

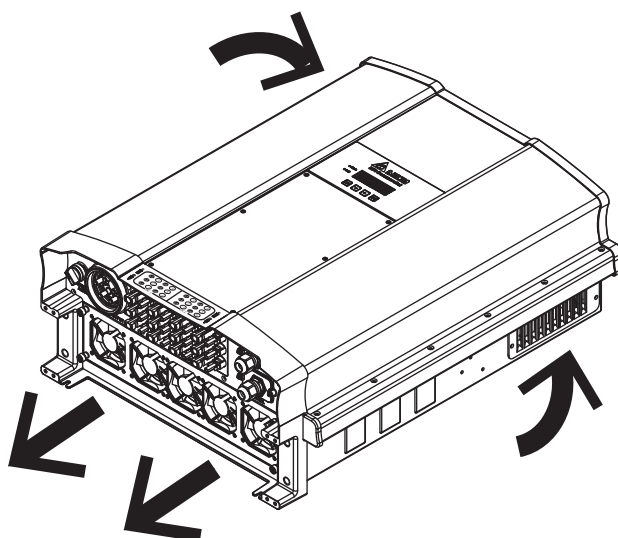


図 3-6 ファンの吸気・排気口イメージ図

4. 設置の説明

4.1 設置場所



- パワーコンディショナを可燃物の付近に設置しないでください。
- パワーコンディショナは丈夫な壁に設置してください。
- 設置要員の安全を確保するため、2名以上で設置を行ってください。
- パワーコンディショナを運搬するとき、パワーコンディショナの下へ人が入らないようにしてください。



- パワーコンディショナを直射日光が当たる場所に設置しないでください。

4.2 壁掛け作業

本機は壁掛け式（取り付けベース板）のシステムです。設置するときは、本体を立てて、AC コネクタを下に向けてください。傾いた壁に設置しないでください。

パワーコンディショナを取り付ける手順は以下に従ってください。

1. M6 プラスネジ 12 個で壁に取り付けベース板を固定します。図 4-1-a、図 4-1-b を参照してください。

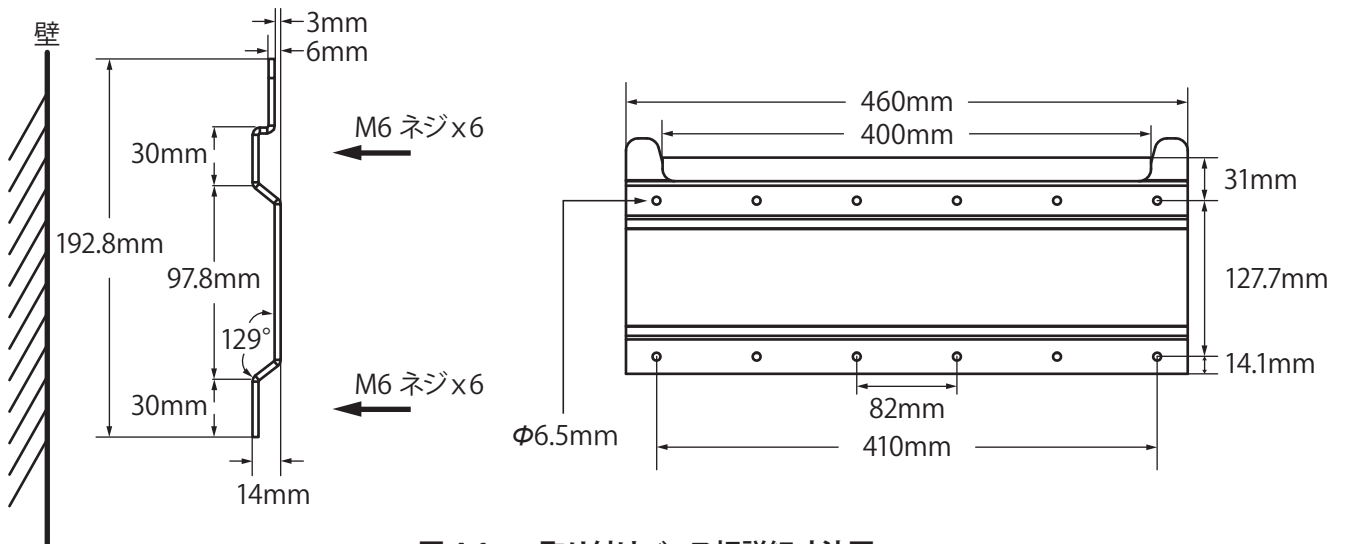


図 4-1-a 取り付けベース板詳細寸法図

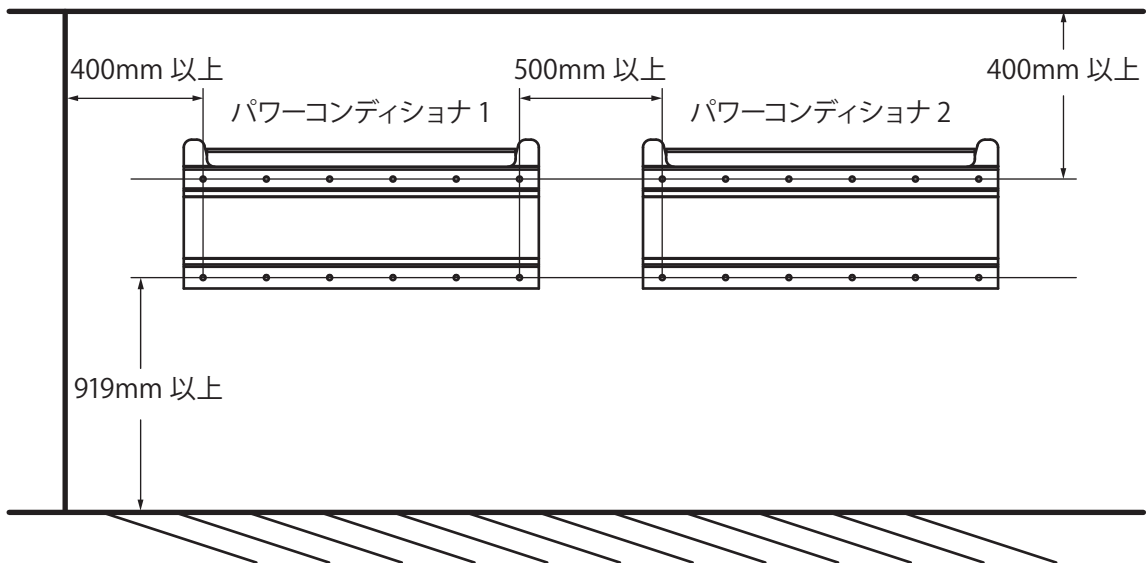


図 4-1-b 取り付けベース板とネジ穴のイメージ図

※ この壁掛け用ボードはパワーコンディショナ RPI M50J のために設計されたものですので、他の用途に使わないでください。

2. 取り付けベース板にパワーコンディショナを取り付けます。図 4-1-c を参照してください。
3. M6 プラスネジ 2 個で壁に取り付けベース板を固定します。図 4-2-d を参照してください。

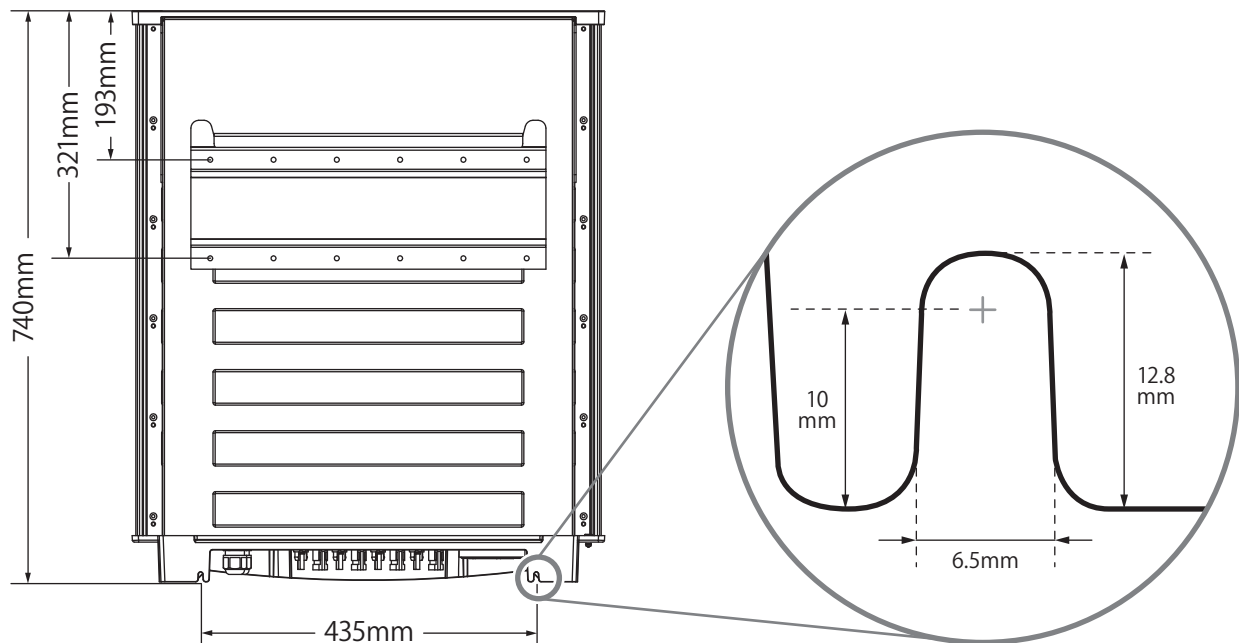


図 4-1-c 取り付けベース板と本体背面図

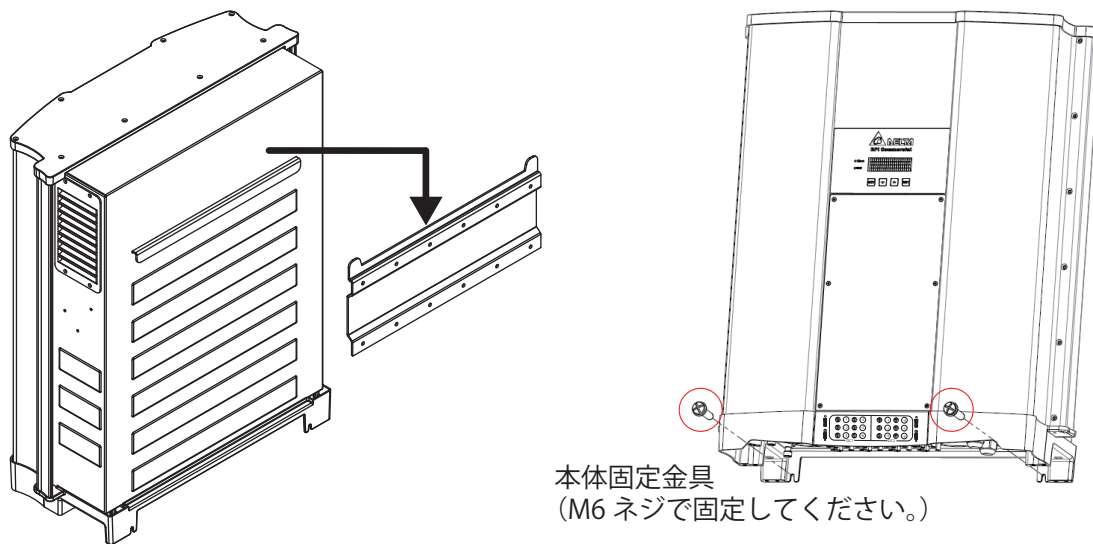


図 4-1-d 取り付けベース板と本体の固定方法

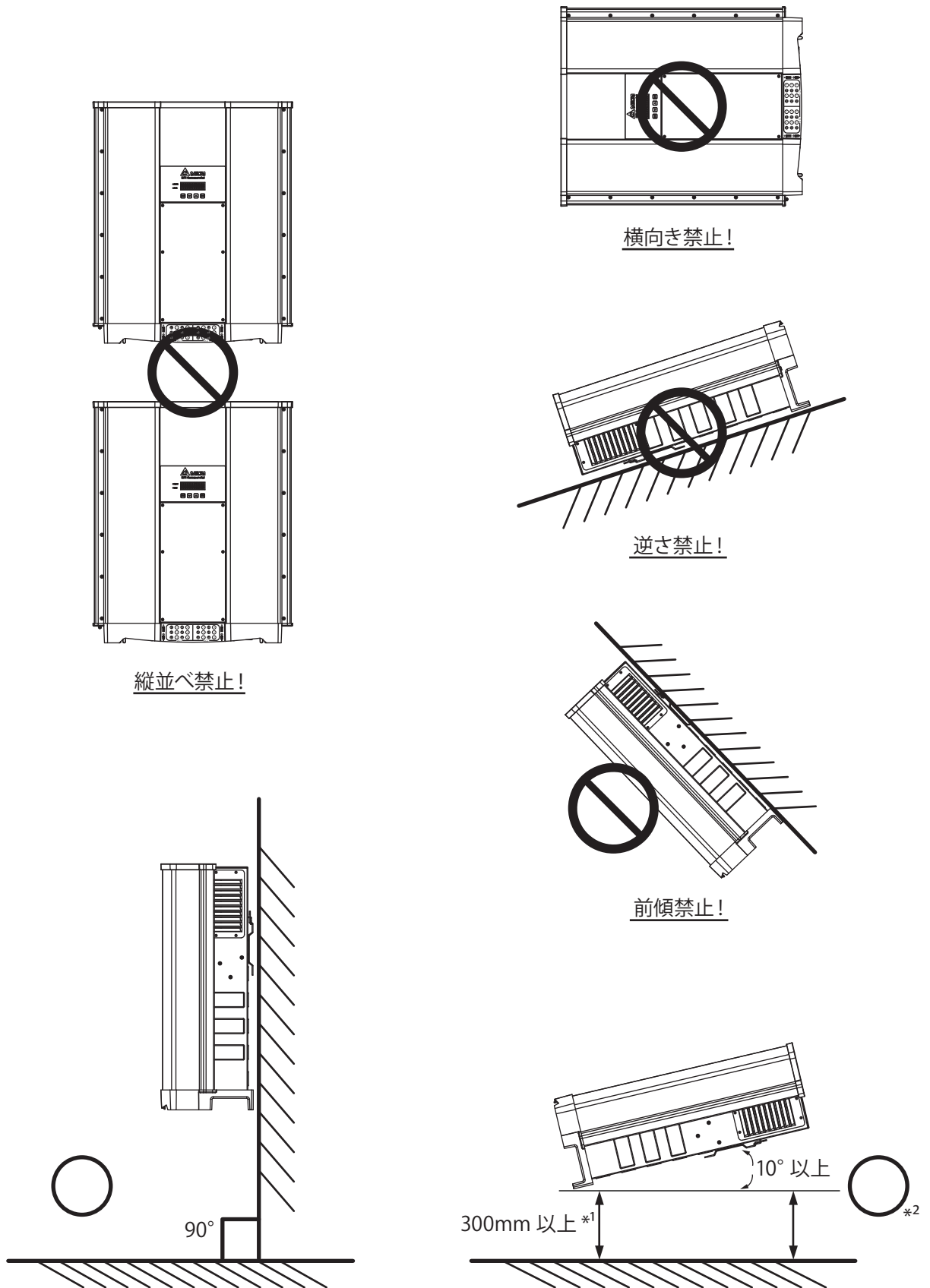


図 4-2 壁への正しい掛け方のイメージ図

*1 300mm 以上離し、表面に水が溜まらないよう傾斜を付けてください。

草、雨水、雪などで吸気口、排気口をふさがないようにしてください。

*2 斜めに設置した場合、垂直設置に比べて温度上昇抑制が発生しやすくなる場合があります。



- パワーコンディショナは必ず丈夫な壁か架台に設置してください。
- その運転状態の観察やパラメーター設定を行いやすい高さで設置してください。
- メンテナンスや点検・修理を行いやすいよう、安全で広い場所に設置してください。
- -25℃から 60℃の環境に設置してください。
- 本製品の運転時には周囲に適切な空間が必要です。図 4-3 を参照してください。
- 太陽電池に日光が当たると電力が発生します。感電の危険を避けるため、配線前に不透明な材料で太陽電池を被覆するとともに、本体の AC/DC スイッチを OFF にしてください。

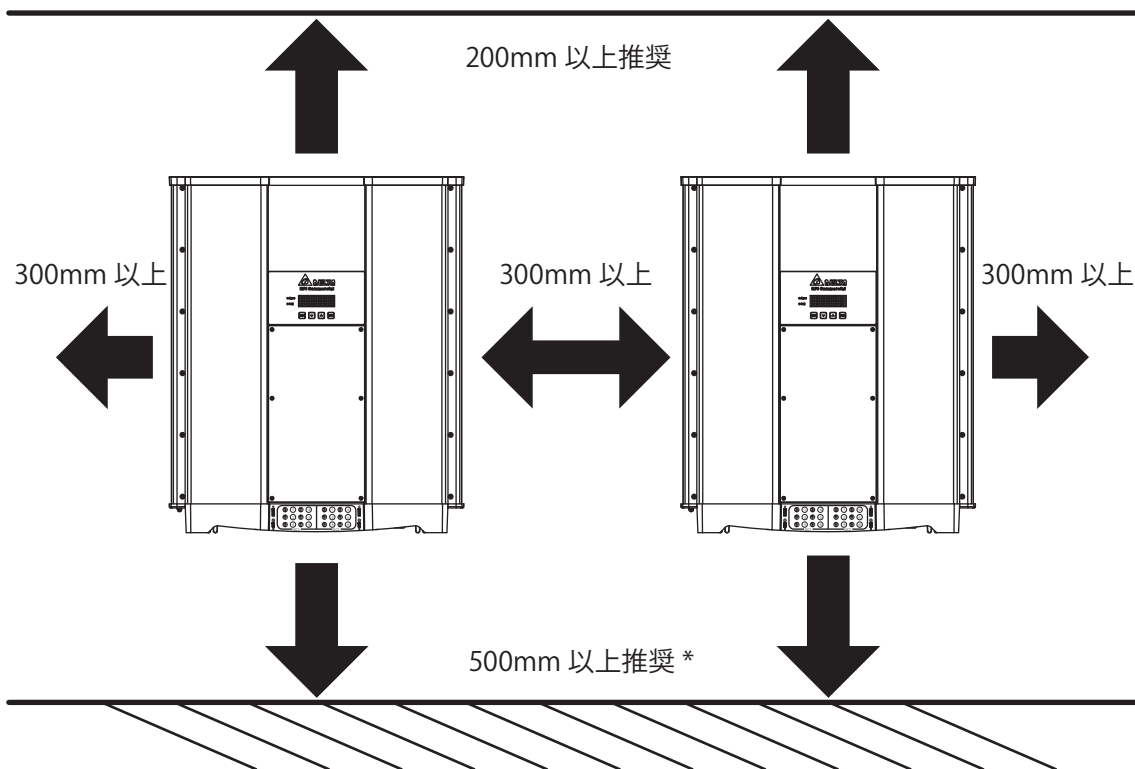


図 4-3 パワーコンディショナ設置の離隔距離

* 底面からの離隔距離については、積雪で本機が埋もれたり、水没、または雑草、ゴミ、障害物等により配線部やファンの機能に影響を及ぼさない高さの確保、もしくは防止措置を行ってください。

5. 配線

5.1 配線前の準備事項

- RPI M50J は、それぞれプラスとマイナスの DC コネクターに 15A の直流ヒューズが使用されています。各ストリングの最大電流は 12A を超えないようにしてください。
- 太陽電池を直接パワーコンディショナに接続することができます。詳細配線は図 5-1 を参照してください。
- * 温度計数を考慮し、 I_{sc} が 12A 以内になるように設計してください。

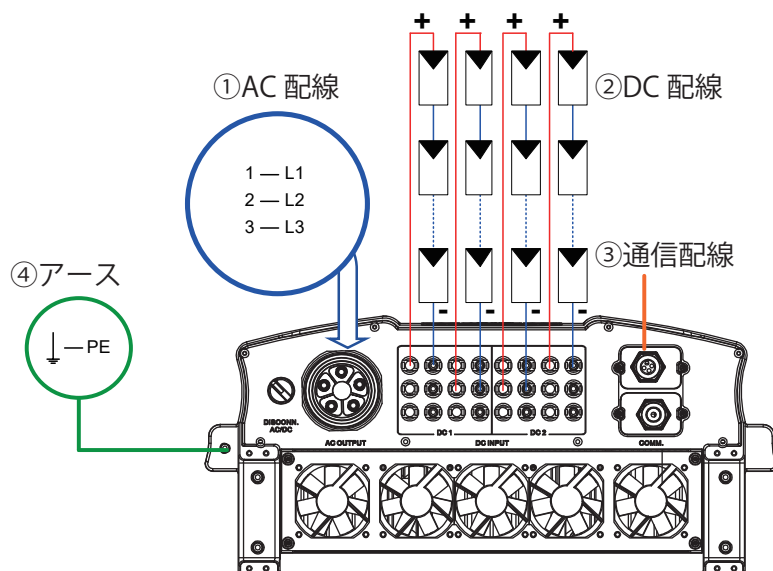


図 5-1 配線方法



太陽電池に日光が当たると電力が発生します。感電の危険を避けるため、配線前に不透明な材料で太陽電池を被覆するとともに、本体の AC/DC スイッチを OFF にしてください。



本機の配線に本体を分解する必要はありません。本体を分解すると防水性が損なわれ、感電や火災が起こる恐れがあります。

5.2 AC（商用電源端）の接続：三相3線式



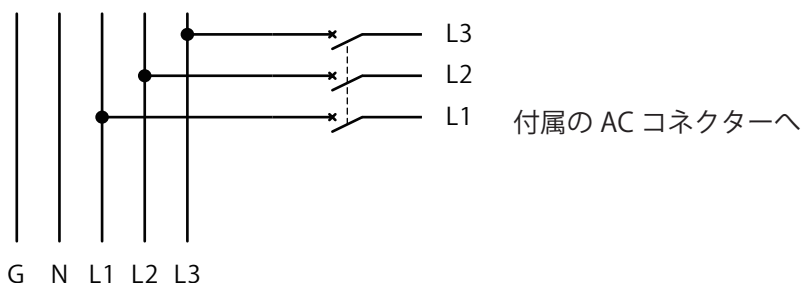
配線作業を行う前に必ず商用電源のスイッチと本体の AC/DC スイッチを切ってください。

5.2.1 保護装置と AC 配線図

商用電源とパワーコンディショナの間にはブレーカーを取り付け、過電流保護を図ることを推奨します。下表の仕様を参照しながら、適切なブレーカーを選定してください。

表 5-1 推奨する保護装置

型式	推奨するブレーカーの仕様
RPI M50J	100A

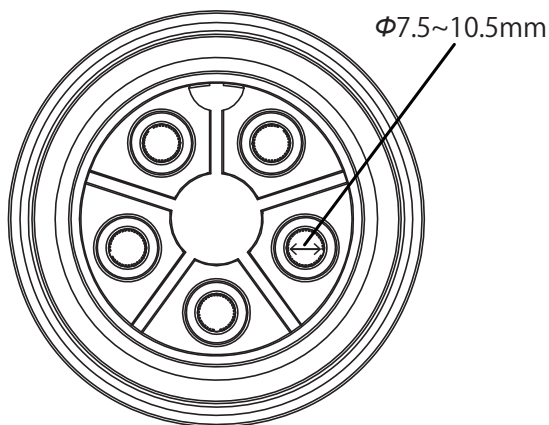


下表の仕様を参照しながら適切な AC 側接続ケーブルを選定してください。

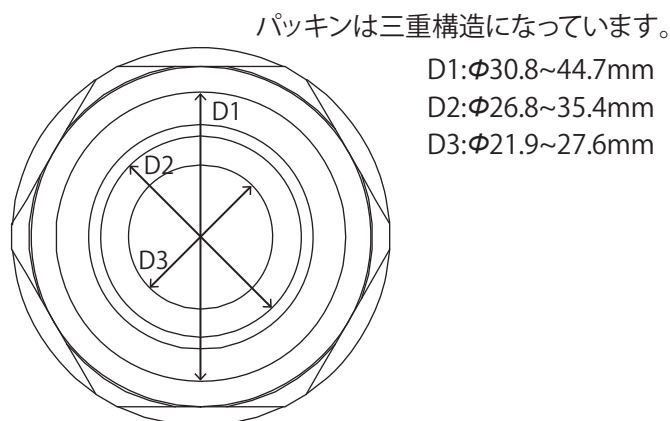
表 5-2 AC プラグの線径

型式	定格電流	線径	トルク値	耐温性
RPI M50J	100A	38mm ² (シース外径 25mm)	3N・m	UL10070 の基準に適合

AC プラグは、下記のような線径とシース径に対応できます。



AC プラグ内部



パッキンは三重構造になっています。

D1: ϕ 30.8~44.7mm

D2: ϕ 26.8~35.4mm

D3: ϕ 21.9~27.6mm

AC プラグ背面

M50J が三相3線式 (3phase+PE) と三相4線式 (3phase+N+PE) で接続することができます。本機は、三相3線式で接続してください。PE は接続せず、本体アースを使ってください。

注意！機械・設備を損傷させる可能性があります。

- AC ケーブルは適切なサイズを使用してください。
- AC ケーブルは CV ケーブル (銅線) を使用してください。(CVT ケーブルは使用不可)
- 指示通りにしなければ AC コネクターを傷つける可能性があります。
- ケーブルは日本の規格に準拠したものを使用してください。
- マニュアルと電気技術基準に相違点があれば、電気技術基準に従ってください。

AC コネクターを取り付ける前に、以下の手順で接続ケーブルのシースを剥ぎ取ってください。

- [1] 接続ケーブルの外部シースを $95 \begin{smallmatrix} +0 \\ -5 \end{smallmatrix}$ mm にわたり剥ぎ取ります。
- [2] 内部線材のシースをすべて 22 ± 2 mm にわたり剥ぎ取ります。
- [3] AC プラグを差し込む前にケーブルの先頭から約 40mm の位置で曲げ、プラグの穴に銅線をまっすぐ入れるようにします。

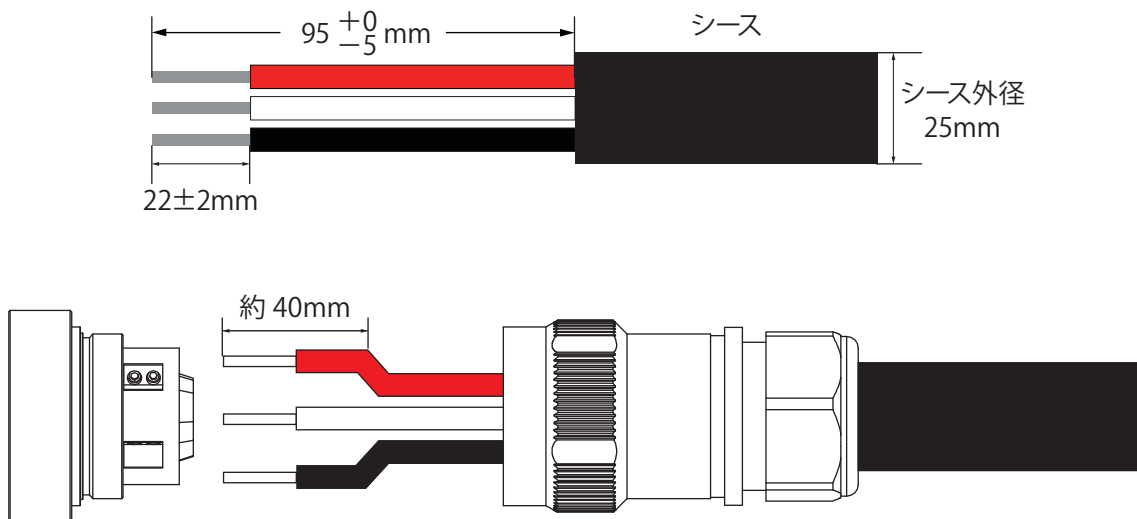


図 5-2 AC ケーブルのシース剥ぎ取り

完了したら、図 5-4 を参考し、20 ~ 22 ページの手順で、AC コネクターを取り付けてください。本製品は正相順と逆相順のどちらの配線にも対応できます。つまり、L1、L2、L3 の順序を任意に調整できます。AC プラグの締付けトルクは、ケーブルのシース径によって異なります。表 5-3 を参考にシース径に合わせて指定の締付けトルクで締めてください。なお、隙間のサイズは参考値です。

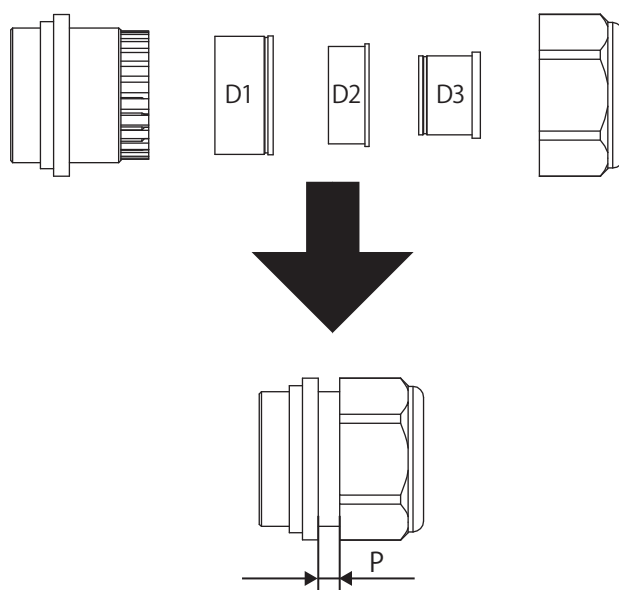


図 5-3

表 5-3 パッキンと締付けトルク

パッキン	シース径 (mm)	締付けトルク (N・m)	隙間 P (mm)
D1	30.8 ~ 44.7	6.5 ~ 20	1 ~ 7.5
D2	26.8 ~ 35.4	11 ~ 17	1 ~ 6
D3	21.9 ~ 27.6	13 ~ 14	1 ~ 3.5
D3 (38 mm ²)	25	12	3.5

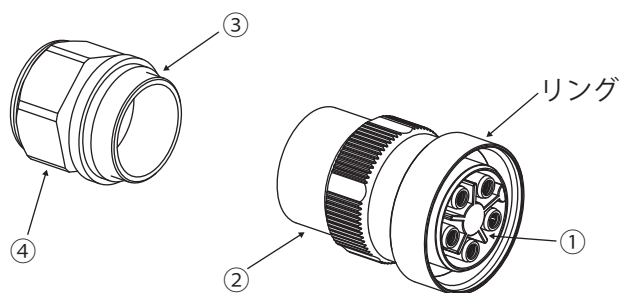
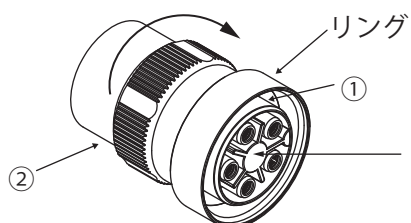


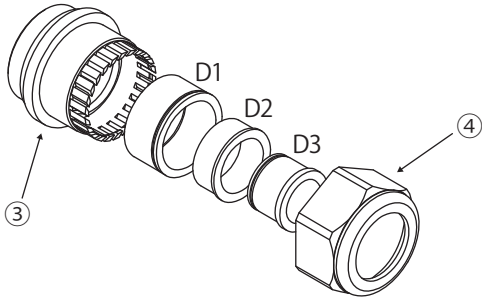
図 5-4 AC プラグ

1. ①の先端を固定し、②を回し分解します。



パワーコンディショナの
AC 入力端子に固定すると
外しやすくなります。

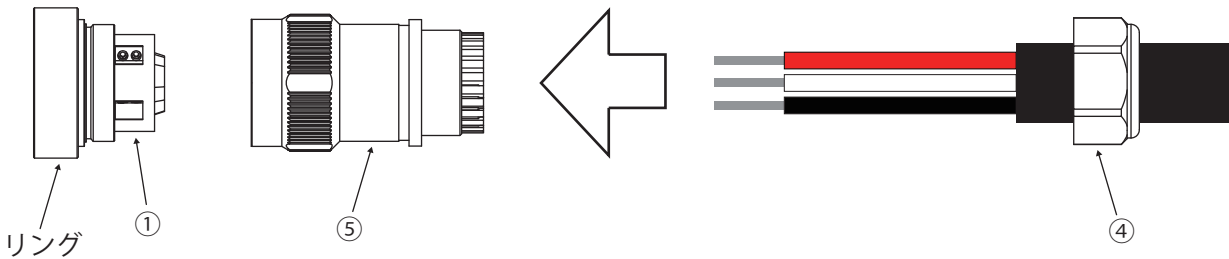
2. ③と④を外し、適切なパッキンを選択します。



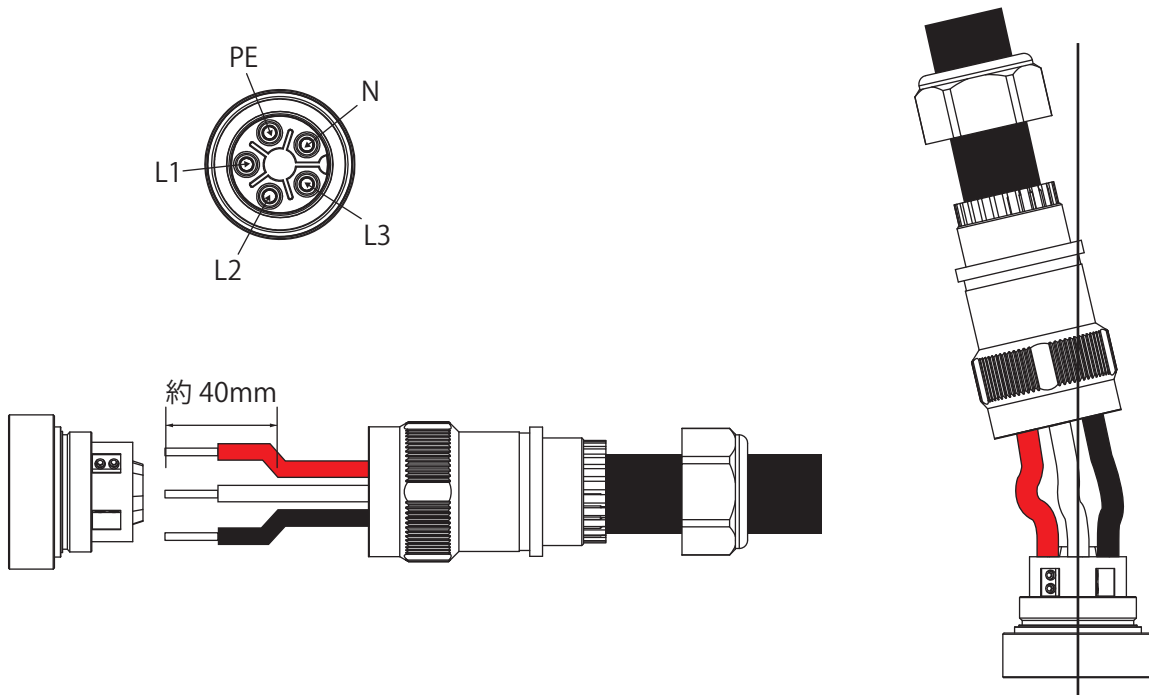
3. ③とパッキンを②に取り付けます。



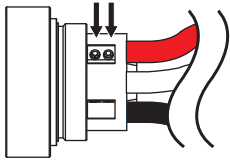
4. ケーブルを④に挿入し⑤に挿入します。



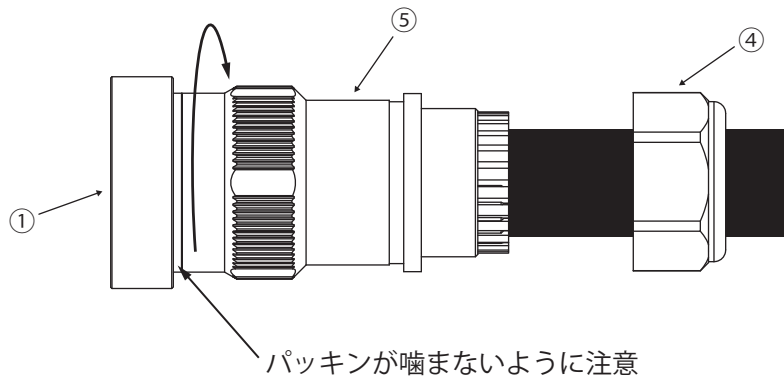
5. 銅線部がプラグの穴にまっすぐ刺さるように、ケーブルを頭から約 40 mm の部分で曲げます。このとき、シースがプラグの中心になるように曲げを調整してください。



6. しっかり奥までケーブルを挿し込んだら六角レンチ（ $\phi 3$ mm）でケーブルを固定してください。
（締付けトルク $3\text{N}\cdot\text{m}$ ）

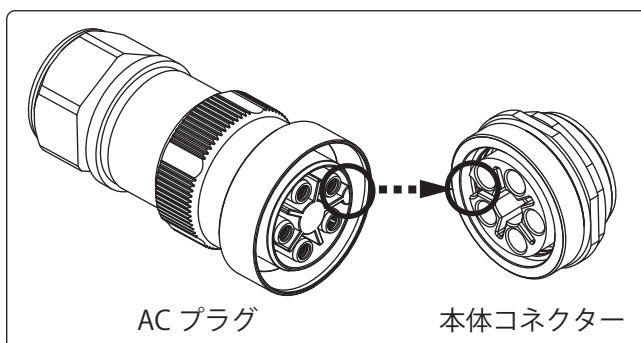
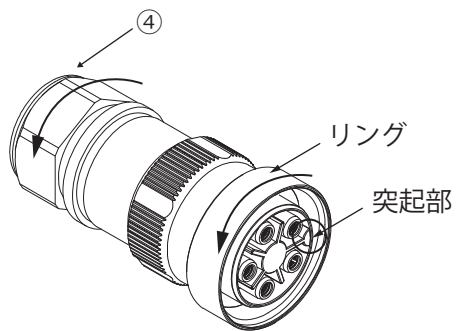


7. AC プラグ①の先端を固定しながら、ケース⑤を回し取り付けます。
このとき、ケーブルを持ってケースを締めないでください。



8. 表 5-3 を参照にプラグ後部④を締めます。
例： 38mm^2 CV ケーブルの場合、シース径が $\phi 25$ mm なら、 $12\text{N}\cdot\text{m}$ で締めてください。

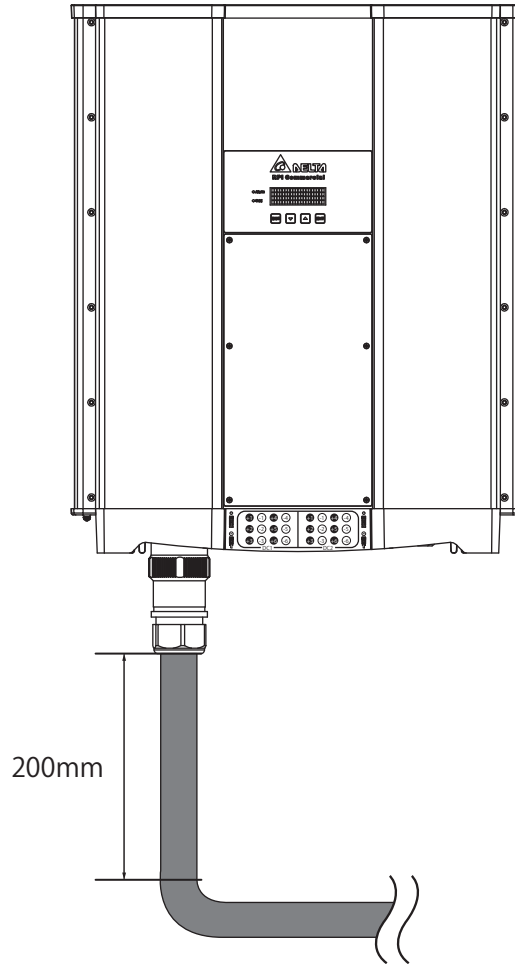
本体コネクタとプラグの突起部を合わせながら本体に差し込み、リングを締めてください。本体とプラグが正しく取付られていることを確認してください。





ケーブルの曲げ位置について

AC プラグに接続されたケーブルは、プラグ後部から約 200 mm までは、曲げないでください。ケーブルにテンションが掛かり、ケーブルが抜ける場合があります。



配線が完了したら、液晶ディスプレイで AC 配線方式を選択する必要があります。設定方法については 6.2.8 「Install Settings」の「AC connection」を参照してください。

パワーコンディショナに接続する AC の電圧は、必ず下記の規定に適合させてください。

三相 3 線式

L1-L2: 400 Vac \pm 10%

L1-L3: 400 Vac \pm 10%

L2-L3: 400 Vac \pm 10%

三相 3 線式

L1-L2: 420 Vac \pm 10%

L1-L3: 420 Vac \pm 10%

L2-L3: 420 Vac \pm 10%

三相 3 線式

L1-L2: 440 Vac \pm 10%

L1-L3: 440 Vac \pm 10%

L2-L3: 440 Vac \pm 10%

5.3 直流入力端（ソーラーパネル電源端）の接続



- DC 側の配線時には、適切な線径を選定するとともに、正しい極性で接続してください。
- DC 側のコネクタを組み立てには、MC4 用の圧着工具を使ってください。
- DC 側の配線時には、感電を防ぐため、まず太陽電池に遮光シートをかぶせて作業してください。
- 入力1に接続されているストリングは、直列接続太陽電池の数、公称開放電圧を一致させる必要があります。
- 入力2に接続されているストリングは、直列接続太陽電池の数、公称開放電圧を一致させる必要があります。
- 直列接続後の公称開放電圧（Voc）はDC1000V以下にしてください。
- 太陽電池とパワーコンディショナの間に取り付ける接続装置では、定格電圧が太陽電池の公称開放電圧を超え、定格電流が太陽電池の短絡電流を超えるようにしてください。
- パワーコンディショナに入力される最大電力は、表 5-4 の基準以下としてください。
- 使用しない DC コネクタはキャップをした状態でテーピングをしてください。
- 連系するには、入力1と入力2の両方を接続する必要があります。

表 5-4 総入力電力

型式	総入力電力※	入力1もしくは、入力2
RPI M50J	52.0kW（力率：1）	35.0kW

※数値は推奨です。パネルを過積載する場合は、Voc、Isc、温度係数を考慮してください。

表 5-5 DC コネクタの線径

型式	定格電流	線径
RPI M50J	DC 15A	3.5 ~ 6mm ²

DC 配線の極性は、図 5-5 のとおり正極と負極に分かれます。設置前には、必ず配線の極性がパワーコンディショナの表示と一致しているか確認してください。

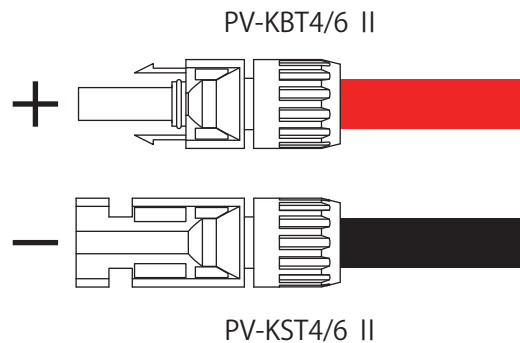


図 5-5 DC 配線端子



- 誤配線すると内部部品の破壊、破損、発火、不動作による機能障害が起こります。配線の際には、端子名称および極性を確認して正しく接続してください。
- 配線用部材を同梱のもの、またはマニュアルに指定以外のものを使用すると、不安定な設置状態となり脱落による障害や、端子の焼損による機能障害が稀に発生する恐れがあります。正しいものを使用してください。

5.4 通信モジュールの接続

RPI M50J の通信モジュールには、端子台 (VCC、GND、RS-485×2)、非常停止入力信号 (EPO)、終端スイッチ、無電圧接点 (Dry Contact×2) デジタル入力端子 (×6) が搭載されています。通信モジュール各部の機能は、図 5-6 のとおりです。

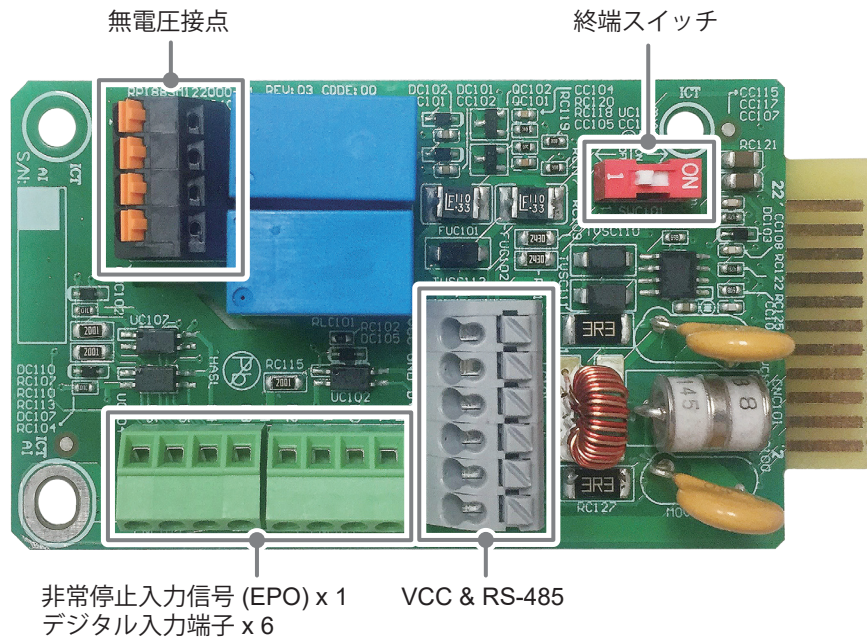


図 5-6 取り外した通信モジュールのイメージ図

表 5-6 通信モジュールの仕様

端子台	非常停止入力信号 (EPO)	終端スイッチ	無電圧接点 (Dry Contact)	デジタル入力端子
1	1	1	2	6

5.4.1 通信モジュールの外し方

- ネジ 2 本を緩め、引き抜くと通信モジュールが外れます。
※ 通信モジュールを外すときは、AC 側ブレーカーと DC スイッチを切ってから行ってください。

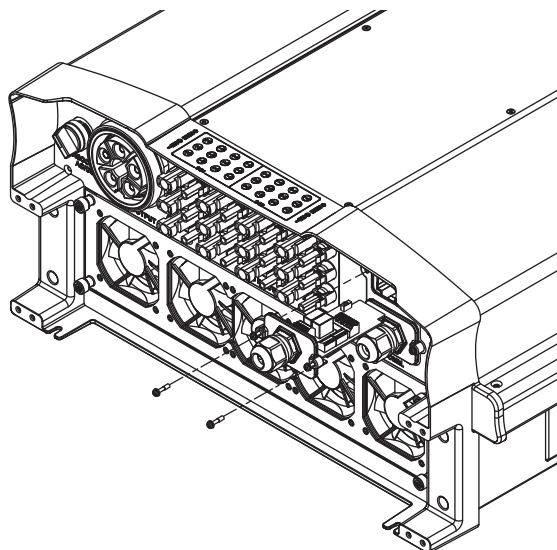
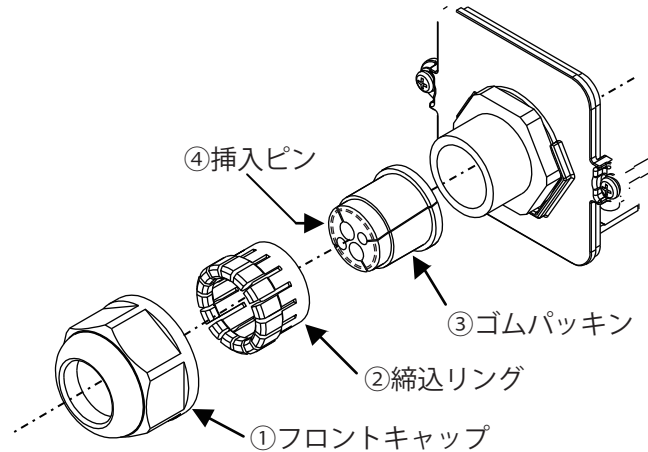


図 5-7 通信モジュールの外し方



【防水パッキンの締め付け固定手順】

- 1) フロントキャップ①を反時計方向に回し外す。
 - 2) 本体からパッキン部(黒色)を取り出す。
 - 3) 締込リング②からゴムパッキン③を取り出す。
 - 4) ケーブル挿入ピン④を抜き、ケーブルをゴムパッキン横の切れ目から入れる。
 - 5) ケーブルをコネクタに差し込む。
 - 6) 手順通りに元の状態に戻し、隙間ができないよう確実にフロントキャップ①を締め込む。
- ※締め込む前に、ケーブルが撓んでいないか必ず確認してください。(接触不良の原因となります)
- ※ゴムパッキンの穴径は、 $\phi 6.8\text{mm} \times 2$ 個、 $\phi 4\text{mm} \times 2$ 個です。
- ※通信ケーブルの線径が合わない場合は、付属品のゴムパッキン ($\phi 5\text{mm} \times 4$ 個) を使用してください。

図 5-8 通信モジュールの締め付け固定手順

5.4.2 RS-485 の接続

RS-485 のピン配置は表 5-7 のとおりです。パワーコンディショナの接続台数によって、終端抵抗の設定が異なります。

- ・パワーコンディショナを単独で設置するときには、RS-485 の終端抵抗を ON に設定してください。
- ・複数のパワーコンディショナを直列接続するときは、図 5-9 のとおり、最後のパワーコンディショナの終端抵抗を ON に設定してください。

終端抵抗の設定方法については表 5-9 を参照してください。

※監視用システムやパワーモニターを使用せず、パワーコンディショナのみを設置の場合は接続が不要です。

※芯線が $\phi 0.6 \sim 0.8 \text{ mm}$ のケーブルを使用してください。(推奨ケーブル: FCPEV-NC 0.65 mm)

※本機から取得できるデータは電力量等の証明には使用できません。目安としてご利用ください。

表 5-7 RS-485 の PIN 定義

ピン	機能
1	VCC
2	GND
3	DATA+
4	DATA-
5	DATA+
6	DATA-

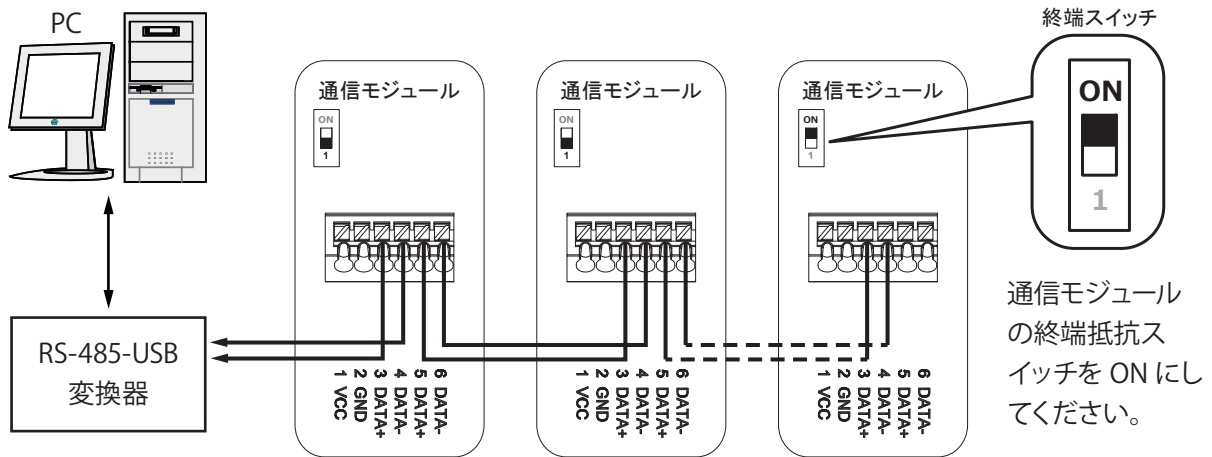


図 5-9 複数のパワーコンディショナを接続するときの通信イメージ図

表 5-8 RS-485 のデータフォーマット

ボーレート	9600 / 19200 (初期値) / 38400 bps
データビット	8
ストップビット	1
パリティ	なし

表 5-9 終端抵抗設定イメージ

	スイッチ 1	
入 (ON)	終端抵抗 ON	
切 (OFF)	終端抵抗 OFF	

5.4.3 非常停止入力端子 (EPO) & デジタル入力端子

通信モジュールには、非常停止入力端子 (EPO) の 1 セットがあります。

6.2.8 Install Settings の 6.2.8.9 EPO から EPO 機能のカスタマイズすることが出来ます。

デジタル入力端子の 6 セットがあります。

入力 (K1~K6 と)。デジタル入力の設定については、表 5-10 を参照してください。(日本では使用しません。)

※芯線がφ0.5 ~ 1 mmのケーブルを使用してください。

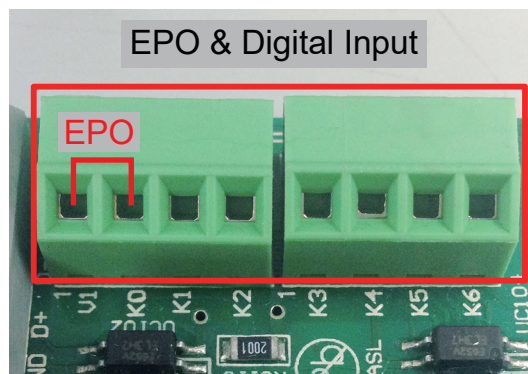


図 5-10

表 5-10 (V1 & K0 以外は日本では使用しません。)

Short/Open	パワーコンディショナ動作
V1 & K0	非常停止信号 (EPO)
V1 & K1	0% active power
V1 & K2	Maximum 30% active power
V1 & K3	Maximum 60% active power
V1 & K4	Maximum 100% active power
V1 & K5	Reserved
V1 & K6	Reserved

5.4.4 無電圧接点 (Dry Contact) の接続

本機には、無電圧接点が2つ付いています。どちらの無電圧接点も同じ機能をもっています。

6.2.8 Install Settings の 6.2.8.7 の無電圧接点から Dry Contact 機能のカスタマイズすることができます。

※AC230V、DC24V、8A

※芯線がΦ0.5～1mmのケーブルを使用してください。

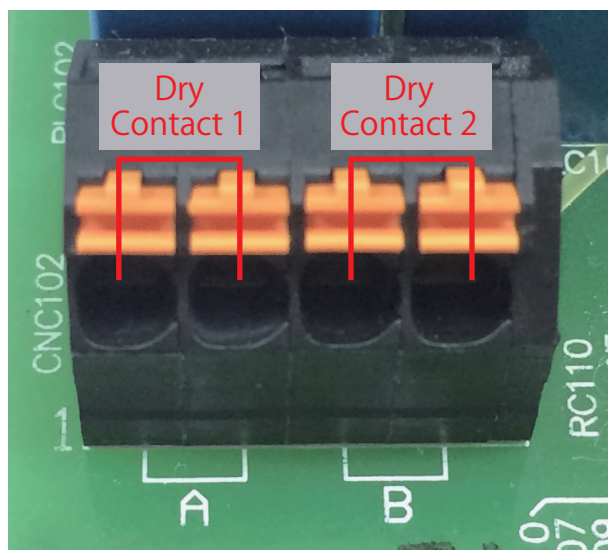


図 5-11 無電圧接点の定義図

6. パワーコンディショナの ON/OFF



高温注意

パワーコンディショナの運転中には外カバーの温度が 70℃を超える場合がありますので、絶対触らないでください。

パワーコンディショナの設置が完了したら、AC 配線、DC 配線、通信モジュールなどが正しく接続されていることを改めて確認してください。すべて準備できたら、AC/DC スイッチを ON にします。太陽電池から十分なエネルギーが供給され、かつ商用電源からの供給が正常であれば、パワーコンディショナがカウントダウンを開始します。カウントダウン後、自動的に商用電源と接続して運転を開始します。液晶ディスプレイと LED ランプにより、パワーコンディショナの動作状態を知ることができます。

6.1 表示部

本体正面に 4×20 文字型の液晶ディスプレイと LED ランプが 2 つ付いています。下側には操作ボタンがあります。

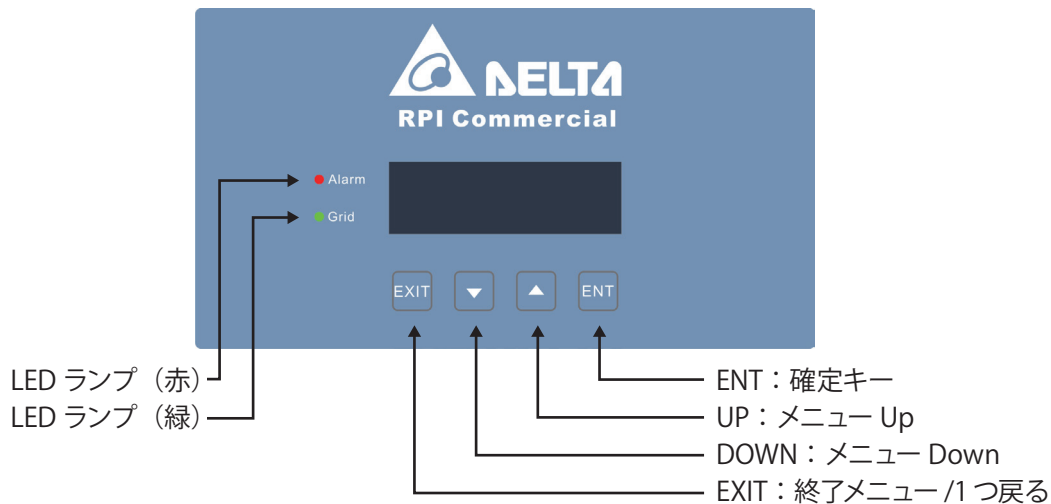


図 6-1 液晶ディスプレイとボタンの説明

表 6-1 LED 指示ランプ

状態	緑 LED	赤 LED
待機中	点滅	OFF
運転中	ON	OFF
エラーまたは故障	OFF	ON
抑制中 (Derating)	ON	点滅
夜間	OFF	OFF
ファームウェアの更新中	点滅	

次は、液晶パネルを使用してユーザーによって調整することができる機能を紹介します。「▶」または、「→」は現在選択中の項目で表わされます。そこで「ENT」キーを押すと、次の画面もしくは次の階層へ遷移します。「→」で数値を変更後、「ENT」キーを押さないと変更が確定できません。「EXIT」を押すと変更前の数値に戻ります。

6.2 液晶ディスプレイ操作フロー

初めてパワーコンディショナを起動させたとき、表示言語、設置する国と ID の設定画面が起動します。パワーコンディショナは AC 電源で動き、液晶ディスプレイが起動します。言語、国と ID を設定し、初期画面にエラー表示、障害や警告がないことを確認してください。これで、DC 電源に供給することができ、最初 2 分間程度パワーコンディショナのセルフテストを行います。太陽電池から電気が来ていれば、パワーコンディショナの連系が始まります。

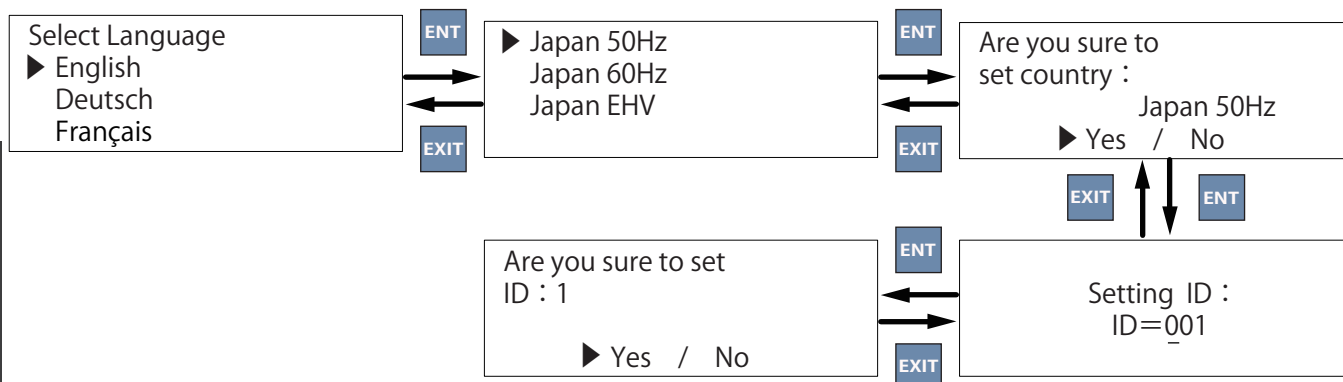


図 6-2

6.2.1 初期画面

パワーコンディショナが正常に動作しているとき、液晶ディスプレイから図 6-3 に示すように、画面が表示され、現時点の発電量、パワーコンディショナの動作状態、今日の積算発電量、日付と時刻に関する情報を見ることができます。初期画面で画面下の何かボタンを押すとメインメニューに戻ります。メインメニューで EXIT ボタンを押すか、何もせず 5 分間経つと初期画面に戻ります。

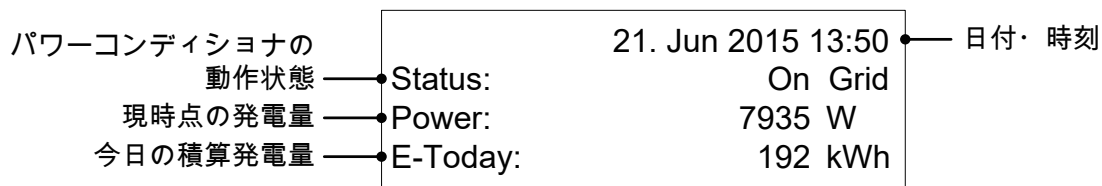


図 6-3

6.2.2 メインメニュー

初期画面で EXIT ボタンを押すとメインメニューに入ります。
この画面では、各メニューへ遷移することができます。

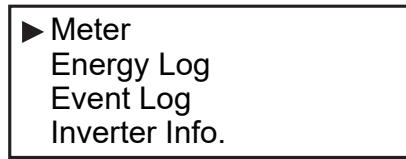


図 6-4

Meter	6.2.3
Energy Log	6.2.4
Event Log	6.2.5
Inverter Info.	6.2.6
General Settings	6.2.7
Install Settings	6.2.8
Active/Reactive Pwr	6.2.9
FRT	6.2.10

6.2.3 Meter パワーコンディショナ情報

この画面では入力側の電圧、電流、電力や出力側の電圧、電流、電力、周波数、今日の発電電力量、現在の発電量などの情報が表示されます。

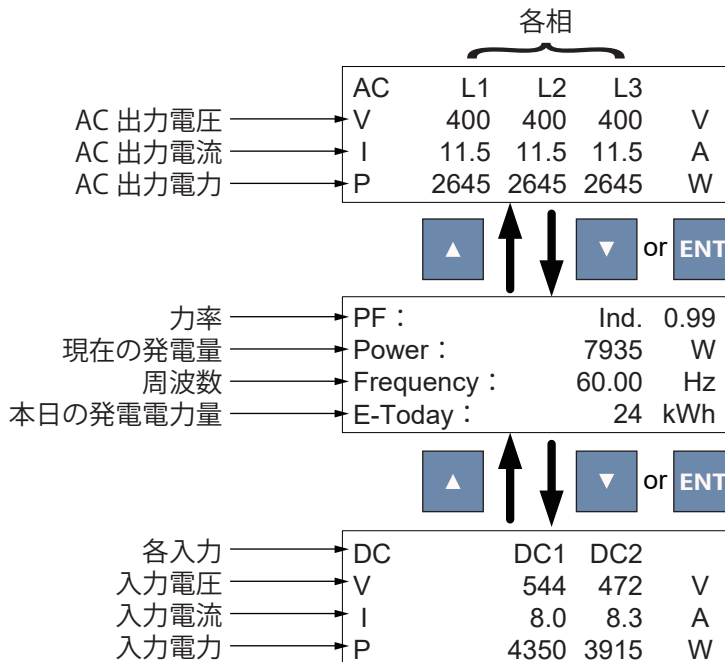


図 6-5

6.2.4 Energy Log 発電履歴

この画面では、パワーコンディショナの積算発電量、使用時間、月（最大 12 ヶ月）・日（最大 32 日）の発電履歴が表示されます。

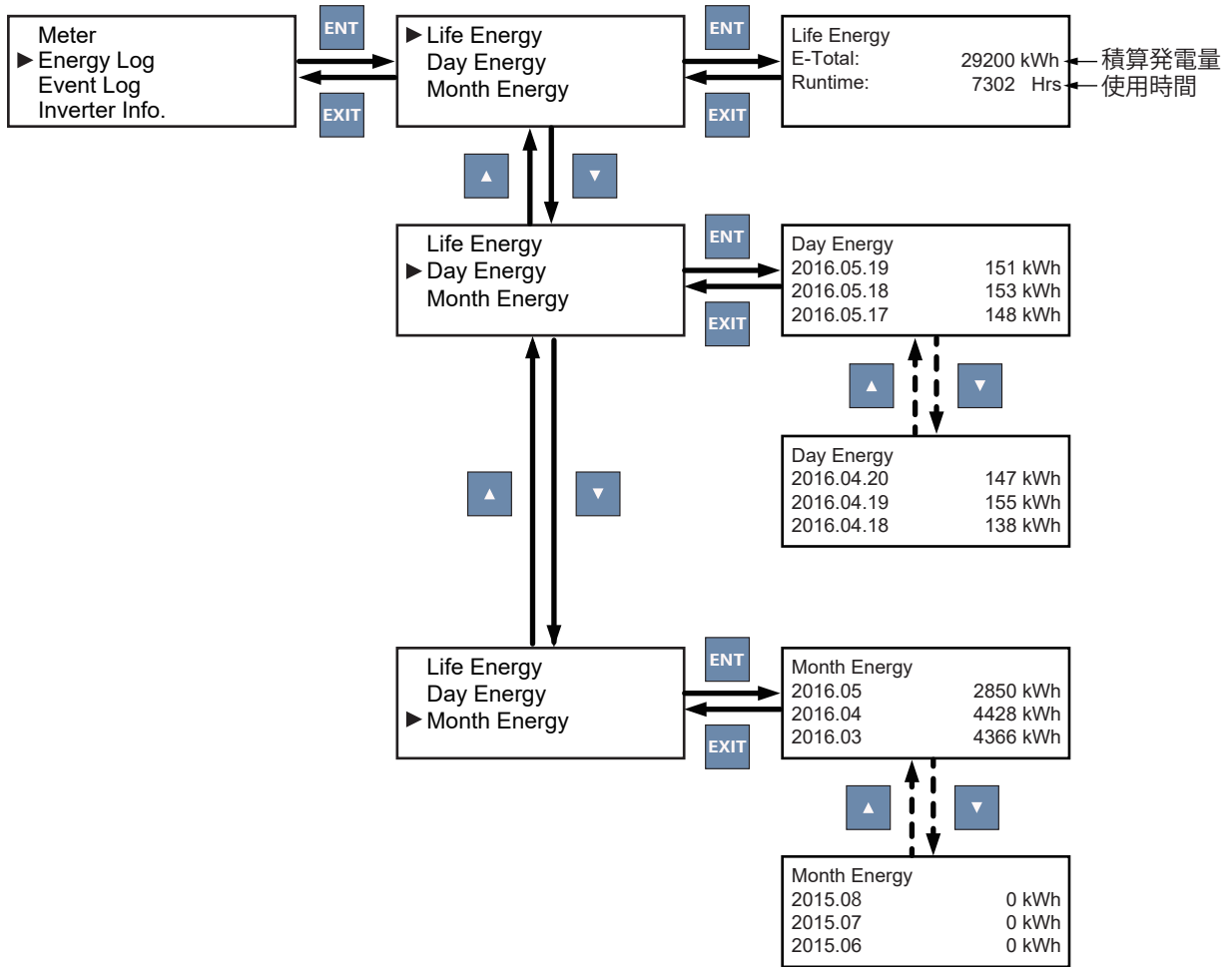


図 6-6

パワーコンディショナの ON/OFF

6.2.5 Event Log 点検コード履歴

この画面では、異常等が発生すると点検コードが記録されます。

点検コード履歴は、機器に関する点検コード（Error Event）と系統に関する点検コード（Grid Report）の2つに分かれています。点検コードは、最大30件まで記録でき、系統に関する点検コードは、別途最大5件まで記録できます。新しい点検コードは画面の上方に表示されます。

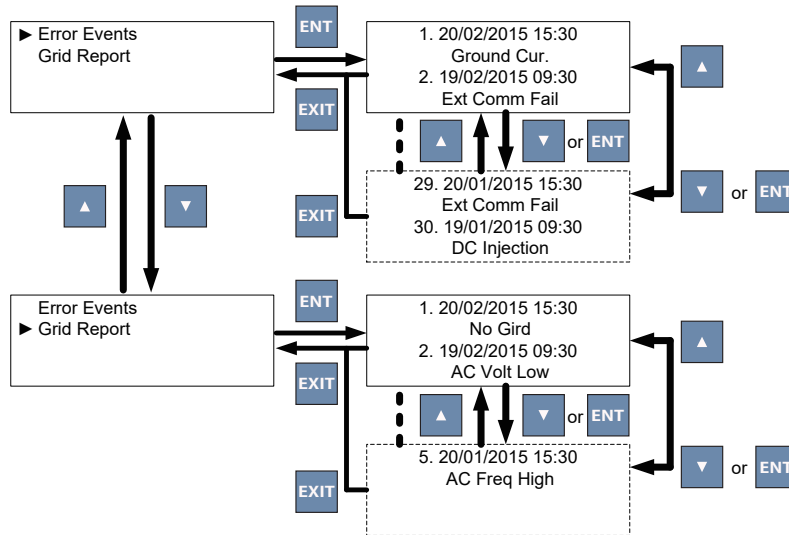
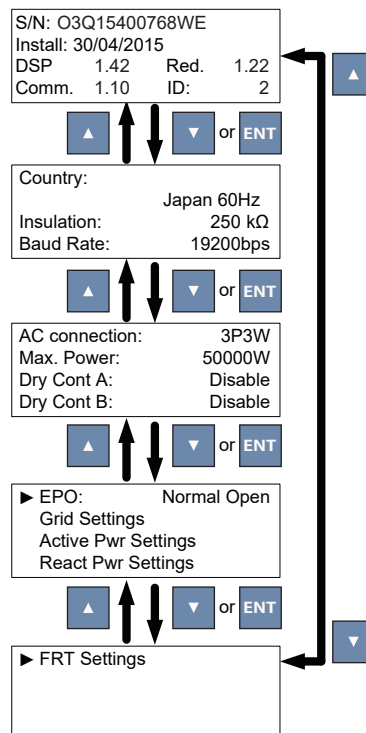


図 6-7

6.2.6 Inverter Info. 内部情報

この画面では、製品番号、設置日、ファームウェアのバージョン、パワーコンディショナの ID、国名、絶縁抵抗、ボーレート、最大電力、Dry Contact、EPO の設定状態等の情報が表示されます。ID の変更を必要な場合は、6.2.8 「Install Settings」を参照してください。

また、パワーコンディショナの機能設定が表示されます。これらの設定の詳細については 6.2.8 Install Settings、6.2.9 Active/Reactive Pwr を参照してください。

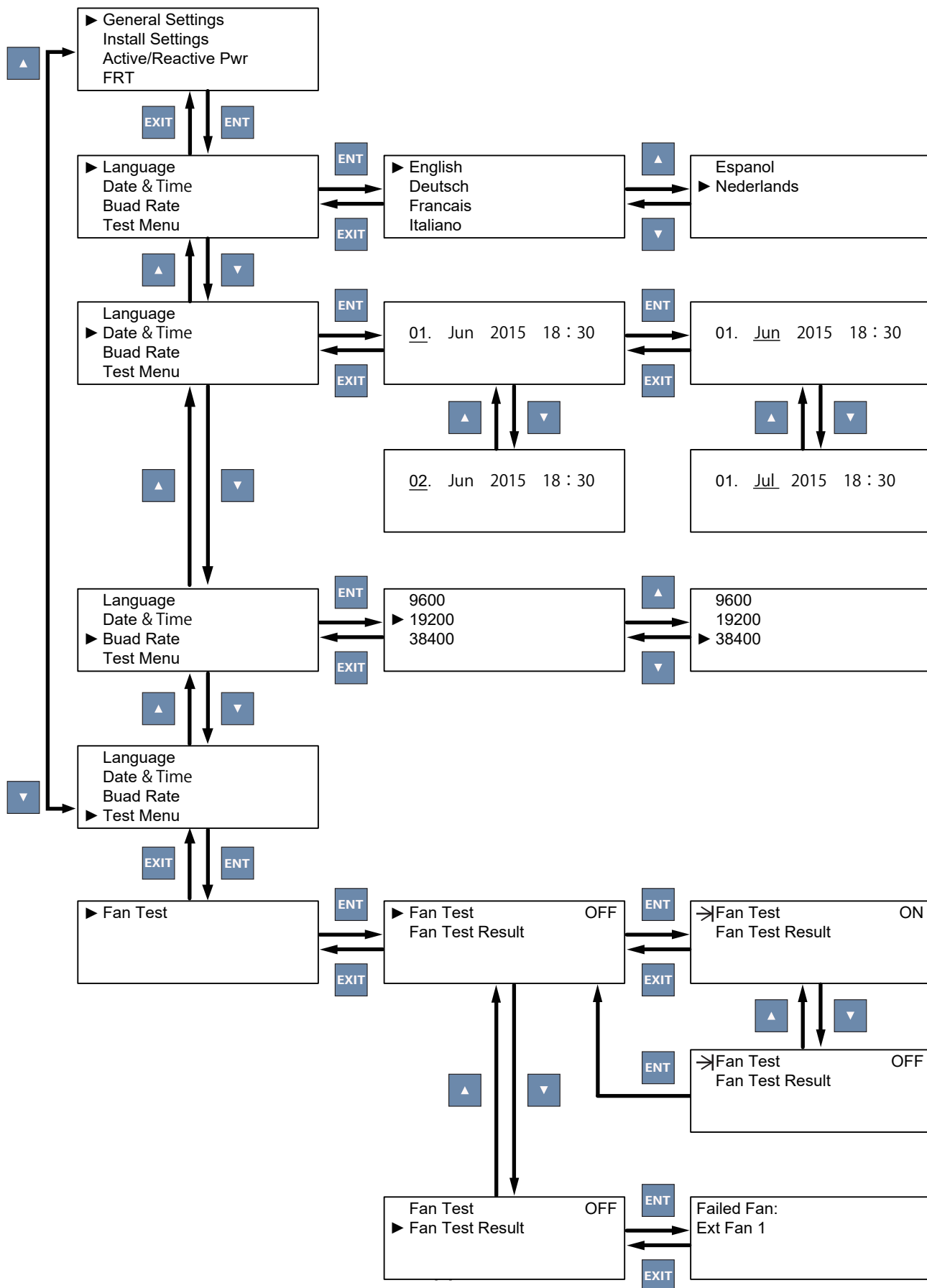


それぞれの内容を見ることができます。
設定はできません。

図 6-8

6.2.7 General Settings 一般設定

この画面では、言語、日付と時刻、RS-485 の通信速度（ボーレート）の設定とファンテストが出来ます。



パワーコンディショナの
ON/OFF

6.2.8 Install Settings 設置設定

この画面の項目を、現場の状況に応じて、施工業者様が調整を行ってください。もし無断で設定を変更すると、パワーコンディショナの故障を招く恐れがあります。

設置設定画面を入力するには、正しいパスワードを入力する必要があります。

ユーザー用、施工者用の異なるアクセス権を持つパスワードが二種類あります。以下の項目では、ユーザー用と施工者用の設置設定画面の設定可能な項目が異なります。

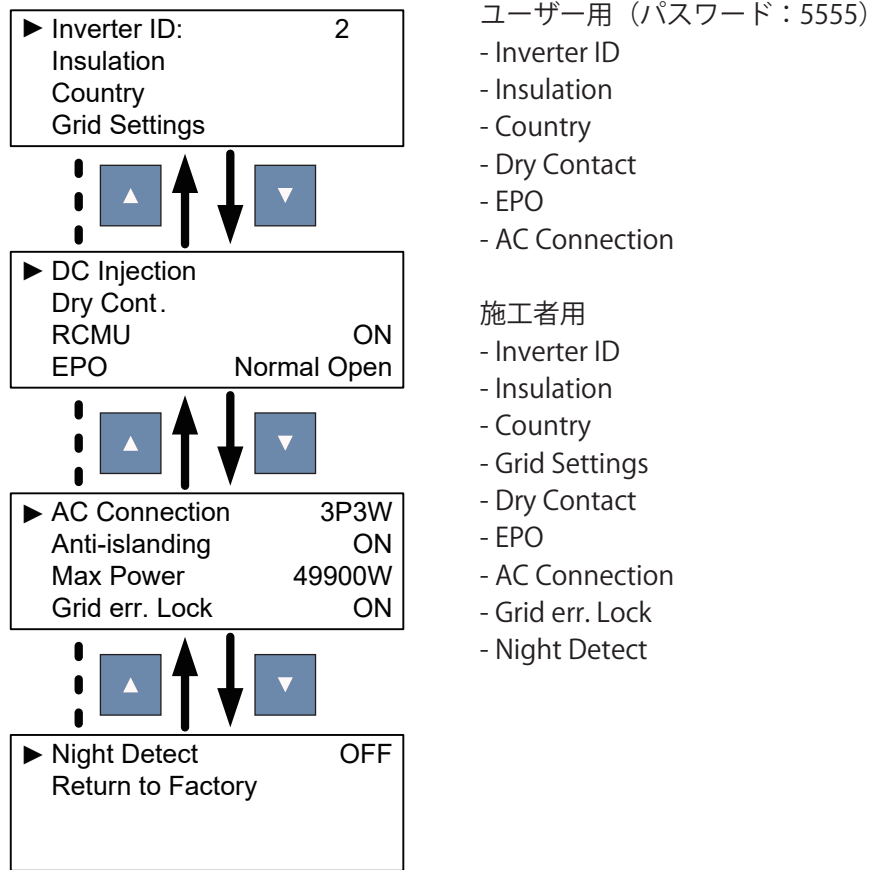
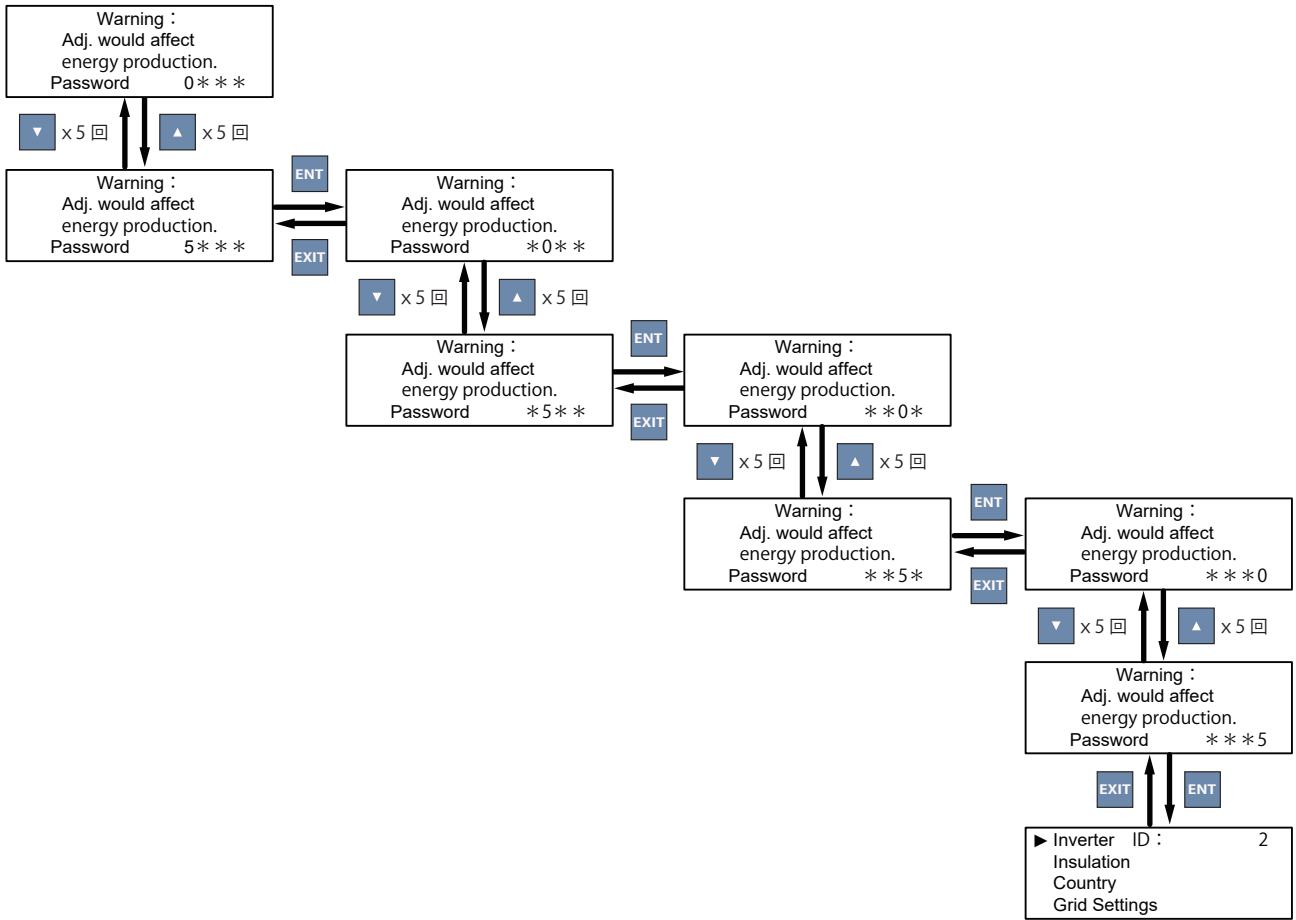


図 6-10

6.2.8.1 パスワードの入力方法

例えば、パスワードが<5555>の場合



パワーコンディショナの ON/OFF

図 6-11

6.2.8.2 Inverter ID ID 番号

ID 番号は、パワーコンディショナを RS-485 で接続する場合に設定が必要です。

RS-485 で接続するパワーコンディショナの ID は重複しないように設定します。

▲▼で数字を変更できます。(一桁ずつ変更できます。)

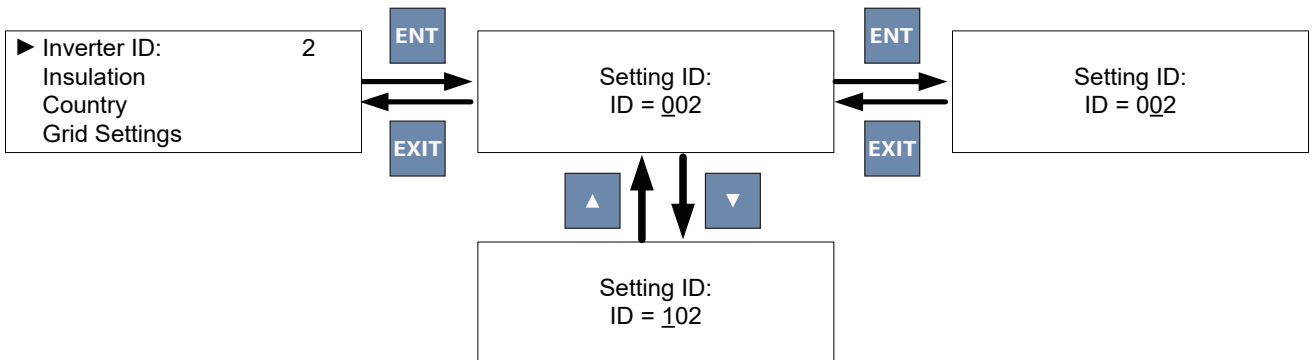


図 6-12

6.2.8.3 Insulation 絶縁設定

絶縁設定は4つのモードがあります。

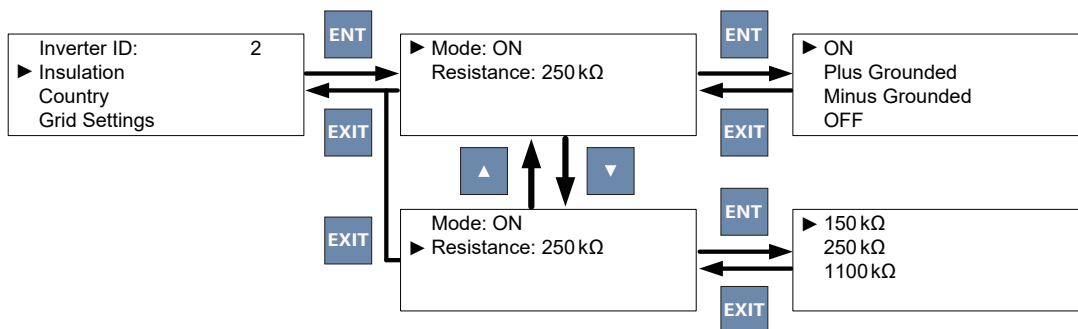


図 6-13

表 6-2 Mode (モード) 設定一覧表

Mode	説明	動作条件 (エラーが発生し停止する条件)
ON	機能を使う場合に設定します	Resistance の設定値より小さくなったとき
Plus Grounded*	使用できません	選択しないでください
Minus Grounded*	使用できません	選択しないでください
OFF	機能を使わない場合に設定します	動作しません

このモードを起動させると、パワーコンディショナの運転前に、太陽電池の絶縁抵抗がシステムの設定値 (Resistance) より高いか否かをチェックし、設定値より低ければ運転を一時停止します。

* 本機は正極接地、負極接地を行いたい場合は、ご相談ください。

表 6-3

Resistance設定値
150kΩ
250kΩ
1100kΩ

6.2.8.4 Country 国設定

設置する地域に従って国を設定します。特別高圧連系の発電所において、受変電設備に系統保護機能が備わっている場合は、電力会社、主任技術者などにご相談の上、Japan EHV を選択することが可能です。

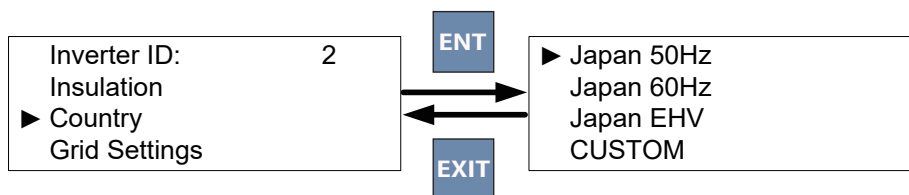


図 6-14

※ Country (国設定) を再設定すると Max Power を含むすべての整定値が初期値に戻りますので、一度設定したら変更しないようにしてください。同じ国の設定の選択もしないでください。

6.2.8.5 Grid Settings 整定値設定

整定値の設定が行えます。
電力会社からの指示に従って設定してください。

表 6-4

設定項目	本体表示	設定内容
OVR (過電圧)	High Off *	OVR の感度を設定
	High On	OVR の感度 -8V の値を設定
OVR時限	High Off T	OVR の時限を設定
UVR (不足電圧)	Low Off *	UVR の感度を設定
	Low On	UVR の感度 +8V の値を設定
UVR時限	Low Off T	UVR の時限を設定
OVR (過電圧)	Hi Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
	Hi On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
OVR時限	Hi Off SI T	設定範囲の最大値を設定
UVR (不足電圧)	Lo Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
	Lo On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
UVR時限	Lo Off SI T	設定範囲の最大値を設定
OFR(周波数上昇)	High Off *	OFR の感度を設定
	High On	OFR の感度 -0.05Hz の値を設定
OFR時限	High Off T	OFR の時限を設定
UFR (周波数低下)	Low Off *	UFR の感度を設定
	Low On	UFR の感度 +0.05Hz の値を設定
UFR時限	Low Off T	UFR の時限を設定
OFR(周波数上昇)	Hi Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
	Hi On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
OFR時限	Hi Off SI T	設定範囲の最大値を設定
UFR (周波数低下)	Lo Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
	Lo On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。
UFR時限	Lo Off SI T	設定範囲の最大値を設定
復電後投入ロック	Reconnect T	連系保護リレー復帰時間を設定
出力電力上昇速度	P Ramp Up	通常は100%/mで設定

* High Off、Low Off を設定したとき、エラーメッセージや設定値が元に戻る場合、先に High On、Low On を行ってください。

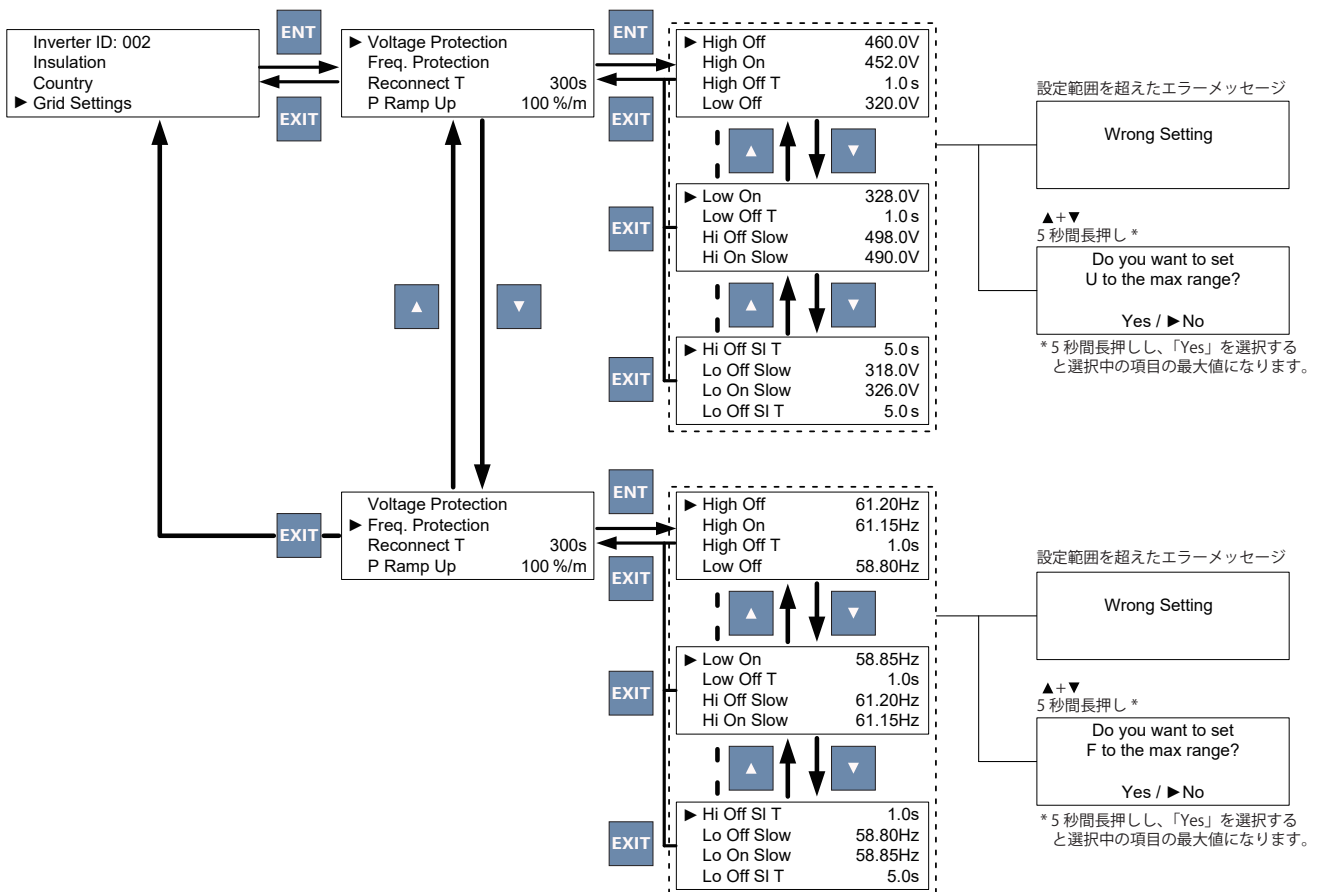


図 6-15

6.2.8.6 DC Injection (使用できません)

6.2.8.7 Dry Contact 無電圧接点の設定

無電圧接点の検出内容を選択することが出来ます。下記の表のとおり、8つのモードから選択が可能です。

表 6-5

No	表示	短絡条件
1	Disable	機能OFF (初期値)
2	On Grid	連系しているとき
3	Fan Fail	ファンに障害が発生したとき
4	Insulation	絶縁試験が失敗したとき
5	Alarm	何らかのエラー、フォルト、ワーニングの何れかが発生したとき
6	Error	何らかのエラーが発生したとき
7	Fault	何らかのフォルトが発生したとき
8	Warning	何らかのワーニングが発生したとき

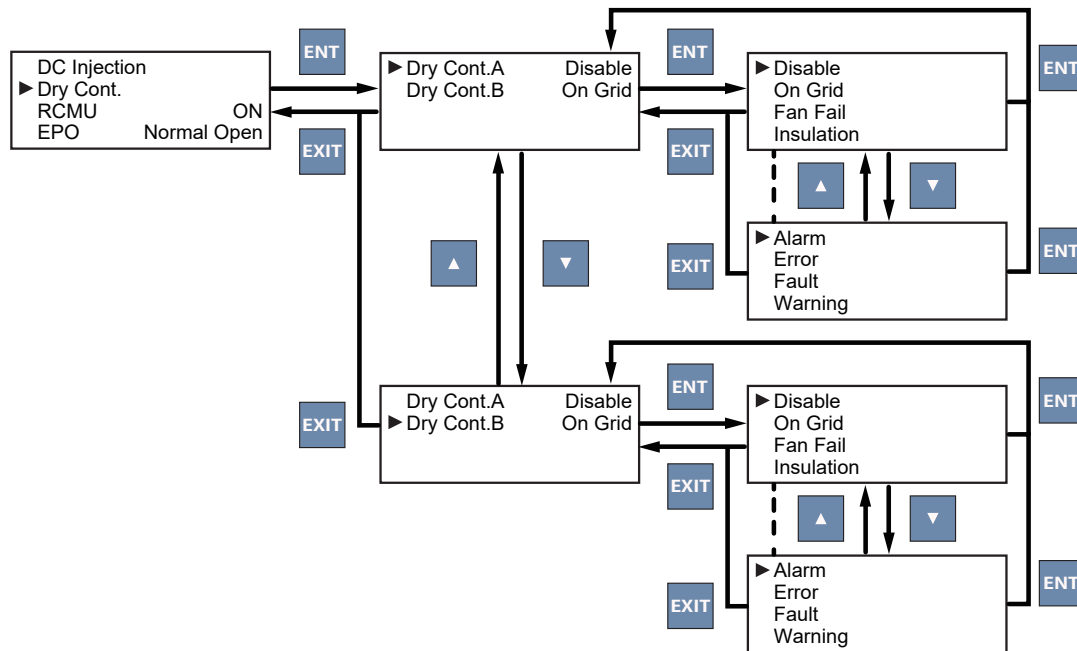


図 6-16

6.2.8.8 RCMU (使用できません)

6.2.8.9 EPO 非常停止入力端子設定

非常停止入力端子 (EPO) 機能は、Normal Open と Normal Close の 2 検出方法を持っています。Normal Open は、非常停止入力端子 (EPO) は通常開放であることを意味します。これら二つのピンが短絡した場合、パワーコンディショナは直ちに停止します。Normal Close は二つのピンが開放された場合、パワーコンディショナは直ちに停止します。必要に応じて適切な検出方法を選択してください。
 ※短絡 / 開放の状態が継続されている間だけ機能は有効です。
 ※非常停止入力端子 (EPO) を使用し、パワーコンディショナが停止した場合、設定に関係なく自動復帰となります。

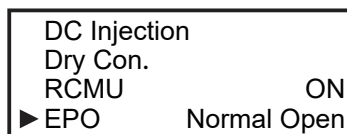


図 6-17

6.2.8.10 AC connection 電気方式設定

本機は、三相 3 線式もしくは三相 4 線式の設定が可能です。しかし、日本では、三相 3 線式で接続してください。

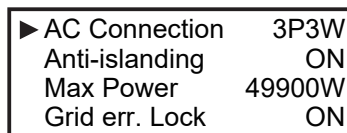


図 6-18

6.2.8.11 Anti-islanding 単独運転検出機能

国設定が「Japan 50Hz」、「Japan 60Hz」のとき、初期設定は ON ですが、「Japan EHV」のとき、初期設定は OFF です。この機能を OFF にすると受動方式と能動方式の両方が OFF になります。

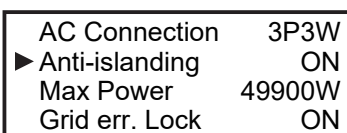


図 6-19

6.2.8.12 Max Power 最大電力設定（使用できません）

パワーコンディショナの最大出力電力を確認することができます。

AC Connection	3P3W
Anti-islanding	ON
▶ Max Power	49900W
Grid err. Lock	ON

図 6-20

※Max Power を変更したい場合は、代理店にご依頼ください。

※パワーコンディショナの発電量が設定値を超えた場合、Alarm（赤）の LED ランプが点滅し、Status に「Derating」と表示されますが、出力を制御していますので、故障ではありません。

6.2.8.13 Grid err. Lock



この設定が手動復帰 (ON) のとき、系統から本機に一度正しい AC 電力が入された場合、その後、AC 電力を外したり、停止したりするとロックされます。正しい AC 電力を入力しないとロックは解除できません。

AC Connection	3P3W
Anti-islanding	ON
Max Power	49900W
▶ Grid err. Lock	ON

図 6-21

本機を高圧連系する場合、停電復旧時に手動復帰の要求があります。その際、手動復帰 (ON) に設定します。初期設定は手動復帰 (ON) になっています。

低圧連系する場合は、通常自動復帰 (OFF) に設定しますが、電力会社と協議して決めてください。

※手動復帰 (ON) の場合、系統に何らかの事故があり、停電状態になった場合、液晶ディスプレイのパワーコンディショナの動作状態に「Lock」と表示されます。

これは、手動復帰待機状態です。電力会社の指示に従い復帰する場合は、ENT キーを長押ししてください。

※系統に異常がある場合は、ロックを解除できません。

6.2.8.14 Night Detect

夜間（直流入力が無い）に停電が発生した際、エラーを記録するかどうかの設定ができます。

▶ Night Detect	OFF
Return to Factory	

図 6-22

この設定が ON の時、夜間に停電が発生した場合、Event Log の Error Event に「AC Freq. Low」、「No Grid」、「AC Volt Low」などのエラーが記録されます。

夜間に停電が復旧し、その後、朝（直流が入力された）を迎えた場合、もしくは、朝まで停電が復旧しなかった場合、ロックされ自動復帰しません。

ただし、Grid err. Lock が OFF の場合は、エラー記録はされますが、自動復帰します。

6.2.8.15 Return to Factory（使用できません）

Night Detect	OFF
▶ Return to Factory	

図 6-23

6.2.9 Active/Reactive Pwr 有効 / 無効電力設定

この画面では、パスワードが必要です。

有効電力設定 (Active Power Ctrl) と無効電力設定 (Reactive Power Ctrl) の2つの機能があります。

有効電力設定では、出力制御 (Power Limit)、電力 VS 周波数、および有効電力制御 (P (V)) の3つのモードがあります。

無効電力設定では、力率一定制御 (Constant cosphi)、cosphi (P)、Constant Q、および進相無効電力制御 (Q (V)) の4つのモードがあります。

詳しくは、以下に説明します。

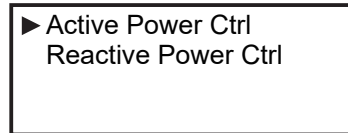


図 6-23

6.2.9.1 Power Limit 出力制御

パワーコンディショナ出力をパーセンテージで設定することにより、出力を制限することができます。

Mode を ON にし、Set Point を設定することによって、出力を制限することができます。

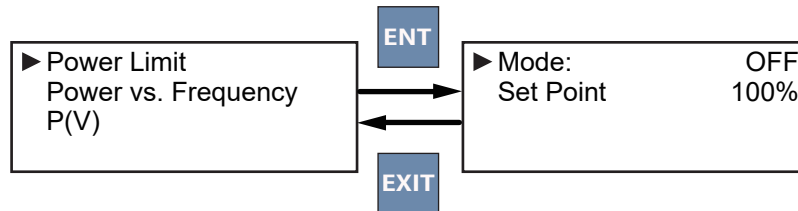


図 6-24

6.2.9.2 Power vs. Frequency 電力 VS 周波数 (この機能は使用しないでください)

6.2.9.3 P(V) 有効電力制御

この画面では、電圧上昇抑制の1つの有効電力制御の設定として、P Lock-in、P Lock-out、V Lock-in、V Lock-out および T recovery を設定できます。

系統電圧が V Lock-in の値より大きくなり、かつ、パワーコンディショナの出力が P Lock-in の値より大きくなったとき、電圧上昇抑制が動作します。

この時、パワーコンディショナは自動的に出力を下げようとします。

V Lock-out の値もしくは P Lock-out の値まで下がり、T recovery が経過すると電圧上昇抑制が解除されます。この機能を有効にする場合は Mode を ON に設定します。

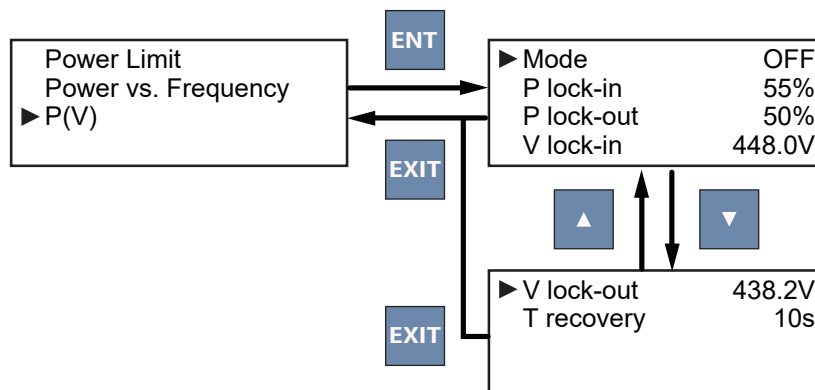


図 6-25

パワーコンディショナの ON/OFF

6.2.9.4 Constant cosphi 力率一定制御設定

電力会社から力率一定制御の要請があった場合、この項目を設定してください。無い場合は、Mode：OFF でご使用ください。

Mode を ON に設定すると、設定値になるよう力率を制御します。

(系統電源から見て) Cap 0.80(進み)～Ind 0.80(遅れ)の範囲で力率を設定できます。

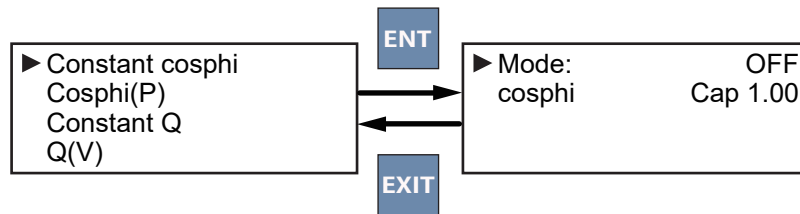


図 6-26

6.2.9.5 Cosphi (P) (この機能は使用しないでください)

6.2.9.6 Constant Q (この機能は使用しないでください)

6.2.9.7 Q(V) 進相無効電力制御

この画面では、電圧上昇抑制の1つの無効電力制御の設定として、V1s、V2s、Qs limit を設定できます。

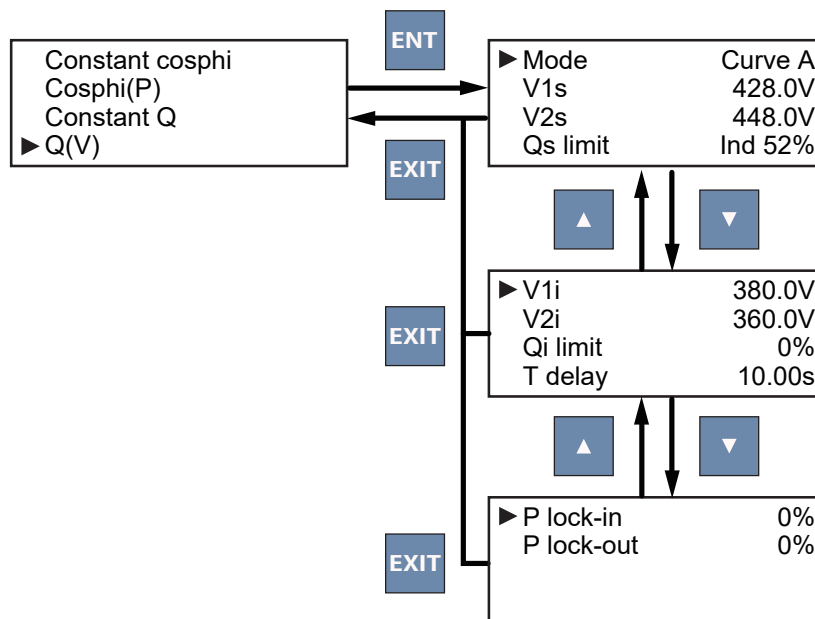


図 6-27

表 6-6

本体表示	設定内容
Mode	機能の動作 / 不動作の設定
V1s	進相無効電力注入開始電圧
V2s	進相無効電力最大注入電圧 V Lock-inの値を設定します。
Qs limit	V2s 時の進相無効電力 (85%)
V1i	日本の規定では使用しません。初期値のまま使用してください。
V2i	日本の規定では使用しません。初期値のまま使用してください。
Qi limit	日本の規定では使用しません。初期値のまま使用してください。
T delay	日本の規定では使用しません。
P lock-in	日本の規定では使用しません。
P lock-out	日本の規定では使用しません。

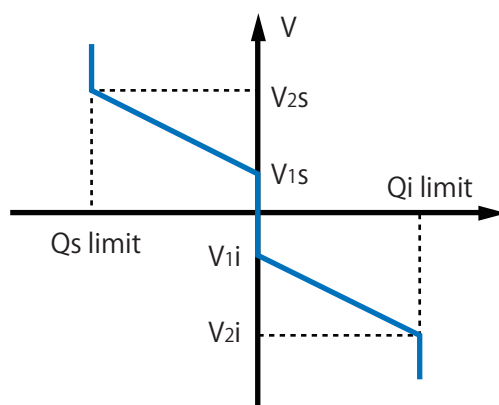


図 6-28

6.2.10 FRT (Fault ride through)

この設定は海外向けのため、使用できません。

しかし、本機は、2014 年度からの連系協議に必要とされる系統連系規程 (JEAC 9701) の FRT 要件に加え、2017 年度以降の FRT 要件にも標準で対応しています。

日本向けの FRT には設定はありません。設定しないでください。

7. 設備のメンテナンス

パワーコンディショナの正常な運転を確保するため、検査を行う場合は、パワーコンディショナの端子・ACプラグのネジの緩み・ボルト緩みやケーブル破損の有無をすべて確認してください。破損や緩みが発見されたら、販売店に連絡して修理や交換を行ってください。また、吸気口を異物で詰まらせないため、清掃を行ってください。



メンテナンスを行う前には、感電の危険を避けるため、AC と DC の電源を落とす必要があります。



高温注意

パワーコンディショナの電源を切った直後は、高温になっていますので、すぐに触れないでください。

7.1 サージ保護装置 (SPD) の交換

本機には、DCおよびAC側の両方にサージ保護装置 (SPD) が接続されています。詳細の配置については図7-1を参照してください。

パワーコンディショナが、電圧スパイク（例えば落雷）に遭遇したとき、SPD が損傷しパワーコンディショナを保護します。

SPD が損傷し交換が必要になった場合、液晶ディスプレイに警告メッセージ「SPD Fail」が表示されます。SPD モジュールの交換手順は下記のとおりです。

1. AC/DC スイッチを切り、液晶ディスプレイの表示が消えるまで待ちます。
2. 6つのネジを緩めると前面カバーが外れます。(図 7-1)



外したカバーを落下や踏んだりしないように、注意してください。カバーが変形し、防水性が損なわれます。地面やパワーコンディショナの上に置いたりしないでください。



図 7-1

3. 3つのコネクタを外します。(図 7-2)

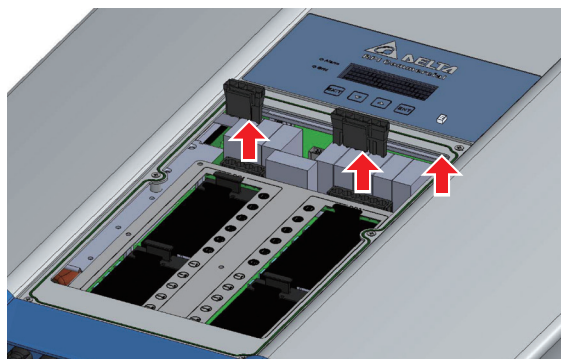


図 7-2

4. 6つのネジを緩めて新しい SPD モジュールを交換し、0.9N・m のトルクで締めてください。(図 7-3)

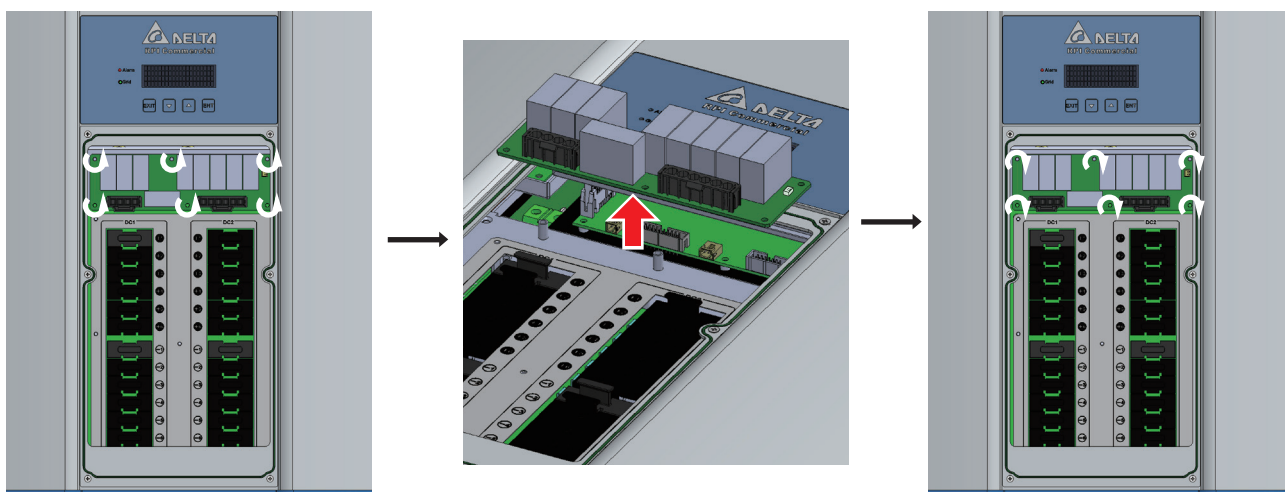


図 7-3

5. 3つのコネクタを差し込み、前面カバーを閉じます。前面カバーを取り付ける際には、全てのネジを仮止めしたうえで、下記番号順にて 0.8N・m のトルクで締め付けてください。(図 7-4)

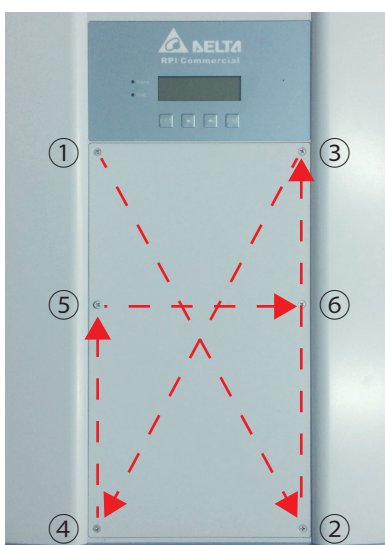


図 7-4



このとき、本体の防水パッキングが外れていたり、ずれていたり破けていないことを確認してください。雨などが入り故障の原因となります。
防水パッキングが異常の場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
また、前面カバーや防水パッキングに汚れや付着物がある場合は、清掃してから閉じてください。

7.2 ヒューズの交換

本機には、DC 側の +/- にヒューズが接続されています。
ヒューズの仕様は下記のとおりです。詳細の配置については図 7-1 を参照してください。

表7-2 ヒューズの仕様

アイテム	ストリングヒューズ
品番	OSPF015.T
定格電流	15 A
メーカー	Littelfuse



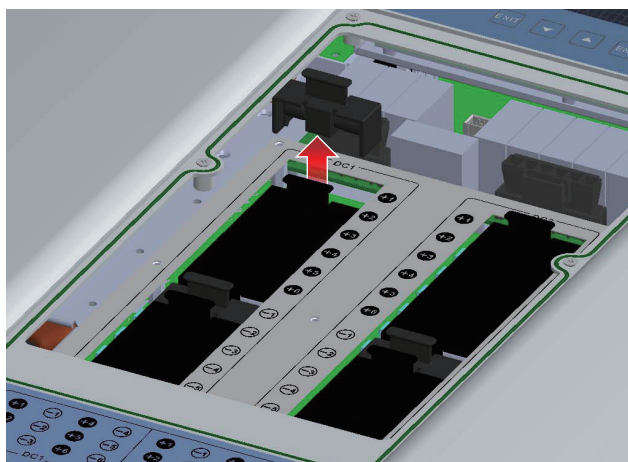
高温注意

パワーコンディショナの電源を切った直後は、高温になっていますので、すぐに触れないでください。

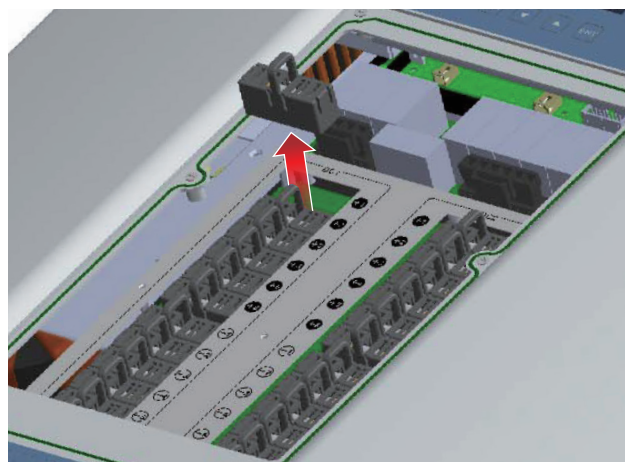
発電が少ない場合や直流電圧が0Vの場合、ヒューズが切れていることが考えられます。
ヒューズをチェックし、切れていた場合は、次の要領で交換してください。

※ ヒューズホルダーは、2種類あります。(タイプ1、タイプ2)
ヒューズの取り出し方が異なりますので、ご注意ください。

1. AC/DC スイッチを切り、液晶ディスプレイの表示が消えるまで待ちます。
2. 6つのネジを緩めると前面カバーが外れます。(図 7-1)
3. ヒューズホルダーを引き抜き、ヒューズをチェックします。(図 7-5)



タイプ1



タイプ2

図 7-5

4. ヒューズが切れていた場合は、交換します。(図 7-6-1、図 7-6-2)

● タイプ1



図7-6-1

● タイプ 2

- ①ヒューズホルダーの蓋を開けます。
- ②ヒューズホルダーを少し傾けるとヒューズを取り出せます。
※このときヒューズを落下させないように注意してください。

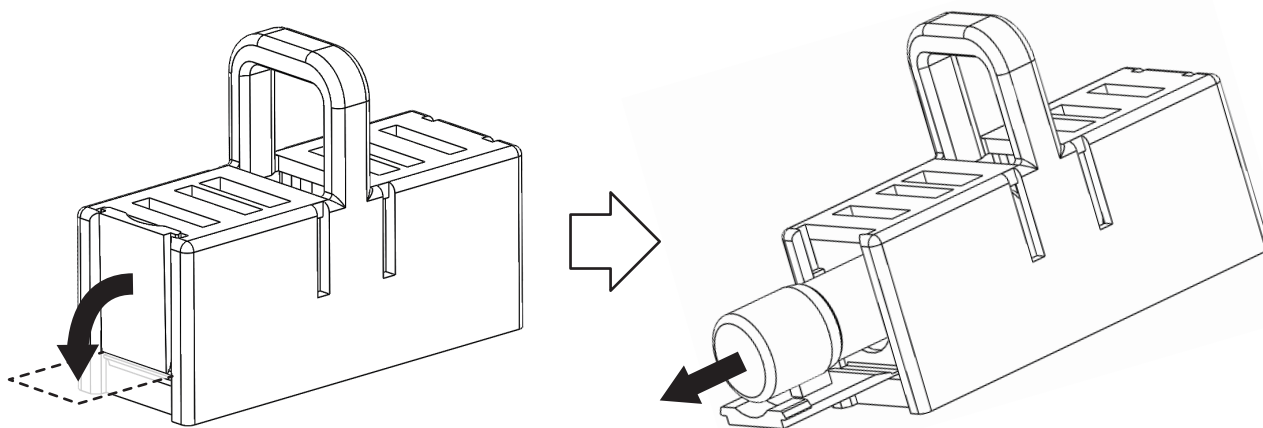


図7-6-2

5. 前面カバーを閉じます。(図 7-4)

このとき、本体の防水パッキンが外れていたり、ずれていたり破けていないことを確認してください。
雨などが入り故障の原因となります。防水パッキンが異常の場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

7.3 ファンの清掃

ファンブラケット四隅のボルトを外してからブラケットを少し引き出すと、ファンの接続部が見えるようになります。それを順に外していき、ファンモジュール全体をパワーコンディショナから取り外すと、清掃することができます。図 7-7 を参照してください。

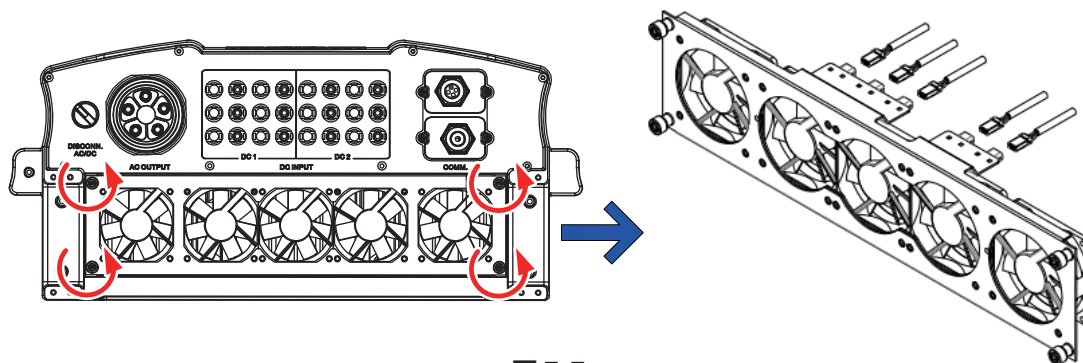


図 7-7

7.4 ファンの交換

ファンが故障して交換する場合は、ファンのボルト 4 本とブラケットに固定された接続端子を外して、新しいファンに交換します。取り付けは、上記と逆の手順で行ってください。

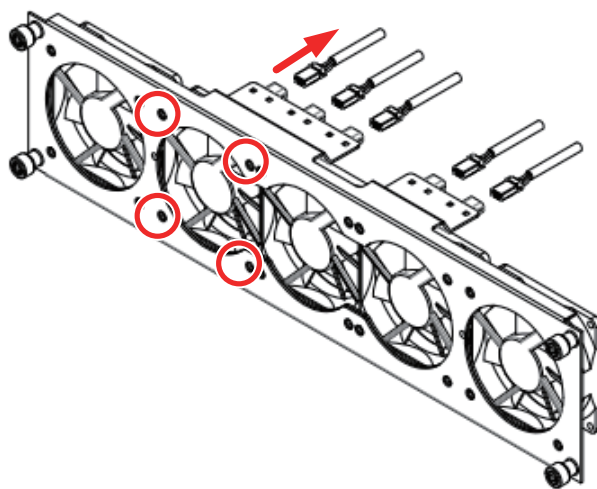


図 7-8

Fan Test を ON にして全てのファンが回転することを確認します。確認後、OFF にしてください。確認方法は 34 ページ「Fan Test」の項目をご参照ください。

7.5 吸気口フィルタの清掃

吸気口モジュールの外し方は図 7-9 を参照してください。ボルト 4 本を外すとモジュールが外れ、清掃することができます。吸気口に障害物があると故障や発電量減少の原因になりますので、定期的を確認し、汚れや障害物があれば取り除いてください。

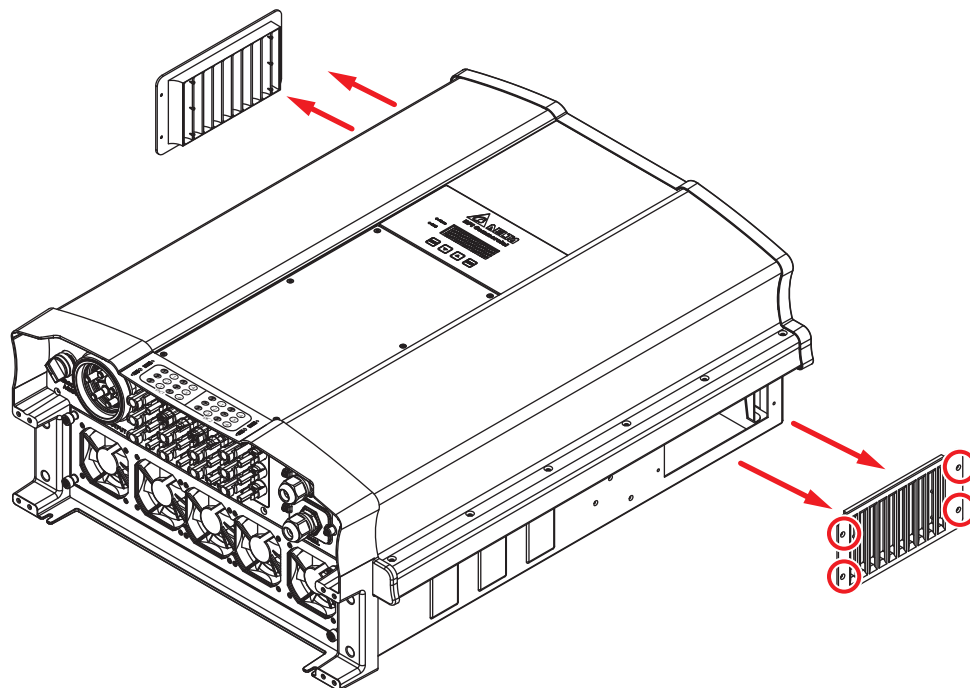


図 7-9

8. エラーメッセージおよび簡易トラブルシューティング

表 8-1 エラーメッセージと簡易トラブルシューティング

エラーメッセージ		
表示	項目	処置
AC Freq High	系統過周波数 (E01)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国が正しく設定されているかを確認してください。 2. 実際の系統周波数が、パワーコンディショナで設定されている過周波数の値より高くなっているかを確認してください。設定値の確認は設定画面から、実際の周波数は Meter 画面にて確認できます。 3. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 4. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
AC Freq Low	系統不足周波数 (E02)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国が正しく設定されているかを確認してください。 2. 実際の系統周波数が、パワーコンディショナで設定されている不足周波数の値より低くなっているかを確認してください。設定値の確認は設定画面から、実際の周波数は Meter 画面にて確認できます。 3. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 4. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
Grid Quality	系統電圧歪率異常 (E07)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統電源とパワーコンディショナ接続部付近に非線形負荷が無いかを確認してください。 2. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 3. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
AC Con. Fail	系統接続不良 (E08)	<ol style="list-style-type: none"> 1. パワーコンディショナの AC 側が正しく接続されているかを確認してください。 2. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 3. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
No Grid	系統未接続 (E09)	<ol style="list-style-type: none"> 1. AC プラグが接続されているかを確認してください。 2. AC 側ブレーカーが OFF になっていないかを確認してください。 3. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 4. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。

表 8-1 エラーメッセージと簡易トラブルシューティング (続)

エラーメッセージ		
表示	項目	処置
AC Volt Low	系統不足電圧 (E10、E15、E20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国、系統保護設定値 (Grid Settings) が正しく設定されているかを確認してください。 2. 実際の系統電圧が、パワーコンディショナで設定されている不足電圧の値より低くなっていないかを、確認してください。設定値の確認は設定画面から、実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。 3. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 4. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
AC Volt High	系統過電圧 (E11、E13、E16、E18、E21、E23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国、系統保護設定値 (Grid Settings) が正しく設定されているかを確認してください。 2. 実際の系統電圧が、パワーコンディショナで設定されている過電圧の値より高くなっていないかを、確認してください。設定値の確認は設定画面から、実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。 3. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 4. 系統電源が正常に戻るまでしばらくお待ちください。
EPO	非常停止入力端子 (EPO) 動作中 (E25)	非常停止入力端子 (EPO) が動作中です。 解除するには、端子を短絡もしくは解放してください。
Solar1 High	太陽電池過電圧 - 入力 1 (E30)	入力 1 の電圧が 1000V 以下になっているかを確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。
Solar2 High	太陽電池過電圧 - 入力 2 (E31)	入力 2 の電圧が 1000V 以下になっているかを確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。
Insulation	絶縁異常 (E34)	<ol style="list-style-type: none"> 1. DC 側の配線に問題がないかを確認してください。 2. DC 側の絶縁を確認してください。

※外部要因エラーコード

上記エラー表示は系統側や直流側、配線等、外部異常を感知したときに表示されます。正常な状態に戻るとパワーコンディショナがカウントダウン後、自動的に運転を再開します。(ただし、電力会社から自動復帰を禁止されている異常については、電力会社の指示に従ってください)

長時間これらのエラー表示が自動的に解消されない場合は、上表の各対処を行っていただき、しばらく経ってもパワーコンディショナが運転を再開しない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

表 8-2 警告メッセージと簡易トラブルシューティング

警告		
表示	項目	処置
Solar1 Low	太陽電池不足電圧－入力 1 (W01)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力 1 の電圧が 180V 以下になっていないかを 確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて 確認できます。 2. 入力電圧が正常に戻るまでお待ちください。
Solar2 Low	太陽電池不足電圧－入力 2 (W02)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力 2 の電圧が 180V 以下になっていないかを 確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて 確認できます。 2. 入力電圧が正常に戻るまでお待ちください。
Derating	出力抑制 (W07)	<p>抑制中です。故障ではありませんので、正常に戻るまでしばらくお待ちください。 抑制には大きく 8 つの種類があります。 本体の液晶ディスプレイの Status に「Derating」と交互に表示される内容により抑制の種類がわかります。*</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. P_RampUp : 「Grid Settings」の P Ramp Up の設定が、100%/m 設定されていない可能性がありますので、確認してください。 2. Thermal (温度抑制) : パワーコンディショナ内部の温度が高くなり、パワーコンディショナの出力が抑えている状態です。 3. Vac_HI もしくは P-U Derating (電圧上昇抑制) : パワーコンディショナ運転中に商用電源の電圧が電圧上昇抑制 (有効電力制御) の設定値より高くなり、パワーコンディショナの出力を抑えている状態です。 ※ 電力会社から有効電力の電圧上昇抑制の指示がない場合は、Mode を OFF にしてください。 ※ Mode が ON の場合、抑制が数日続くようでしたら電力会社への調査依頼が必要になりますので、お買い上げの販売店へご連絡ください。 4. PV Volt : 入力電圧が MPPT 範囲を超えているか、入力電圧が低いのに入力電流が高い状態です。 5. P_Limit : Power Limit において設定値よりパワーコンディショナの発電量が高くなり、パワーコンディショナの出力を制御している状態です。 6. Vac Low : 出力電流が最大出力電流の 80A に到達したが、系統電圧が低すぎるため、入力電力に対して相応な出力電力ができないときに発生します。 7. P vs F : 日本では、使用しない機能ですが、誤って ON に設定されている可能性があります。「Active Power Ctrl」の Power vs. Frequency を OFF にしてください。 8. De-rating : 1～7 の項目以外の抑制が発生している状態です。ファン停止による抑制など。 <p>* ファームウェアのバージョンにより「Derating」や「De-rating」としか表示されない場合があります。</p>
HW FAN	ファン異常 (W11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファンの通気口やファントレイの中に異物がないかを確認してください。 2. ファンの接続を確認してください。 3. ファンが故障している場合は交換してください。(ファンは消耗品になります。)

表 8-2 警告メッセージと簡易トラブルシューティング (続)

警告		
表示	項目	処置
SPD Fail	SPD 損傷 (W15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. SPD が落雷などにより損傷していないか確認してください。 2. 確認方法は「7.1 サージ保護装置 (SPD) の交換」に従って行ってください。 3. SPD が損傷している場合は交換してください。

※ワーニングコード

上記ワーニングコードは、パワーコンディショナが機器外部または内部の異常を感知したときに表示される注意表示です。点検コード履歴 (Event Log) には記録されません。
この表示が出てパワーコンディショナの運転は継続されますが、しばらく経ってもワーニングが解消されない場合は上表の各対処を行ってください。

表 8-3 故障メッセージと簡易トラブルシューティング

故障		
表示	項目	処置
DC Injection	直流分検出 (F01、F02、F03)	<ol style="list-style-type: none"> 1. パワーコンディショナの出力電流に直流が出ていないかを確認してください。 2. 必要に応じて、パワーコンディショナと系統電源の接続部を非線形負荷から離してください。
Temperature	高温異常 (F05)	設置環境に問題がないか (パワーコンディショナのファンと排気口に障害物がないか、設置スペースは確保されているか等) を確認してください。
Temperature	低温異常 (F07)	設置環境に問題がないかを確認してください。
HW NTC1 Fail HW NTC2 Fail HW NTC3 Fail HW NTC4 Fail	温度異常 (F06、F08、F09、F10)	設置環境に問題がないか (パワーコンディショナのファンと排気口に障害物がないか、設置スペースは確保されているか等) を確認してください。
HW RLY	AC リレー異常 (F13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. AC 側、DC 側のスイッチを入れ直してください。 2. 設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW DSP ADC1 HW DSP ADC2 HW DSP ADC3 HW Red ADC1 HW Red ADC2	制御フィードバック信号異常 (F15、F16、F17、F18、F19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力電圧が 150V 以下になっていないかを確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。 2. 設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW Eff.	変換効率異常 (F20)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW COMM1	内部通信異常 -1 (F23)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW COMM2	内部通信異常 -2 (F22)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。

表 8-3 故障メッセージと簡易トラブルシューティング (続)

故障		
表示	項目	処置
Ground Cur.	直流地絡 (F24)	入力側の絶縁を確認してください。
HW Con. Fail	内部電源異常 (F26)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
RCMU Fail	直流地絡検出回路異常 (F27)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
RLY Short	リレー溶着検出 (F28)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
RLY Open	リレー接続不可 (F29)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
Bus Unbal.	入力接続不良 (F30)	1. 入力の接続を確認してください。 2. 太陽電池の絶縁を確認してください。
HW Bus OVR	昇圧部過電圧 (F31、F33、F35)	DC 入力が 1000V を超えていないかを確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。
AC Current High	出力過電流 (F36、F37、F38、F39、F40、F41)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW CT A Fail HW CT B Fail HW CT C Fail	CT センサー不良 (F42、F43、F44)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW AC OCR	系統過電流 (F45)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
HW ZC Fail	同期信号検知異常 (F50)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
DC Cur.	入力過電流 (F60、F61、F70、F71)	設置環境や配線に問題がないかを確認してください。
Ext Comm Fail	外部通信異常 (F74)	Power Limit (出力制御機能) 使用時、パワーコンディショナと監視装置 (パワーモニター) の通信が 5 分以上不通になった場合に発生します。パワーモニターもしくは監視装置の設置環境や配線に問題がないかを確認してください。通信が正常に戻れば、自動的に運転を再開します。異常が解消されない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

表 8-3 故障メッセージと簡易トラブルシューティング (続)

メッセージ		
表示	項目	処置
HW DC RLY DC Relay Fail	DC リレー異常 (F76)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入力電圧が 150V 以下になっていないかを確認してください。実際の電圧は Meter 画面にて確認できます。 2. 設置環境や配線に問題がないかを確認してください。

※機器異常エラーコード

上記エラー表示はパワーコンディショナ内部の異常を感知したときに表示されます。

長時間これらのエラー表示が自動的に解消されない場合は、上表の各対処を行っていただき、しばらく経ってもパワーコンディショナが運転を再開しない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

表 8-4 手動復帰方法

メッセージ		
表示	項目	処置
Lock	手動復帰待機状態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動 / 手動復帰 (Grid err. Lock) が ON になっており、系統に何らかの事故があり、停電状態になっていないかを確認してください。 2. 手動復帰待機状態を解除するには、ENT キーを長押ししてください。 ※弊社パワーモニターから解除する場合は、USB キーが必要です。(USB キーの入手は、代理店にお問い合わせください。)

9. パワーコンディショナの取り外し

9.1 取り外し手順

パワーコンディショナの取り外しを行う場合は、必ず以下の規定と手順を守ってください。

人員負傷の事故を防ぐため、以下の手順を守ってください。



- パワーコンディショナのAC/DCスイッチをオフにします。
- ACのブレーカーを切り、商用電源との接続を解除します。
- AC電源とDC電源の完全な切り離しを確認します。
- 商用電源と接続されているACケーブルを抜きます。
- 太陽電池と接続されているDCケーブルを抜きます。
- すべての通信接続ケーブル (RS-485、EPO、Dry Contact) を抜きます。
- 以上の手順が完了後、パワーコンディショナを取り外します。



- 誤配線すると内部部品の破壊、破損、発火、不動作による機能障害が起こります。配線の際には、端子名称および極性を確認して正しく接続してください。

※ 本機の制御電源は交流です。系統電源が喪失した場合、本体のAC/DCスイッチが無効となります。

10. 技術データ

10.1 製品仕様

表 10-1 RPI M50J 仕様

項目	仕様
型式	RPI M50J
運転電圧範囲 (DC)	200 ~ 1000V
最大許容電圧 (DC)	1100V (1000V~1100V間は運転しません)
MPPT 電圧範囲 (定格出力における)	520~850V (周囲温度25℃以下) / 520~800V (周囲温度40℃時)
起動電圧	250V
定格電圧 (DC)	600V
最大電流 (各入力 / 各MPPT) (DC)	12A* / 50A
入力数 / MPPT回路数	12入力 / 2回路
定格出力 (有効 / 皮相)	49.9kW / 50kVA
最大出力 (有効 / 皮相)	49.9kW / 55kVA (力率制御時)
定格電流 / 最大電流 (AC)	72.3A / 80A
変換効率 (定格出力時 / 最大)	98% (JIS C8961) / 98.6%
定格出力電圧 (AC)	400V / 420V / 440V
相数	三相 3 線
過負荷耐量	100%連続 (定格電流、周囲温度40℃)
連系保護	OVR、UVR、OFR、UFR、有効 / 無効電力制御 / FRT
単独運転検出 (能動/受動)	無効電力変動方式 / 位相跳躍方式
系統電圧可変範囲	360V~480V
系統周波数可変範囲	45Hz~65Hz
力率 (設定1.0の場合)	0.99以上
力率一定制御範囲	遅れ0.8~進み0.8
電流歪率	総合 3% / 各次 2%以下
主回路構成	自励電圧形

* 温度計数を考慮し、Iscが12A以内になるようにすること。

表 10-1 RPI M50J 仕様 (続)

項目	仕様
型式	RPI M50J
スイッチング方式	正弦波PWM方式
インバータ制御方式	電圧型電流制御
絶縁方式	トランスレス
入出力インターフェース	ACコネクタ (China Aviation Optical-Electrical Technology社製)、 DCコネクタ (マルチコンタクト社製)
力率調整範囲	遅れ0.8～進み0.8
待機消費電力	2W未満
通信方式	RS-485
設置環境	<ul style="list-style-type: none"> ・直接日光が当たらない場所 ・爆発性・可燃性・腐食性および、その他有毒ガスのない場所、 または同ガス発生のおそれがない場所 ・直接潮がかからない場所 ・異常な振動、衝撃を受けない場所 ・騒音について厳しい規制を受けない場所 ・電氣的雑音について厳しい規制を受けない場所 ・温度変化の激しくない場所 (結露なき場所で使用すること)
冷却方式	強制空冷式
騒音	72dB以下
設置場所	屋外(屋内も可)
表示	キャラクタLCDモジュール (20×4行)
操作ボタン	上、下、EXIT、ENTER
寸法(W×H×D)	612×740×278mm
質量	74kg
防水・防塵等級	IP65
使用温度	-25～60℃ *
使用湿度	95%RH以下(ただし、結露の無いこと)
設置高さ	標高2000m以下

* 周囲温度が40℃を超える場合は、パワーコンディショナの保護機能により出力を制御することがあります。

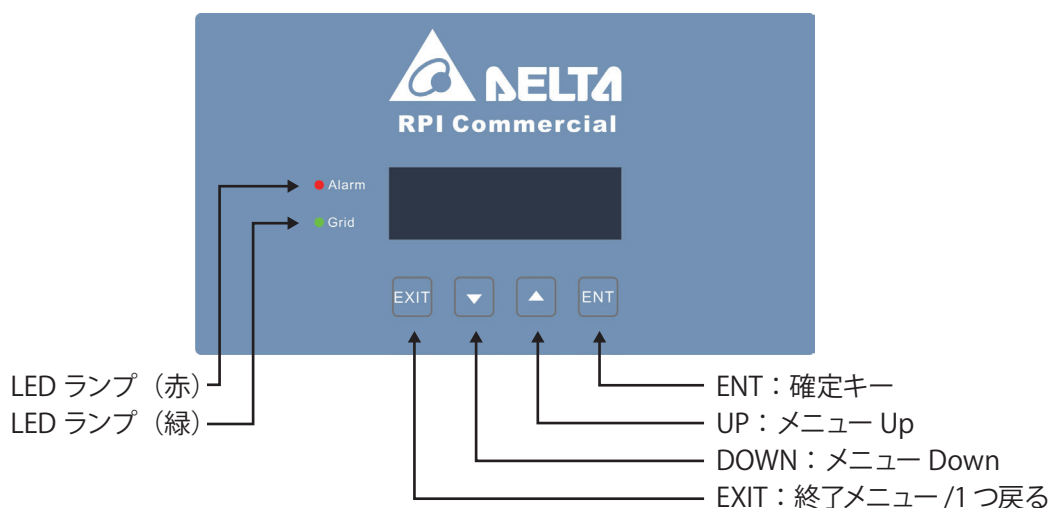
<付録>

■日本向け設定の方法について■

ここでは、日本国内で施工するのに必要な部分を抜粋し、設定方法について説明しています。
施工されるときは、本書をよくお読みいただき正しくお取り扱いください。

1. 画面操作の方法

液晶ディスプレイとボタン



・ボタンの説明

EXIT キー：選択項目を確定せずに戻ります。(キャンセル)

▽/△キー：項目を移動、または変更します。

ENT キー：選択項目を確定します。

・アイコンの説明

[▶]：現在選択されている項目を表します。

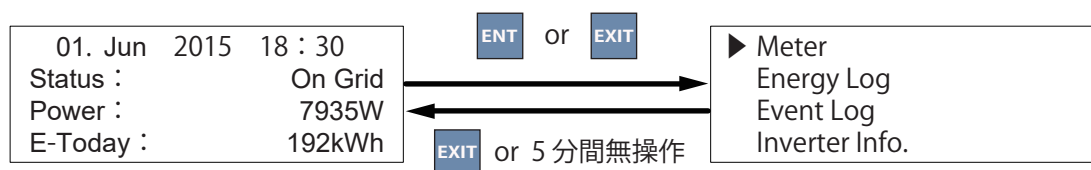
[⇒]：[▶] で ENT キーを押すと表示されます。このアイコンが表示されているとき、▽/△キーで数値が変更出来ます。[⇒] で数値を変更後、ENT キーを押さないと変更が確定できません。EXIT を押すと変更前の数値に戻ります。

[_]：数字の下に、このアイコンが表示されているとき、▽/△キーで数値が変更出来ます。

・メインメニューの表示方法

初期画面から ENT キーもしくは EXIT キーを押すと、メインメニュー画面が表示されます。

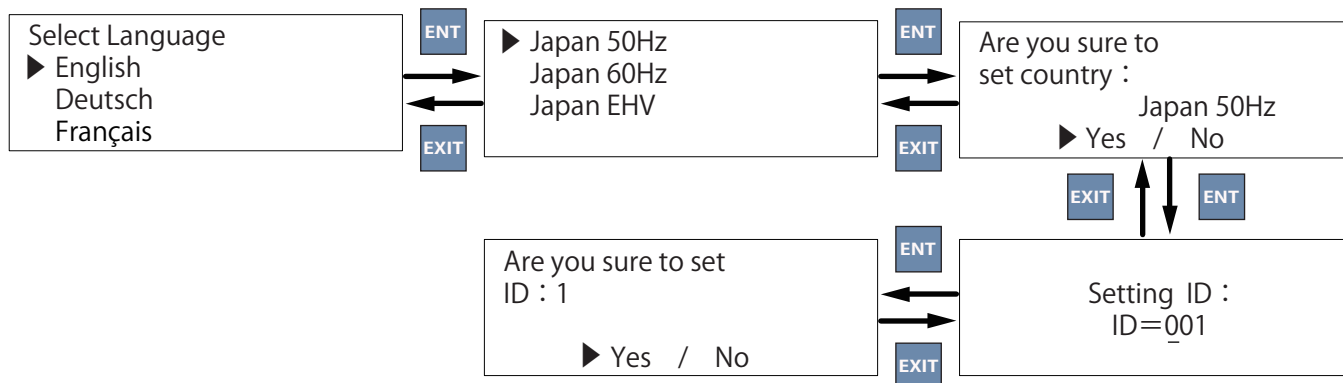
メインメニュー画面表示中に EXIT キーを押すと初期画面が表示されます。



2. 設定方法

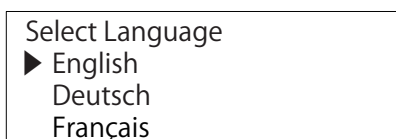
2.1 初期設定

初めてパワーコンディショナを起動させたとき、設置する国、表示言語と ID の設定画面が起動します。パワーコンディショナは AC 電源で動き、液晶ディスプレイが起動します。言語、国と ID を設定し、初期画面にエラー表示、障害や警告がないことを確認してください。これで、DC 電源に供給することができ、最初 2 分間程度パワーコンディショナのセルフテストを行います。太陽電池から電気が来ていれば、パワーコンディショナの連系が始まります。



2.1.1 言語の設定

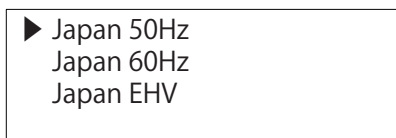
言語設定画面が表示されます。「English」を選択し、ENT キーを押すと、国設定が表示されます。
※本機に日本語の設定はありません。



2.1.2 国の設定

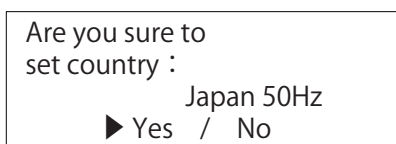
言語を設定すると、国設定画面が表示されます。

(1) ▽キーで、設置場所の周波数にあった項目を選択してください。



(2) 国が確定すると、確認画面が表示されます。

「Yes」を選択し、ENT キーを押してください。



※ 特別高圧連系の発電所において、受変電設備に系統保護機能が備わっている場合は、電力会社、主任技術者などにご相談の上、Japan EHV を選択することが可能です。

2.1.3 ID の設定

国を設定すると、ID 設定画面が表示されます。

通信モジュールを使って、RS-485 で監視システムなどを導入する場合、各パワーコンディショナに ID を設定する必要があります。

1 つの監視システム内に同じ ID を設定すると誤動作、通信不良の原因になります。

本機では、ID は 254 個まで設定可能ですが、システムにより設定可能な ID の数が決まっていますので、ご注意ください。

※初期設定で ID を設定しなかった場合は、付録の 3.7 ID の設定 (68 ページ) から ID を設定することができます。

- (1) 1 つの監視システム内に ID が重複の内容に適切な ID を設定してください。

Setting ID : ID=001

- (2) ID が確定すると、確認画面が表示されます。

「Yes」を選択し、ENT キーを押してください。

Are you sure to set ID : 1 ▶ Yes / No

- (3) 初期画面が表示されます。

01. Jun 2015 18 : 30
Status : On Grid
Power : 7935W
E-Today : 192kWh

3. 設定手順

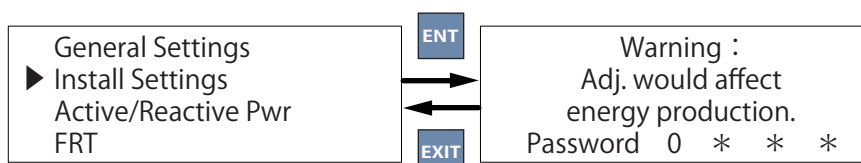
設定は以下の順で行ってください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ① 国の設定
(初期設定を行った場合は不要です) | ⑧ OVR、UVR、OFR、UFR の設定 |
| ② 言語の設定 (初期設定を行った場合は不要です) | ⑨ 電圧上昇抑制の設定 |
| ③ 日時の設定 | ⑩ 力率一定制御の設定 |
| ④ 電気方式の確認・設定 | ⑪ 出力制御機能の設定 |
| ⑤ Insulation(絶縁抵抗)の設定 | ⑫ その他 |
| ⑥ 自動/手動復帰の設定 | ⑬ Japan EHV (特別高圧) |
| ⑦ ID の設定 (初期設定を行った場合は不要です) | |

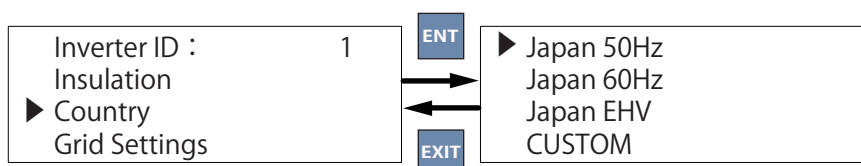
3.1 国の設定

初期設定を行った場合は、この項目は必要ありません。

- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。



- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
(3) 「Country」を選択し、設置場所の周波数にあった項目を選択します。



- (4) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

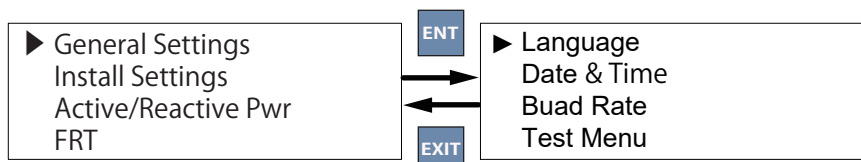
※ 特別高圧連系の発電所において、受変電設備に系統保護機能が備わっている場合は、電力会社、主任技術者などにご相談の上、Japan EHV を選択することが可能です。

※ Grid Code(国) 設定を再設定すると Max Power を含むすべての整定値が初期値に戻りますので、一度設定したら変更しないようにしてください。同じ国の設定の選択もしないでください。

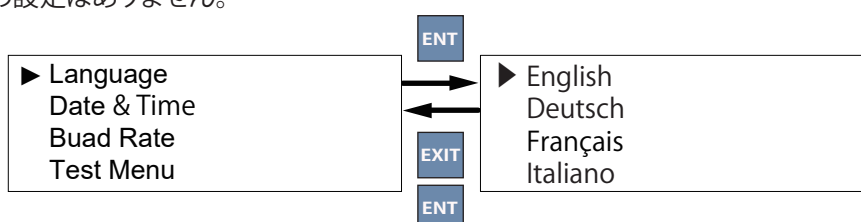
3.2 言語の設定

初期設定を行った場合は、この項目は必要ありません。

- (1) メインメニューから「General Settings」を選択し、ENT キーを押すと、General Settings 画面が表示されます。



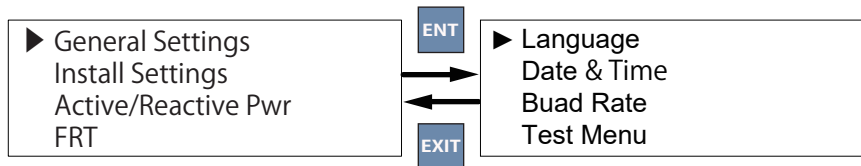
- (2) 「Language」を選択し、ENT キーを押すと言語が選択できます。
※日本語の設定はありません。



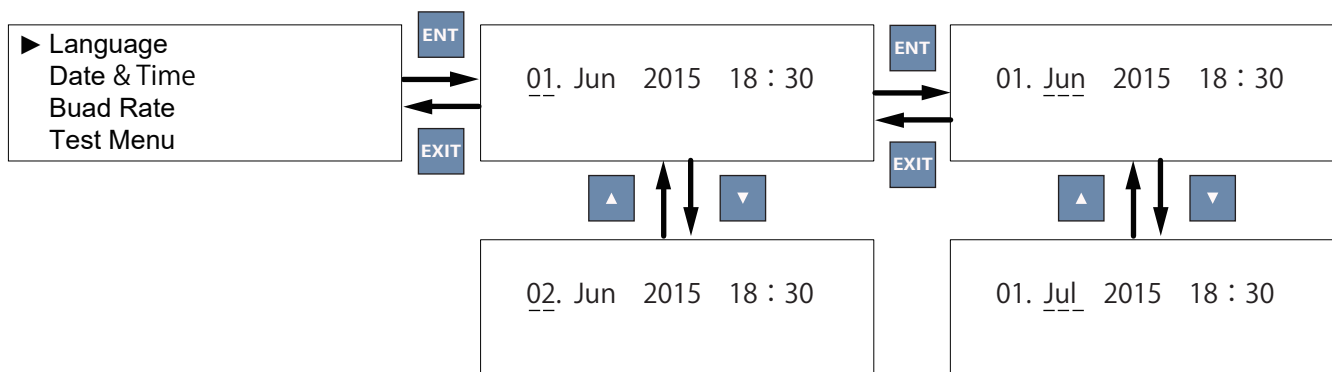
- (3) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

3.3 日時の設定

- (1) メインメニューから「General Settings」を選択し、ENT キーを押すと、General Settings 画面が表示されます。



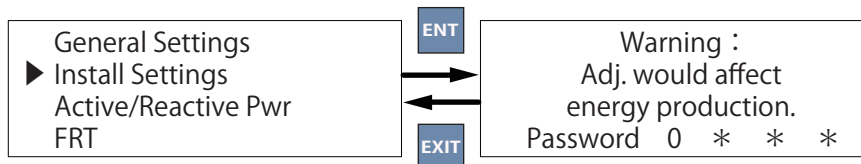
- (2) 「Date & Time」を選択し、ENT キーを押すと日時変更画面が表示されます。
 (3) ENT キーを押すと次の項目へ、▽/△キーを押すと設定値が変更されます。



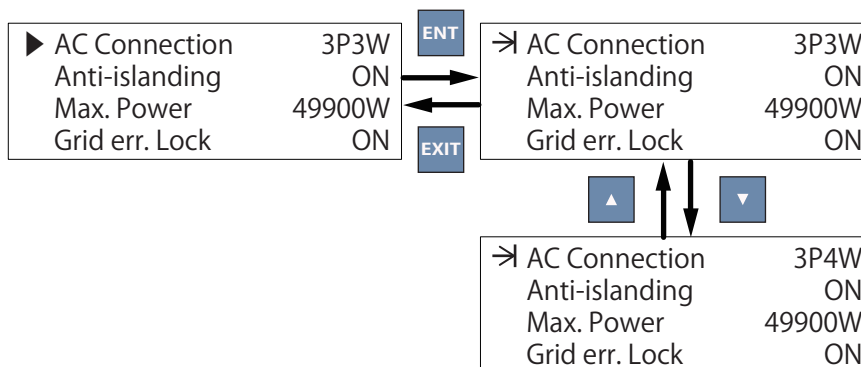
- (4) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

3.4 電気方式の確認・設定

- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。



- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
 (3) 「AC Connection」を選択し、電気方式を確認します。
 (4) 変更する場合は、ENT キーを押し、▽/△キーで電気方式を変更します。

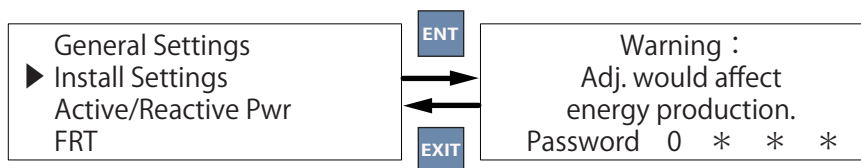


- (5) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

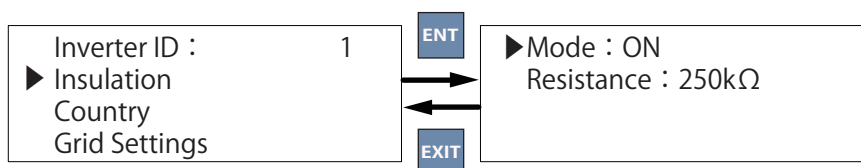
3.5 Insulation（絶縁抵抗）の設定

絶縁設定は4つのモードがあります。

- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENTキーを押すと、パスワード画面が表示されます。



- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
 (3) 「Insulation」を選択し、ENTキーを押すと、Insulation 画面が表示されます。

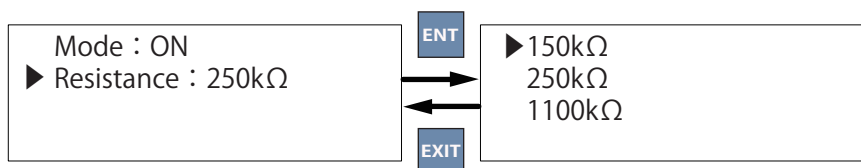


- (4) ▽/△キーで Mode を ON/OFF できます。

Mode	説明	動作条件（エラーが発生し停止する条件）
ON	機能を使う場合に設定します	Resistance の設定値より小さくなったとき
Plus Grounded*	使用できません	選択しないでください
Minus Grounded*	使用できません	選択しないでください
OFF	機能を使わない場合に設定します	動作しません

Mode 設定を ON にすると、パワーコンディショナの運転前に、太陽電池の絶縁抵抗がシステムの設定値 (Resistance) より高いか（もしくは低い）かをチェックし、設定値より低ければ運転を一時停止します。
 * 本機は正極接地、負極接地を行いたい場合は、ご相談ください。

- (5) 絶縁抵抗を測定し、Resistance の値を決めます。



例えば、絶縁抵抗が 1MΩ の場合 (Mode : ON) Resistance を測定値より小さな設定値の 250kohm に設定してください。絶縁抵抗が 250kΩ を下回ったことを感知するとパワーコンディショナが停止します。

- (6) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

3.6 自動 / 手動復帰の設定

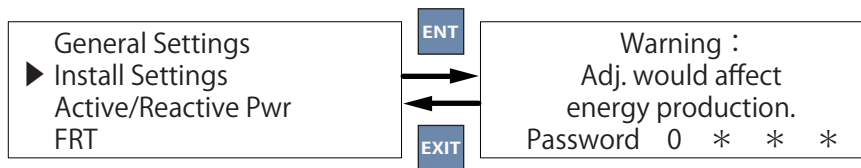


この設定が手動復帰 (ON) のとき、系統から本機に一度正しい AC 電力が入された場合、その後、AC 電力を外したり、停止したりするとロックされます。正しい AC 電力を入力しないとロックは解除できません。

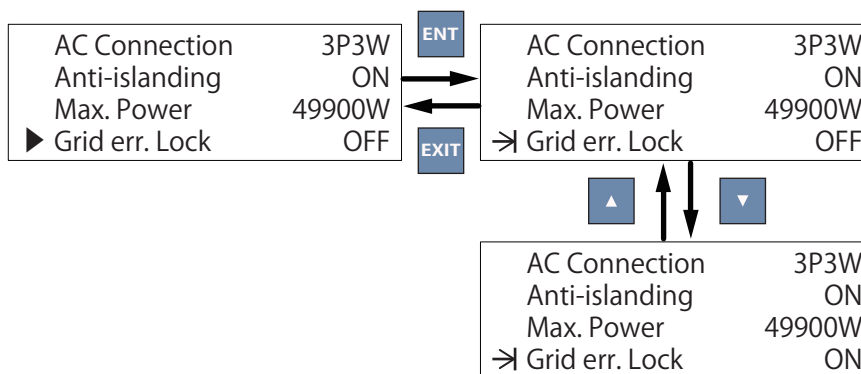
本機を高圧連系する場合、停電復旧時に手動復帰の要求があります。その際、手動復帰 (ON) に設定します。初期設定は手動復帰 (ON) になっています。

低圧連系する場合は、通常自動復帰 (OFF) に設定しますが、電力会社と協議して決めてください。

- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。



- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
 (3) 「Grid err. Lock」を選択し、電気方式を確認します。
 (4) 変更する場合は、ENT キーを押し、▽/△キーで自動 (OFF) / 手動 (ON) 復帰を選択します。



- (5) ENT キーを押すと、設定が確定されます。

※手動復帰 (ON) の場合、系統に何らかの事故があり、停電状態になった場合、液晶ディスプレイのパワーコンディショナの動作状態に“Lock”と表示されます。

01. Jun 2015 18 : 30
Status : Lock
Power : 7935W
E-Today : 192kWh

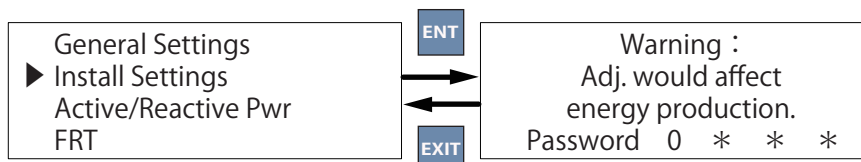
これは、手動復帰待機状態です。電力会社の指示に従い復帰する場合は、ENT キーを長押ししてください。
 ※系統に異常がある場合は、ロックを解除できません。系統が正常になるのを待ってから解除してください。

3.7 IDの設定

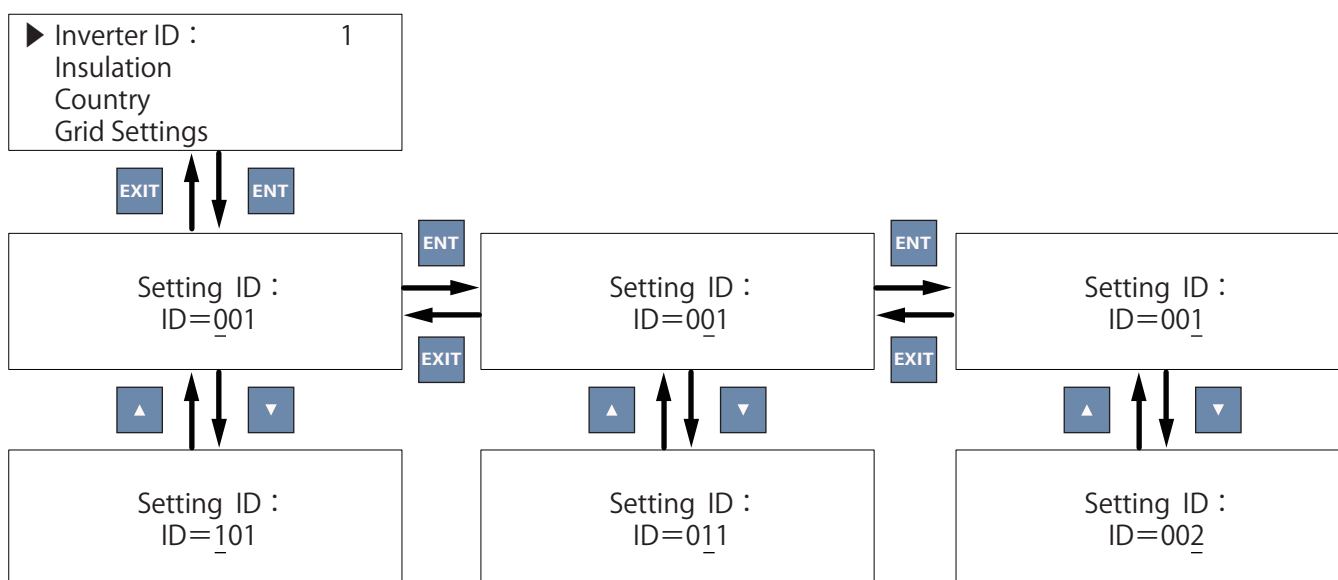
初期設定を行った場合は、この項目は必要ありません。

監視システムやパワーモニターを使用する場合、初期設定のときにID設定を行ってください。1つの監視システム内に同じIDを設定すると誤動作、通信不良の原因になります。

- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENTキーを押すと、パスワード画面が表示されます。



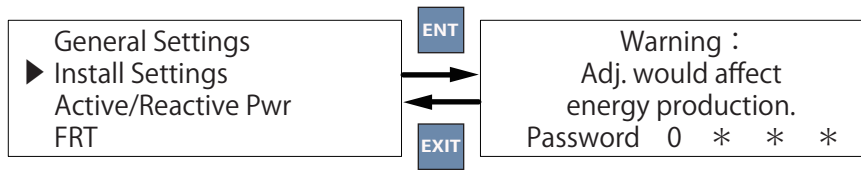
- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
(3) 「Inverter ID」を選択し、ENTキーを押すと、Inverter ID 画面が表示されます。
(4) ▽/△キーで数字を変更できます。(一桁ごとに変更できます。)



- (5) ENTキーを押すと、設定が確定されます。

3.8 OVR、UVR、OFR、UFR の設定

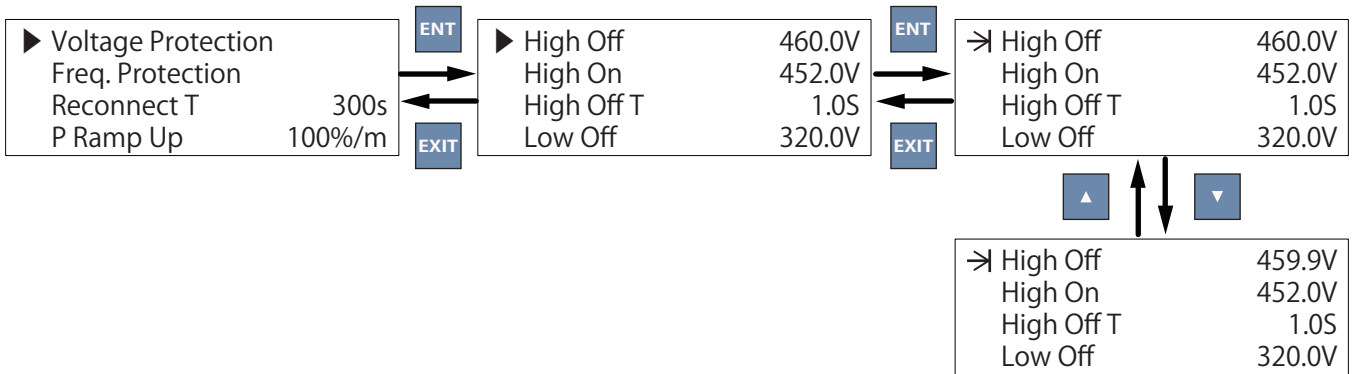
- (1) メインメニューから「Install Settings」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。
 ※設定には、施工者用パスワードが必要です。



- (2) パスワードを入力すると Install Settings 画面が表示されます。
 (3) 「Grid Settings」を選択し、ENT キーを押すと、Grid Settings 画面が表示されます。



- (4) ENT キーを押すと設定画面に遷移します。
 (5) 変更したい項目を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで数値を変更します。



- (6) Grid Settings 画面は、4つの項目に分かれており、それぞれの項目の内容は次頁のとおりです。

Grid Settings 画面	設定項目	本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Voltage Protection	OVR (過電圧)	High Off *	OVR の感度を設定	460.0V	286.0~528.0V (ステップ：0.1)
		High On	OVR の感度 -8V の値を設定	452.0V	
	OVR 時限	High Off T	OVR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	UVR (不足電圧)	Low Off *	UVR の感度を設定	320.0V	286.0~528.0V (ステップ：0.1)
		Low On	UVR の感度 +8V の値を設定	328.0V	
	UVR 時限	Low Off T	UVR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	OVR (過電圧)	Hi Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	498.0V	-
		Hi On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	490.0V	-
	OVR 時限	Hi Off SI T	初期値のまま使用してください。	5.0s	-
	UVR (不足電圧)	Lo Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	318.0V	-
		Lo On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	326.0V	-
	UVR 時限	Lo Off SI T	初期値のまま使用してください。	5.0s	-
Freq. Protection	OFR (周波数上昇)	High Off *	OFR の感度を設定	51.00Hz	45.00~65.00Hz (ステップ：0.01)
				61.20Hz	
		High On	OFR の感度 -0.05Hz の値を設定	50.95Hz	
				61.15Hz	
	OFR 時限	High Off T	OFR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	UFR (周波数低下)	Low Off *	UFR の感度を設定	48.50Hz	45.00~65.00Hz (ステップ：0.01)
				58.80Hz	
		Low On	UFR の感度 +0.05Hz の値を設定	48.55Hz	
				58.85Hz	
	UFR 時限	Low Off T	UFR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	OFR (周波数上昇)	Hi Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	51.00Hz	-
				61.20Hz	
Hi On Slow		日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	50.95Hz	-	
			61.15Hz		
OFR 時限	Hi Off SI T	初期値のまま使用してください。	1.0s	-	
UFR (周波数低下)	Lo Off Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	48.50Hz	-	
			58.80Hz		
	Lo On Slow	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	48.55Hz	-	
			58.85Hz		
UFR 時限	Lo Off SI T	初期値のまま使用してください。	1.0s	-	
Reconnect T	復電後投入 ロック	Reconnect T	連系保護リレー復帰時間を設定	300s	0 ~ 300 秒 (ステップ：1)
P Ramp Up	出力電力 上昇速度	P Ramp Up	通常 100%で設定	100%/m	0 ~ 6000%/m (ステップ：1)

* High Off、Low Off を設定したとき、エラーメッセージや設定値が元に戻る場合、先に High On、Low On を行ってください。

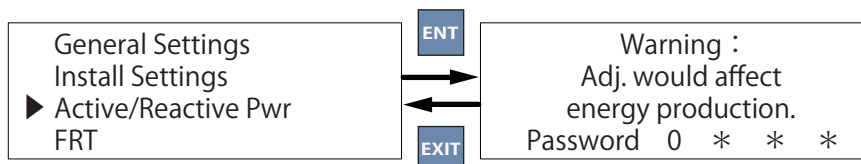
3.9 電圧上昇抑制の設定

電圧上昇抑制は、進相無効電力制御 / 有効電力制御が設定できます。
これを実現するには、進相無効電力制御 (Q(V)) と有効電力制御 (P(V)) の設定が必要です。

■ 進相無効電力制御の設定 (Q(V))

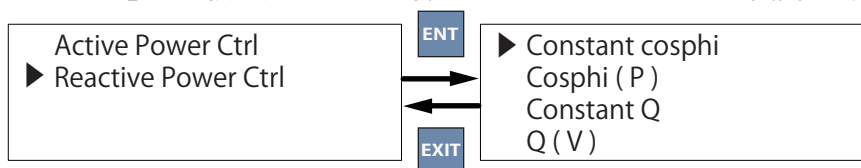
(1) メインメニューから「Active/Reactive Pwr」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。

※設定には、施工者用パスワードが必要です。

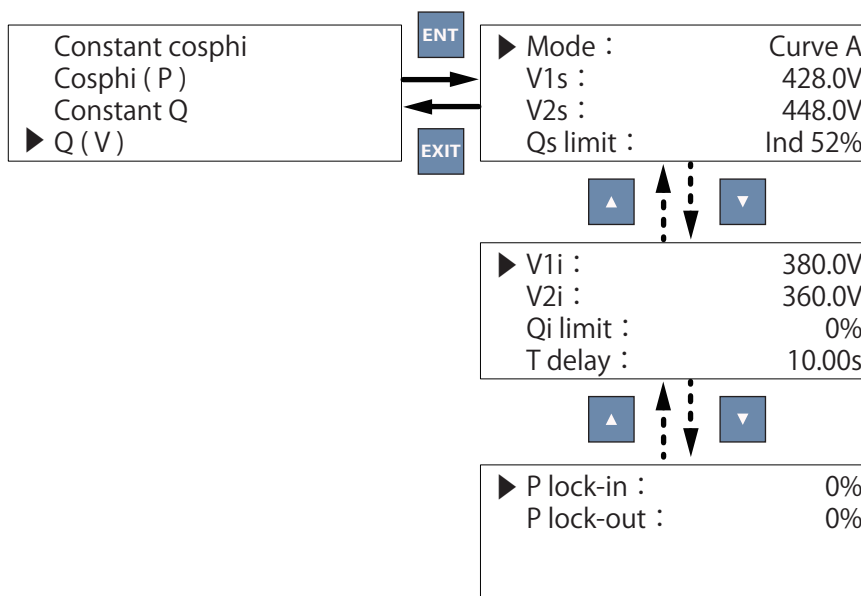


(2) パスワードを入力すると Active/Reactive Pwr 画面が表示されます。

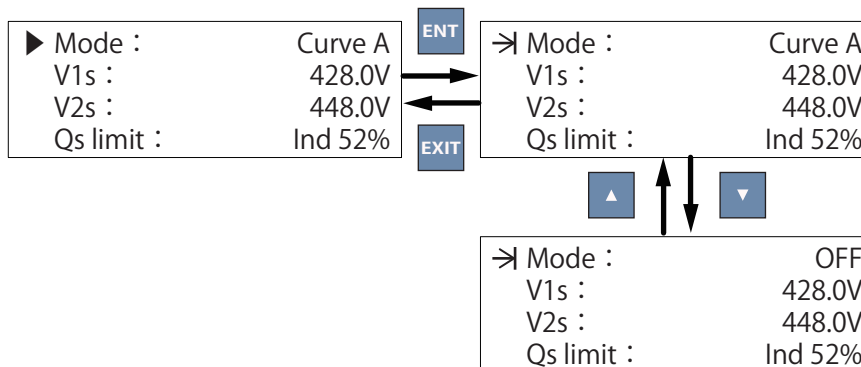
(3) 「Reactive Power Ctrl」を選択し、ENT キーを押すと、Reactive Power Ctrl 画面が表示されます。



(4) 「Q(V)」を選択し、ENT キーを押すと、Q(V) 画面が表示されます。



(5) 変更したい項目を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで数値を変更します。



(6) Q(V) 画面の項目の内容は下記のとおりです。

本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Mode*1	機能の動作 / 不動作の設定 (Curve B は使わないでください。)	Curve A	Curve A / Curve B / OFF
V1s	進相無効電力注入開始電圧	428.0V	381.1 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
V2s	進相無効電力最大注入電圧 V Lock-in の値を設定します。	448.0V	381.1 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
Qs limit	V2s 時の進相無効電力 (85%) *2	Ind 52	0 ~ Ind63 (ステップ：1)
V1i	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	380.0V	-
V2i	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	360.0V	-
Qi limit	日本の規定では使用しません。 初期値のまま使用してください。	0%	-
T dealy	日本の規定では使用しません。	10.00s	-
P lock-in	日本の規定では使用しません。	0%	-
P lock-out	日本の規定では使用しません。	0%	-

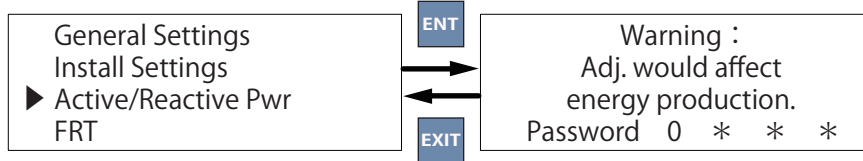
*1 Mode で CurveA を選択すると「Constant Cosphi (力率一定制御)」が OFF になります。同時には使用できません。

*2 電力会社からの指定が無い場合は、初期値のままお使いください。初期値 Ind52 は、力率 85%を意味します。変換表は次のとおりです。

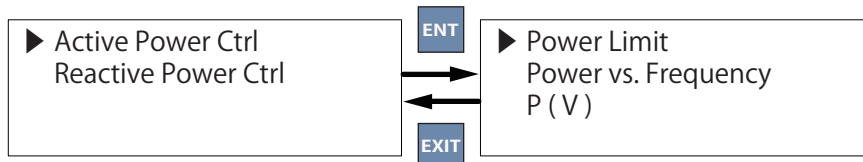
整定値	運転力率	整定値	運転力率	整定値	運転力率	整定値	運転力率
0	100%	Ind16	98.71%	Ind32	94.74%	Ind48	87.73%
Ind1	99.99%	Ind17	98.54%	Ind33	94.40%	Ind49	87.17%
Ind2	99.98%	Ind18	98.37%	Ind34	94.04%	Ind50	86.60%
Ind3	99.95%	Ind19	98.18%	Ind35	93.67%	Ind51	86.02%
Ind4	99.92%	Ind20	97.98%	Ind36	93.30%	Ind52	85.42%
Ind5	99.87%	Ind21	97.77%	Ind37	92.90%	Ind53	84.80%
Ind6	99.82%	Ind22	97.55%	Ind38	92.50%	Ind54	84.17%
Ind7	99.75%	Ind23	97.32%	Ind39	92.08%	Ind55	83.52%
Ind8	99.68%	Ind24	97.08%	Ind40	91.65%	Ind56	82.85%
Ind9	99.59%	Ind25	96.82%	Ind41	91.21%	Ind57	82.16%
Ind10	99.50%	Ind26	96.56%	Ind42	90.75%	Ind58	81.46%
Ind11	99.39%	Ind27	96.29%	Ind43	90.28%	Ind59	80.74%
Ind12	99.28%	Ind28	96.00%	Ind44	89.80%	Ind60	80.00%
Ind13	99.15%	Ind29	95.70%	Ind45	89.30%	Ind61	79.24%
Ind14	99.02%	Ind30	95.39%	Ind46	89.79%	Ind62	78.46%
Ind15	98.87%	Ind31	95.07%	Ind47	88.27%	Ind63	77.66%

■ 有効電力制御の設定 (P(V))

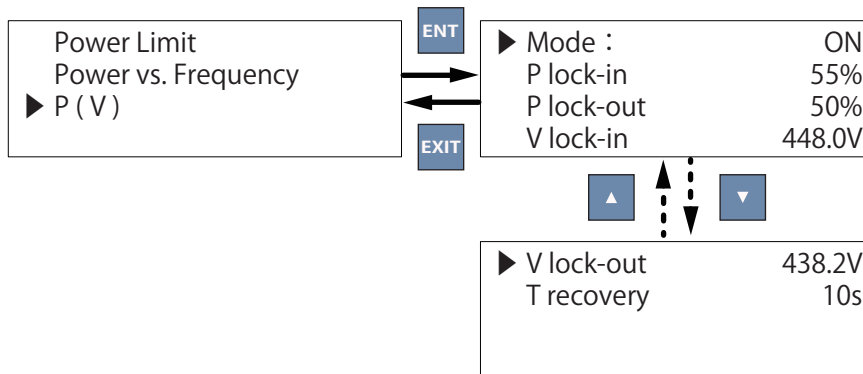
- (1) メインメニューから「Active/Reactive Pwr」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。
 ※設定には、施工者用パスワードが必要です。



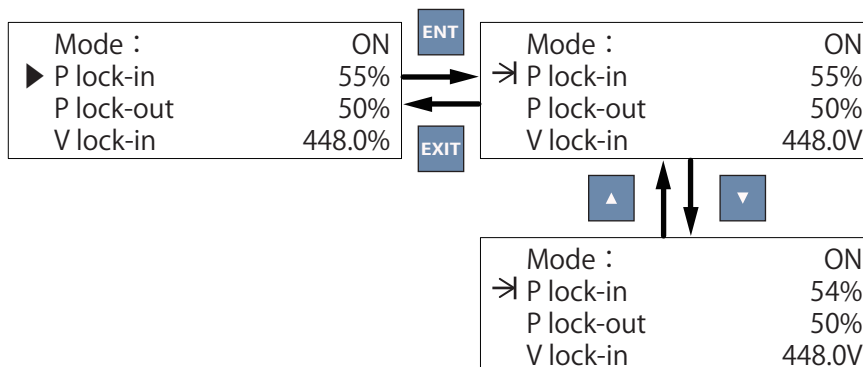
- (2) パスワードを入力すると Active/Reactive Pwr 画面が表示されます。
 (3) 「Active Power Ctrl」を選択し、ENT キーを押すと、Active Power Ctrl 画面が表示されます。



- (4) 「P(V)」を選択し、ENT キーを押すと、P(V) 画面が表示されます。



- (5) 変更したい項目を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで数値を変更します。



(6) P(V) 画面の項目の内容は下記のとおりです。

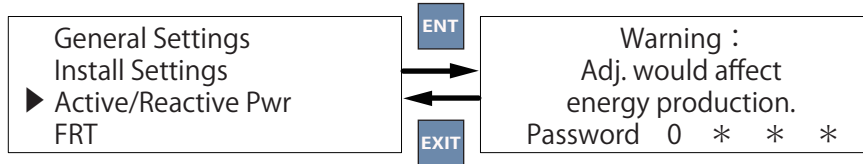
本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Mode*	機能の動作 / 不動作の設定	ON	ON / OFF
P lock-in	出力制御開始出力 初期値のまま使用してください。	55%	10 ~ 100% (ステップ: 1)
P lock-out	出力制御レベル 初期値のまま使用してください。	50%	0 ~ 50% (ステップ: 1)
V lock-in	出力制御開始電圧	448.0V	398.4 ~ 506.0V (ステップ: 0.1)
V lock-out	出力制御停止電圧	438.2V	358.5 ~ 506.0V (ステップ: 0.1)
T recovery	連系保護リレー復帰時間を設定	10s	10 ~ 900 秒 (ステップ: 1)

* 電力会社から有効電力の電圧上昇抑制の指示がない場合は、Mode を OFF にしてください。

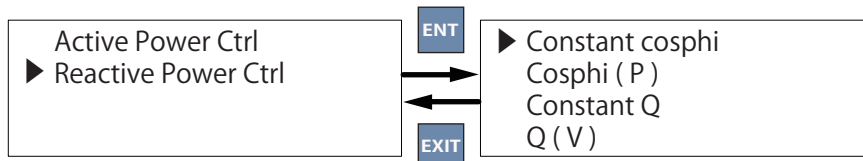
3.10 力率一定制御の設定

電力会社から力率一定制御の要請があった場合、この項目を設定してください。要請が無い場合は、Mode : OFF でご使用ください。

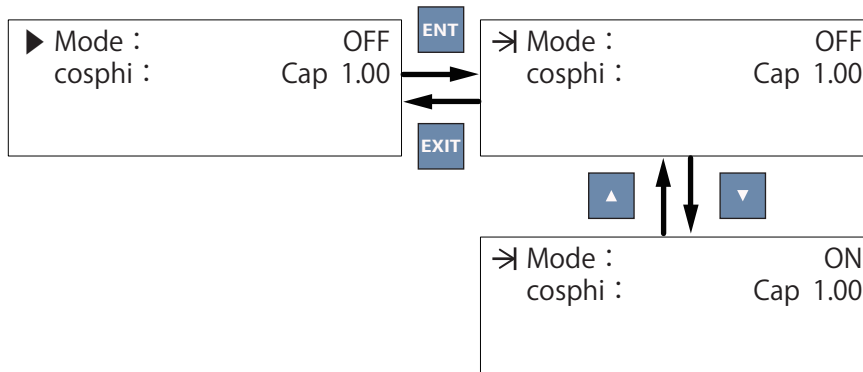
- (1) メインメニューから「Active/Reactive Pwr」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。
 ※設定には、施工者用パスワードが必要です。



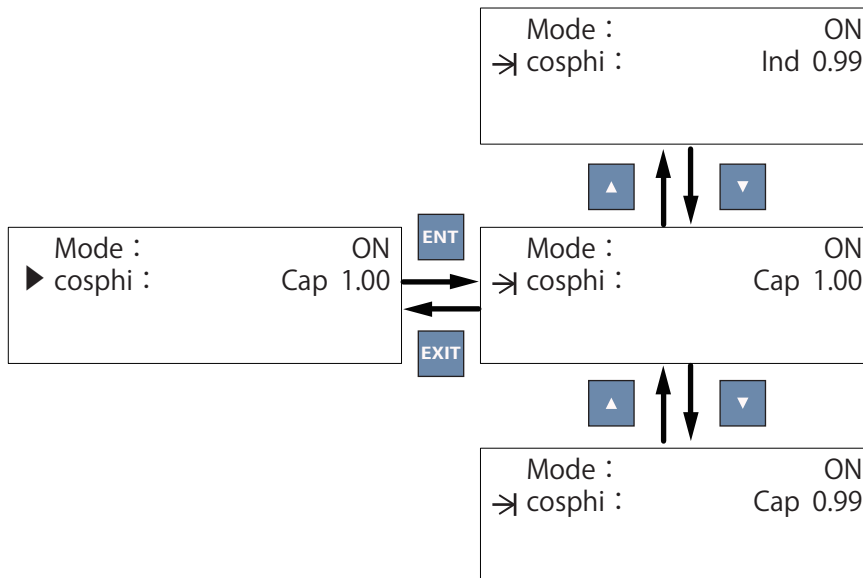
- (2) パスワードを入力すると Active/Reactive Pwr 画面が表示されます。
 (3) 「Reactive Power Ctrl」を選択し、ENT キーを押すと、Reactive Power Ctrl 画面が表示されます。



- (4) 「Constant cosphi」を選択し、ENT キーを押すと、Constant cosphi 画面が表示されます。
 (5) 「Mode」を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで「ON」にします。



- (6) 「cosphi」を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで数値を変更します。



(7) Constant cosphi 画面の項目の内容は下記のとおりです。

本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Mode :	機能の動作 / 不動作の設定	OFF	ON / OFF
cosphi :	力率一定制御範囲 (系統電源から見て)	Cap 1.00	Cap 0.80 (進み) ~ Cap 1.00 ~ Ind 0.80 (遅れ)

* Mode で ON を選択すると「Q(V) (進相無効電力制御)」が OFF になります。同時には使用できません。

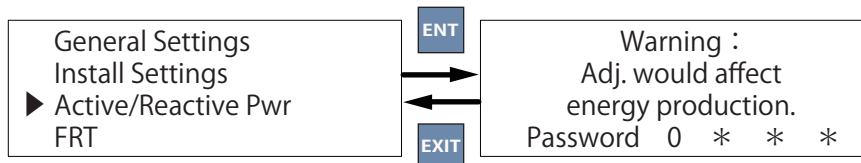
3.11 出力制御機能の設定

出力制御が必要な場合、この項目を設定してください。

出力制御機器からコントロールしない場合は、設定する必要はありません。

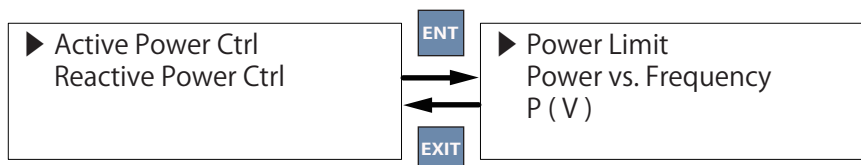
- (1) メインメニューから「Active/Reactive Pwr」を選択し、ENT キーを押すと、パスワード画面が表示されます。

※設定には、施工者用パスワードが必要です。

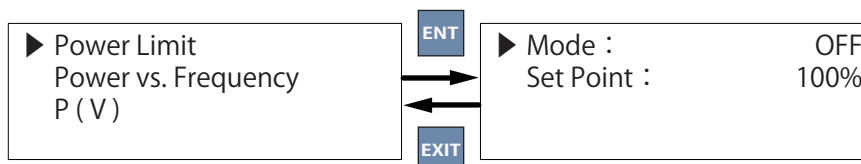


- (2) パスワードを入力すると Active/Reactive Pwr 画面が表示されます。

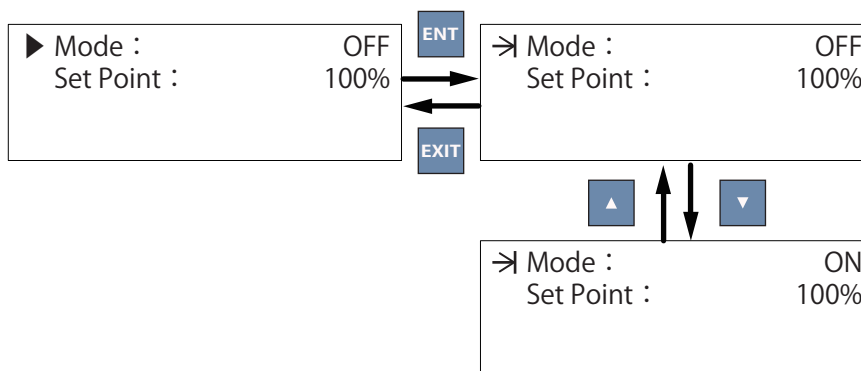
- (3) 「Active Power Ctrl」を選択し、ENT キーを押すと、Active Power Ctrl 画面が表示されます。



- (4) 「Power Limit」を選択し、ENT キーを押すと、Power Limit 画面が表示されます。



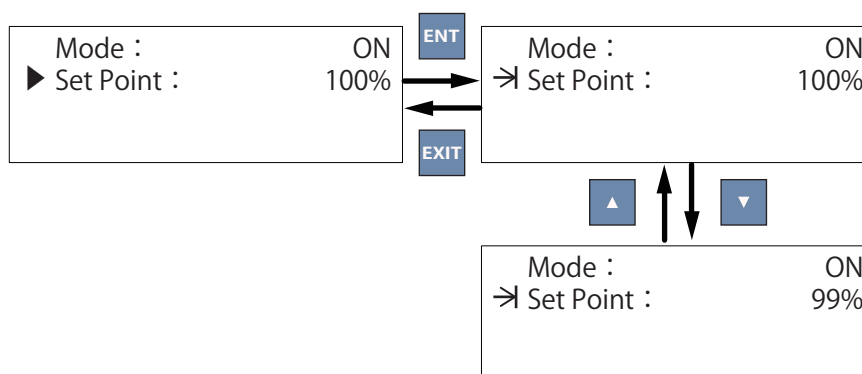
- (5) 「Mode」を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで「ON」にします。



※パワーコンディショナの発電量が設定値を超えた場合、Alarm (赤) の LED ランプが点滅し、Status に「Derating」と表示されますが、出力を制御していますので、故障ではありません。

※この Mode を「ON」にすると、パワーコンディショナと監視装置 (パワーモニター) の通信が 5 分以上になった場合、「Ext Comm Fail (外部通信異常)」のエラーメッセージが表示され、パワーコンディショナが停止します。(P.55 参照)

(6) 「Set Point」を選択し ENT キーを押し、▽/△キーで数値を変更します。



(7) Power Limit 画面の項目の内容は下記のとおりです。

本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Mode	機能の動作 / 不動作の設定	OFF	ON/OFF
Set Point	出力制御の調整	100	0 ~ 100%

3.12 その他

■ 監視システム、パワーモニターの接続

監視システム、パワーモニターは、RS-485 を使って接続できます。

監視システム、パワーモニターのマニュアルと「5.4.1 通信モジュールの外し方」、「5.4.2 RS-485 の接続」をご参照ください。

■ 非常停止入力端子 (EPO) の接続と設定

非常停止入力端子 (EPO) は、端子間を短絡している間、パワーコンディショナが停止する設定と端子間を開放している間、パワーコンディショナが停止する 2 つの設定が可能です。

短絡または、開放している間だけ、機能は有効です。

なお、非常停止入力端子 (EPO) の複数台接続は仕様上できません。1 対 1 (例：リレーと EPO は、1 対 1) で接続してください。

また、非常停止入力端子 (EPO) を使用し、パワーコンディショナが停止した場合、設定に関係なく自動復帰となります。

「5.4.3 非常停止入力端子 (EPO) & デジタル入力端子」と「6.2.8.9 EPO 非常停止入力端子設定」をご参照ください。

■ 無電圧接点 (Dry Contact) の接続と設定

無電圧接点 (Dry Contact) は、Dry Contact 1、Dry Contact 2 の端子があり、それぞれ設定が可能です。

ファン異常 / 系統連系 / 絶縁異常 / エラー / フォルト / ワーニング / アラーム / 機能 OFF の 8 つのモードがそれぞれ設定可能です。

「5.4.4 無電圧接点 (Dry Contact) の接続」と「6.2.8.7 Dry Contact 無電圧接点の設定」をご参照ください。

■ 絶縁耐圧試験を実施する際の注意

パワーコンディショナ絶縁耐圧試験を行う場合、下記のことにご注意してください。

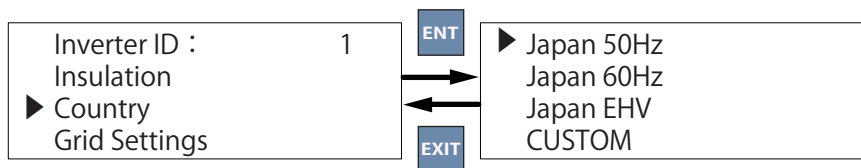
- ・印加電圧は、最大 DC1500V までです。AC 印加はしないでください。
- ・測定前に必ず SPD を外してください。(外し方は、「7.1 サージ保護装置 (SPD) の交換」をご参照ください。)

■ OVGR 端子について

本機には、OVGR の端子はありません。キュービクル内で LBS やトリップ付きブレーカーに接続することを推奨しています。

3.13 Japan EHV 特別高圧

特別高圧連系の発電所において、受変電設備に系統保護機能が備わっている場合は、電力会社、主任技術者などにご相談の上、国設定で Japan EHV を選択することが可能です。



Japan EHVを選択した場合、電圧、周波数などの初期値が変更になります。また、単独運転機能がOFFになります。保護機能の初期値は下表のとおりです。

設定項目		本体表示	設定内容	初期値	設定範囲
Voltage Protection	OVR (過電圧)	High Off * ¹	OVR の感度を設定	521.0V	286.0~528.0V (ステップ：0.1)
		High On	OVR の感度 -8V の値を設定	512.0V	
	OVR 時限	High Off T	OVR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	UVR (不足電圧)	Low Off * ¹	UVR の感度を設定	310.0V	286.0~528.0V (ステップ：0.1)
		Low On	UVR の感度 +8V の値を設定	318.0V	
UVR 時限	Low Off T	UVR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)	
Freq. Protection	OFR (周波数上昇)	High Off * ¹	OFR の感度を設定	63.00Hz	45.00~65.00Hz (ステップ：0.01)
		High On	OFR の感度 -0.05Hz の値を設定	62.95Hz	
	OFR 時限	High Off T	OFR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)
	UFR (周波数低下)	Low Off * ¹	UFR の感度を設定	45.50Hz	45.00~65.00Hz (ステップ：0.01)
		Low On	UFR の感度 +0.05Hz の値を設定	45.55Hz	
UFR 時限	Low Off T	UFR の時限を設定	1.0s	0.0 ~ 5.0 秒 (ステップ：0.1)	
P(V)	電圧上昇抑制 (有効電力制御)	Mode* ²	機能の動作 / 不動作の設定	ON	ON / OFF
		P lock-in	出力制御開始出力 初期値のまま使用してください。	55%	10 ~ 100% (ステップ：1)
		P lock-out	出力制御レベル 初期値のまま使用してください。	50%	0 ~ 50% (ステップ：1)
		V lock-in	出力制御開始電圧	492.8V	398.4 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
		V lock-out	出力制御停止電圧	484.0V	358.5 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
		T recovery	連系保護リレー復帰時間を設定	10s	10 ~ 900 秒 (ステップ：1)
Q(V)	電圧上昇抑制 (進相無効電力制御)	Mode* ³	機能の動作 / 不動作の設定 (Curve B は使わないでください。)	Curve A	Curve A / Curve B / OFF
		V1s	進相無効電力注入開始電圧	470.8V	381.1 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
		V2s	進相無効電力最大注入電圧 V Lock-in の値を設定します。	492.8V	381.1 ~ 506.0V (ステップ：0.1)
		Qs limit	V2s 時の進相無効電力 (85%) * ⁴	Ind 52	0 ~ Ind63 (ステップ：1)
Anti-islanding	単独運転検出機能	Anti-islanding	能動 / 受動方式を切ります。	OFF	固定

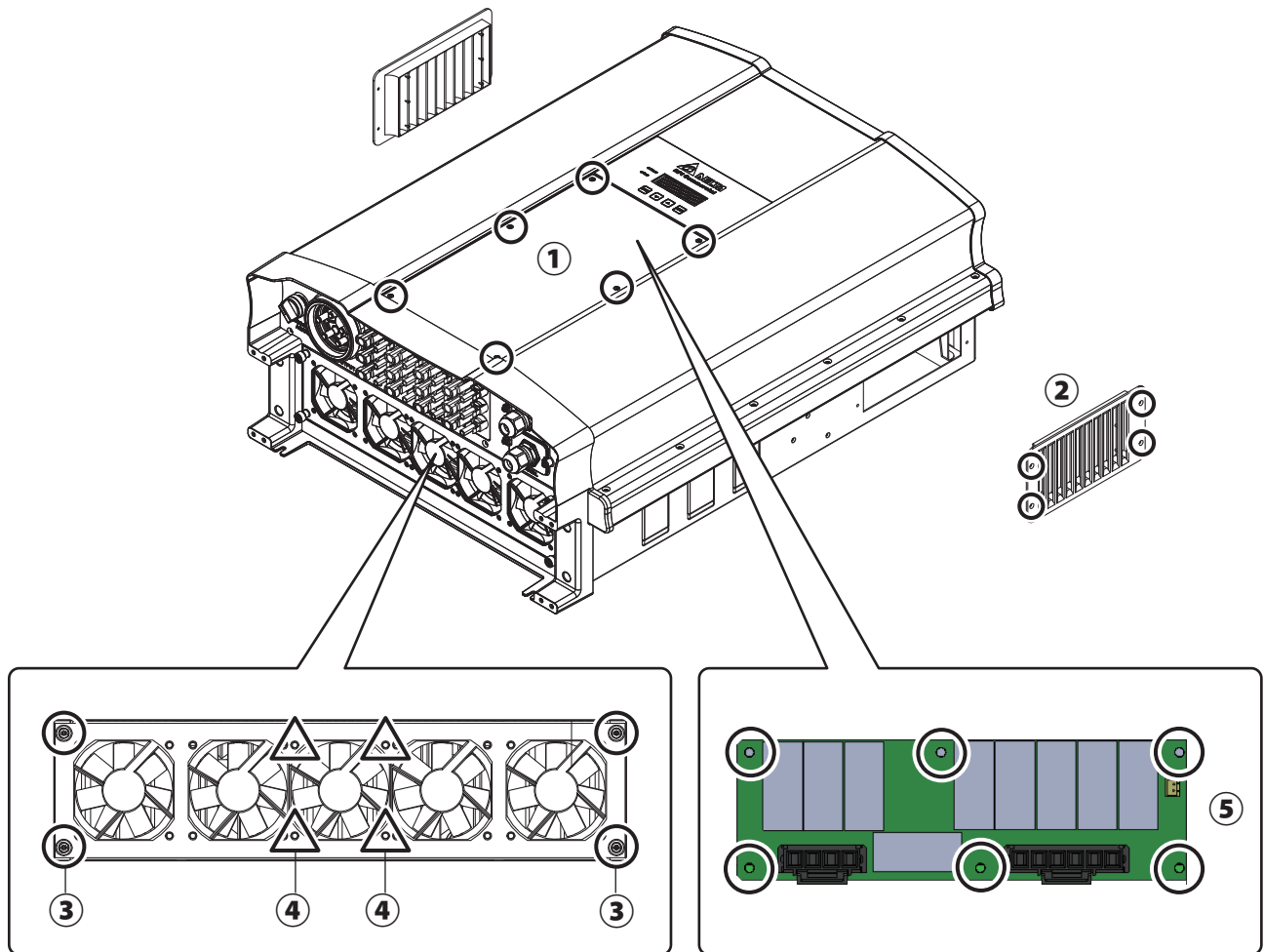
*¹ High Off、Low Off を設定したとき、エラーメッセージや設定値が元に戻る場合、先に High On、Low On を行ってください。

*² 電力会社から有効電力の電圧上昇抑制の指示がない場合は、Mode を OFF にしてください。

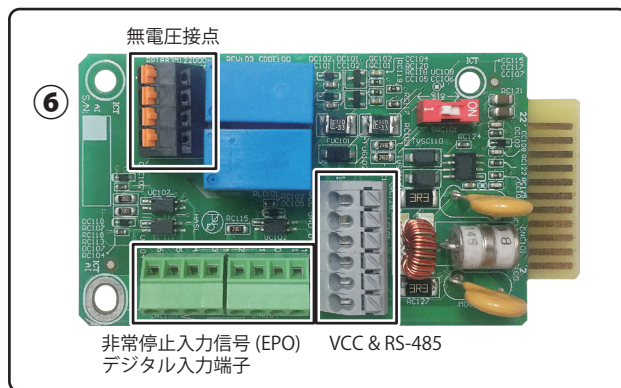
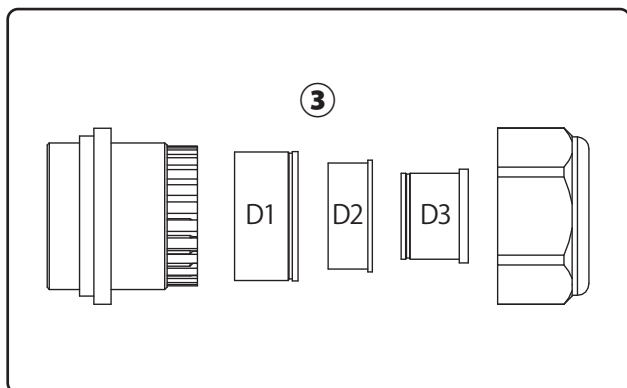
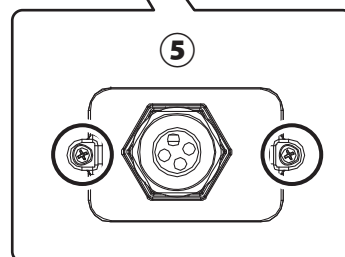
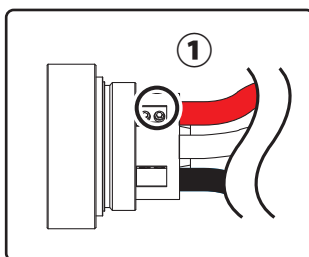
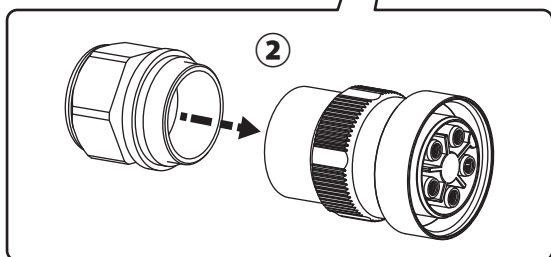
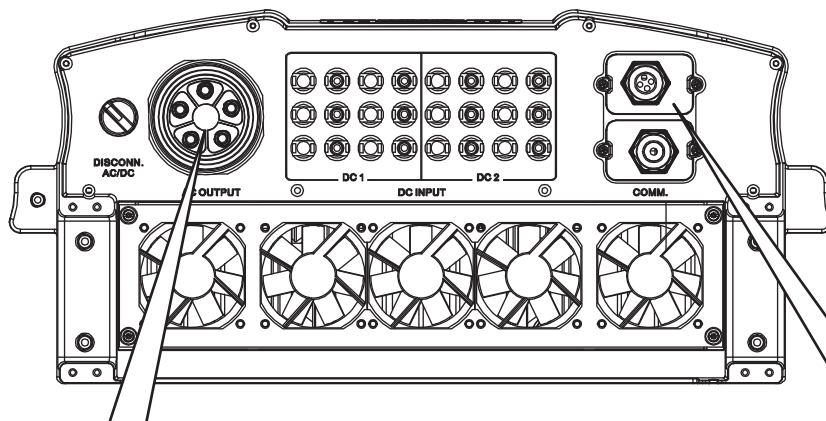
*³ Mode で CurveA を選択すると「Constant Cosphi (力率一定制御)」が OFF になります。同時には使用できません。

*⁴ 電力会社からの指定が無い場合は、初期値のままお使いください。初期値 Ind52 は、力率 85%を意味します。

4. 締め付けトルク、ケーブルサイズ表



項目	位置	ネジトルク
1	前面カバー	10 Kgf・cm (1N・m)
2	フィルター	8 Kgf・cm (0.8N・m)
3	ファンブラケットボルト	8 Kgf・cm (0.8N・m)
4	ファンネジ	8 Kgf・cm (0.8N・m)
5	SPD モジュール	8 Kgf・cm (0.8N・m)



項目	位置	ネジトルク	ケーブル
1	AC ケーブル	30.6 Kgf-cm (3N・m)	3 ~ 1AWG (25 ~ 38mm ²)
2	AC プラグ	60 ~ 80 kgf-cm (5.9 ~ 7.8N・m)	--
3	パッキン	D1: 66 ~ 204 Kgf-cm (6.5 ~ 20N・m) D2: 112 ~ 173 Kgf-cm (11 ~ 17N・m) D3: 133 ~ 143 Kgf-cm (13 ~ 14N・m)	--
4	DC コネクター	--	12 AWG (3.5 ~ 6mm ²)
5	通信カバー	8 Kgf-cm (0.8N・m)	--
6	通信モジュール	RS-485 端子	--
		EPO	--
		無電圧接点	--
			φ 0.6 ~ 0.8 mm (0.3 ~ 0.5mm ²)
			φ 0.5 ~ 1 mm (0.2 ~ 1.5mm ²)

■ 技術的なお問い合わせ先

デルタ電子株式会社
エネルギーインフラ営業本部
エネルギーソリューション部
〒553-0003 大阪市福島区福島 5-9-6
TEL 0570-550-065 (パワーコンディショナお問い合わせ窓口)

●修理・工事などのご相談・お問い合わせは、お買い求めの販売店・工事店へ。

